

I. 工事概要

Table with 3 columns: 1. 工事場所 (青森市中央一丁目), 2. 敷地面積 (3829.24㎡), 3. 工事種目 (機械棟 S造 2階建 新築 1棟, etc.)

4. 指定部分 ・有 ・無 対象部分 (指定部分工期 年 月 日)

5. 工事範囲 ※「3. 工事種目」すべてを工事範囲とする。 「3. 工事種目」のうち 〇の工事範囲は下記のとおりとする。

II. 建築工事仕様

- (1) 図面及び本特記仕様に記載されていない事項は、国土交通大臣官房官庁営繕部制定の「公共建築工事標準仕様書(建築工事編) 令和4年版」(以下「標準仕様書」という。)...
(2) 電気設備工事及び機械設備工事を本工事に含む場合は、電気設備工事及び機械設備工事はそれぞれの特記仕様書を使用する。...
(3) 本特記仕様書の表記
1) 項目は、〇印の付いたものを適用する。
2) 特記事項は、◎印の付いたものを適用する。
3) 特記事項に記載の()内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
4) ☒印は、「国等による環境物品等の調達推進に関する法律(平成12年法律第100号)」に基づく「環境物品等の調達の推進に関する基本方針(令和4年2月25日変更閣議決定)」に定める特定調達物品における判断の基準(特定調達品目「公共工事」においては表1中の品目ごとの判断の基準)を満たすものを示す。

章 項目 特記事項

Main specification table with 3 columns: 1. 各章共通事項 (環境への配慮, 材料の品質等), 2. 仮設工事 (足場等), 3. 土工事 (埋戻し及び盛土), 4. 土工事 (特記仕様書(構造関係)による)

8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事

- ・補強コンクリートブロック造
・コンクリートブロック塀及び塀
・ALCパネル

◎押出成形セメント板(ECP)

Technical tables for Block types (コンクリートブロック, ALCパネル), Mortar (モルタル), and ECP (押出成形セメント板), including material specifications and application methods.

9 防水工事

◎アスファルト防水

Tables for waterproofing specifications, including roof waterproofing (屋根保護防水), exterior waterproofing (屋根露出防水), and interior waterproofing (屋内防水).

11
タイル工事

・伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地
・図示による
目地寸法
・図示による

・見本焼き
試験施工

・セメントモルタルによるタイル張り

・有機系接着剤によるタイル張り

位置 (11.1.3) (表11.1.1)

※標準仕様書表11.1.1による
・図示による

見本焼き (11.1.4)
・行う(施工箇所:) ・行わない
試験張り
・行う(範囲、仕様等は図示による) ・行わない

タイルの形状、寸法等 (11.2.2.6)

施工箇所	形状/寸法(mm)	再生材料の適用	吸水率による区分	凹凸	役物	色	耐凍害性	耐滑り性
			I類 II類 III類	あり 無し	有 無	標準 特注	有 無	有 無

備考欄: 参照タイルシリーズ

標準的な曲がりの役物は一体成形とする。

既調合モルタル (品質・性能、試験方法は別表による)
モルタル下地としたタイル工事に使用する強付用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を定め工場において所定の割合に配合した材料とする。

既調合目地材 (品質・性能、試験方法は別表による)

下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の地下処理
※目貫し工法 (高圧水洗処理)
・MCR工法

壁タイル張りの工法
内外装タイル
・密着張り
・改良接着張り
内装タイル以外のユニットタイル
・マスク張り
・モザイクタイル張り

タイルの形状、寸法等 (11.3.2~5)

施工箇所	形状/寸法(mm)	再生材料の適用	吸水率による区分	凹凸	役物	色	耐凍害性	耐滑り性
			I類 II類 III類	あり 無し	有 無	標準 特注	有 無	有 無

備考欄: 参照タイルシリーズ

標準的な曲がりの役物は一体成形とする

内装タイル接着剤張りの接着剤のホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆
目地のシーリング材
打継ぎ目地
※ポリウレタン系シーリング材
ひび割れ誘発目地
※ポリウレタン系シーリング材
伸縮調整目地及びその他の目地
※変成シリコン系シーリング材
下地調整塗材塗りを行うコンクリート素地面の地下処理
※目貫し工法 (高圧水洗処理)
・MCR工法
外装タイルの目地詰め
・行う ・行わない

・造作用集材材

・「集材材の日本農林規格」による造作用集材材 (12.2.1)

施工箇所	品名	樹種名	寸法(mm)	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
					※1等・2等	・

・「集材材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集材材

施工箇所	品名	化粧材名	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
		化粧薄板: 芯材:				※15%以下	・

・「集材材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集材材

施工箇所	材種名	寸法(mm)	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
				※15%以下	・

・「集材材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集材材

施工箇所	材種名	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
	化粧薄板: 芯材:				※15%以下	・

・JAS 0701 に基づく造作用単板積層材 (12.2.1)

施工箇所	品名	寸法(mm)	表面の品質	防虫処理	間伐材等の適用
				・適用する ・適用しない	・

・JAS 0701 以外の造作用単板積層材

施工箇所	寸法(mm)	表面の品質	含水率	防虫処理	間伐材等の適用
			※14%以下	・適用する ・適用しない	・

・合板等

・JAS 3079 に基づく直交集成板

施工箇所	品名	強度等級	種別	接着性能(使用環境)	樹種名	寸法(mm)	間伐材等の適用
							・

・「合板の日本農林規格」による普通合板 (12.2.1)

施工箇所	厚さ(mm)	単板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理	間伐材等の適用
	※5.5		※1類・2類	広葉樹 ※2等以上 ・1等 針葉樹 ※C-D以上	・適用する ・適用しない	・

・「合板の日本農林規格」による構造用合板

施工箇所	等級	単板の樹種名	接着の程度	板面の品質	厚さ(mm)	防虫処理	強度等級	間伐材等の適用
	※2級以上・1級		※1類・特類	※C-D以上	※12	・適用する ・適用しない	・	・

・「合板の日本農林規格」による化粧ばり構造用合板

施工箇所	厚さ(mm)	単板の樹種名	接着の程度	防虫処理	強度等級	間伐材等の適用
			・1類・特類	・適用する ・適用しない	・	・

・「合板の日本農林規格」による天然木化粧合板

施工箇所	化粧材に使用する単板の樹種名	厚さ(mm)	接着の程度	防虫処理
			・1類・2類	・適用する ・適用しない

・「合板の日本農林規格」による特殊加工化粧合板

施工箇所	厚さ(mm)	接着の程度	単板の樹種名	化粧加工の方法	防虫処理
		・1類・2類			・適用する ・適用しない

・パーティクルボード

施工箇所	表面面の状態による区分	曲げ強さによる区分	耐水性による区分	難燃性による区分	厚さ(mm)
		※13タイプ	※又はM		※15

・JAS 0360 に基づく構造用パネル

施工箇所	寸法(mm)

・MDF

施工箇所	厚さ(mm)	表面面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分

・接合具等

造作材の化粧面の釘打ち
※隠し釘打ち
・釘頭埋め木
・つぶし頭釘打ち
・釘頭現し

・接合具等 (12.2.2)

・接着剤

接着剤のホルムアルデヒドの放散量
※F☆☆☆☆ (12.2.2.3)

・防虫・防蟻処理 (12.3.1.2)

防虫・防蟻処理を省略できる樹種による製材
適用部位: ()

・薬剤の加圧注入による防蟻・防蟻処理

適用部位	薬剤の種類
・K2 ・K3 ・K4	※薬剤の製造所の仕様による
・K2 ・K3 ・K4	※JIS K 1571に適合又は同等品

・薬剤の塗布等による防蟻・防蟻処理

適用部位	処理の方法	薬剤の種類
	※薬剤の製造所の仕様による	※JIS K 1571に適合又は同等品

・薬剤の接着材への注入による防蟻・防蟻処理
適用部位: ()
・合板等の加圧注入処理の適用
適用部位: ()

・内部間仕切軸組及び床組み (12.4.1)
・間仕切軸組に用いる木材の樹種名 (製材を用いる場合)
※杉又は松
・床組みに用いる木材の樹種名 (製材を用いる場合)
※杉又は松

・窓、出入口その他 (12.5.1)
・窓、出入口その他に用いる木材の樹種名 (製材を用いる場合)
※吊元枠、水掛りの下枠及び敷居はひのき、その他は松又は杉

・床板張り (12.6.1)
・縁甲板及び上がりかまちに用いる木材の樹種名 (製材を用いる場合)
※ひのき

・壁及び天井下地 (12.7.1)
・壁網緑、野縁受棟、野縁及び吊木に用いる木材の樹種名 (製材を用いる場合)
※杉又は松

・長尺金属板葺 (13.2.2.3)

施工箇所	板及び材の種類	塗膜の耐久性の種類、めつき付着量	厚さ(mm)	屋根葺形式	備考
	※JIS G 3322のxsm1.19:用(着色・有)	・5類 (AZ150)	xsm1.19:0.4 ・0.5	・心木なし瓦葺 ・立平葺 ・横掛葺 ・横葺	

下葺材料
・アスファルトルーフィング 940
・改質アスファルトルーフィング下葺材 (一般タイプ・接層基材タイプ・粘着層付タイプ)
横葺きの場合のけらば納め
・つかみ込み納め
・けらば包み納め

工法
1章 適用区分による風圧力の(・1・1.15・1.3)倍の風圧力に対応した工法
雪止め
・設置する (形状及び施工箇所・図示による)
・設置しない

・折板葺 (13.2.2) (13.3.2.) (表13.2.1)

施工箇所	形式	山高、山ピッチによる区分	耐力による区分	材料による区分	厚さ(mm)	軒先面戸板	耐火性能
	・重ね形 ・はげ締め形 ・かな合形	山高、山ピッチ 山高、山ピッチ	()種	※鋼板製 ・75以上 合金板製	・有り ・無し	・無し	・無し

材料
折板の材質の種類 (※JIS G 3302の屋根用(着色・有))
塗膜の耐久性の種類、めつき付着量 (・5類(AZ150))
断熱材張り
・行う (断熱材の種類: 厚さ(mm): 防火性能:)
・行わない

工法
1章 適用区分による風圧力の(・1・1.15・1.3)倍の風圧力に対応した工法
耐衝撃性に対応した工法の適用
・適用する
・適用しない
折板のけらば納め
※けらば包みによる方法
雪止め
・設置する (形状及び施工箇所・図示による)
・設置しない

・粘土瓦葺 (13.4.2.3)

施工箇所	種類			産地	役物瓦の種類	雪止め瓦
	製法による区分	形状による区分	寸法による区分			
						・適用する ・適用しない ・適用する ・適用しない

機瓦の防災瓦の使用
・適用する
・適用しない
JIS A5208に基づく凍害試験等
・行う
・行わない

	<p>こまい壁塗りの上塗りとする土物仕上げの工法の種類</p> <ul style="list-style-type: none"> 土物仕上げ工法 水ごね土物1工法 水ごね土物2工法 のりさし土物工法 のりごね土物工法 砂壁仕上げ工法 切返し仕上げ工法 <p>こまい壁塗りの上塗りとする大津仕上げの工法の種類</p> <ul style="list-style-type: none"> 普通大津仕上げ工法 大津みがき仕上げ工法 ちりやくり 図示による 			<p>材料</p> <p>ステンレス鋼板</p> <p>※SUS304、SUS430J1L、又はSUS443J1</p> <p>・</p> <p>ステンレス製のくつずりの仕上げ</p> <p>※HL</p> <p>形状及び仕上げ</p> <p>表面色 ・標準色 ・特注色</p> <p>工法</p> <p>水切り板、ぜん板 ※図示による</p> <p>木下地の場合の内付け建具 ・適用しない ・適用する</p>	<p>・ 自動ドア開閉装置</p> <p>戸の開閉方式 (16.9.2、3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 建具表による ・ 引き戸用駆動装置 <p>性能値</p> <p>※標準仕様書表16.9.1 (防錆 ・適用する ・適用しない)</p> <p>・以下による</p> <p>種類・開閉方式 () ()</p> <p>耐電圧 () ()</p> <p>温度上昇 () ()</p> <p>耐久性(サイクル) () ()</p> <p>防錆 () ()</p> <p>電源 () ()</p> <p>・車椅子使用者用扉出入り口引き戸用駆動装置</p> <p>性能値</p> <p>※標準仕様書表16.9.2 (防錆 ・適用する ・適用しない)</p> <p>・以下による</p> <p>耐電圧 () ()</p> <p>温度上昇 () ()</p> <p>耐久性(サイクル) () ()</p> <p>防錆 () ()</p> <p>電源 () ()</p> <p>・引き戸用検出装置</p> <p>性能値</p> <p>※標準仕様書表16.9.3 (防錆 ・適用する ・適用しない)</p> <p>・以下による</p> <p>耐電圧 () ()</p> <p>防錆 () ()</p> <p>防滴 () ()</p> <p>電源 () ()</p>																																																	
<p>16 建具工事</p>	<p>・ 防火戸 (16.1.3)</p> <p>・ 見本の製作等 (16.1.4)</p> <p>・ 防火建物部品 (16.1.6)</p> <p>・ アルミニウム製建具 (16.2.2、4、5) (表14.2.1) (表16.2.1、2)</p> <p>性能値等 (16.2.2、4、5) (表14.2.1) (表16.2.1、2)</p> <p>耐風圧性の等級 (S-5) (建具符号 ・ 建具表による)</p> <p>気密性の等級 (A-4) (建具符号 ・ 建具表による)</p> <p>水密性の等級 (W-5) (建具符号 ・ 建具表による)</p> <p>外部に面する建具の種類</p> <p>・ A種 (建具符号 ・ 建具表による)</p> <p>・ B種 (建具符号 ・ 建具表による)</p> <p>・ C種 (建具符号 ・ 建具表による)</p> <p>・ D種 (建具符号 ・ 建具表による)</p> <p>・ E種 (建具符号 ・ 建具表による)</p> <p>枠の見込み寸法 (建具表による)</p> <p>防音ドア・防音サッシ</p> <p>遮音性の等級 () (建具符号 ・ 建具表による)</p> <p>断熱ドア・断熱サッシ () (建具符号 ・ 建具表による)</p> <p>断熱性の等級 () (建具符号 ・ 建具表による)</p> <p>材料</p> <p>ステンレス鋼板</p> <p>※SUS304、SUS430J1L、又はSUS443J1</p> <p>ステンレス製のくつずりの仕上げ</p> <p>※HL</p> <p>形状及び仕上げ</p> <p>表面処理</p> <p>外部に面する建具</p> <p>種別</p> <p>・ BB-1 (標準仕様書表14.2.1)</p> <p>着色</p> <p>標準色 ・ 特注色</p> <p>屋内の建具</p> <p>種別</p> <p>・ BC-1 (標準仕様書表14.2.1)</p> <p>着色</p> <p>標準色 ・ 特注色</p> <p>結露水の処理方法</p> <p>水貯め式 ・ 排水式</p> <p>工法</p> <p>水切り板、ぜん板</p> <p>※図示による</p> <p>木下地の場合の内付け建具</p> <p>・ 適用しない ・ 適用する</p> <p>・ 網戸等 (16.2.3)</p> <table border="1" data-bbox="281 1449 771 1554"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>材質</th> <th>線径</th> <th>網目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 防虫網</td> <td>※合成樹脂製 ・ ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ ステンレス(SUS316)製</td> <td>※0.25mm以上</td> <td>※16~18メッシュ</td> </tr> <tr> <td>・ 防鳥網</td> <td>ステンレス(SUS304)線材</td> <td>1.5mm</td> <td>網目寸法15mm</td> </tr> </tbody> </table> <p>・ 樹脂製建具 (16.2.5) (16.3.2~5) (表16.3.1~3)</p> <p>性能値等 (16.2.5) (16.3.2~5) (表16.3.1~3)</p> <p>耐風圧性の等級 ()</p> <p>気密性の等級 ()</p> <p>水密性の等級 ()</p> <p>外部に面する建具の種類</p> <p>・ A種 (建具符号 ・ 建具表による)</p> <p>・ B種 (建具符号 ・ 建具表による)</p> <p>・ C種 (建具符号 ・ 建具表による)</p> <p>・ D種 (建具符号 ・ 建具表による)</p> <p>・ E種 (建具符号 ・ 建具表による)</p> <p>防音ドア・防音サッシ</p> <p>遮音性の等級 (T-1 T-2) (建具符号 ・ 建具表による)</p> <p>断熱ドア・断熱サッシ () (建具符号 ・ 建具表による)</p> <p>断熱性の等級 (H-4 H-5 H-6 H-7 H-8) (建具符号 ・ 建具表による)</p> <p>外部に面する建具の日射熱取得性の等級</p> <p>枠の見込み寸法 ・ 建具表による</p>	種類	材質	線径	網目	・ 防虫網	※合成樹脂製 ・ ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ ステンレス(SUS316)製	※0.25mm以上	※16~18メッシュ	・ 防鳥網	ステンレス(SUS304)線材	1.5mm	網目寸法15mm	<p>・ 鋼製建具 (16.2.2) (16.4.2~4) (16.4.6) (表16.4.2)</p> <p>性能値等 (16.2.2) (16.4.2~4) (16.4.6) (表16.4.2)</p> <p>簡易気密型ドアセット</p> <p>・ 適用する (建具符号 ・ 建具表による)</p> <p>・ 適用しない</p> <p>外部に面する建具の耐風圧性</p> <p>耐風圧性の等級 (S-5) (建具符号 ・ 建具表による)</p> <p>防音ドア・防音サッシ</p> <p>遮音性の等級 () (建具符号 ・ 建具表による)</p> <p>断熱ドア・断熱サッシ () (建具符号 ・ 建具表による)</p> <p>断熱性の等級 () (建具符号 ・ 建具表による)</p> <p>耐震性能</p> <p>建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による</p> <p>材料</p> <p>ステンレス鋼板</p> <p>※SUS304、SUS430J1L、又はSUS443J1</p> <p>ステンレス製のくつずりの仕上げ</p> <p>※HL</p> <p>形状及び仕上げ</p> <p>鋼板の厚さ</p> <p>※標準仕様書表16.4.2による</p> <p>使用箇所 ()</p> <p>標準型鋼製建具の形式及び寸法</p> <p>※建具表による</p> <p>性能値等 (16.2.2) (16.5.2~4) (16.5.6) (表16.5.1)</p> <p>簡易気密型ドアセット</p> <p>・ 適用する (建具符号 ・ 建具表による)</p> <p>・ 適用しない</p> <p>防音ドア・防音サッシ</p> <p>遮音性の等級 () (建具符号 ・ 建具表による)</p> <p>断熱ドア・断熱サッシ () (建具符号 ・ 建具表による)</p> <p>断熱性の等級 () (建具符号 ・ 建具表による)</p> <p>耐震性能</p> <p>建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による</p> <p>材料</p> <p>鋼板</p> <p>・ 亜鉛めっき鋼板</p> <p>・ ビニル被覆鋼板</p> <p>・ カラー鋼板</p> <p>・ ステンレス鋼板</p> <p>ステンレス鋼板</p> <p>※SUS304、SUS430J1L、又はSUS443J1</p> <p>召合わせ、縦小口包み板の材質</p> <p>※鋼板</p> <p>ステンレス製のくつずりの仕上げ</p> <p>※HL</p> <p>形状及び仕上げ</p> <p>鋼板の厚さ (mm)</p> <p>※標準仕様書表16.5.1による</p> <p>使用箇所 ()</p> <p>標準型鋼製軽量建具の形式及び寸法</p> <p>※建具表による</p> <p>性能値等 (16.2.2) (16.4.2) (16.6.2~5)</p> <p>簡易気密型ドアセット</p> <p>・ 適用する (建具符号 ・ 建具表による)</p> <p>・ 適用しない</p> <p>外部に面する建具の耐風圧性</p> <p>耐風圧性の等級 () (建具符号 ・ 建具表による)</p> <p>防音ドア・防音サッシ</p> <p>遮音性の等級 () (建具符号 ・ 建具表による)</p> <p>断熱ドア・断熱サッシ () (建具符号 ・ 建具表による)</p> <p>断熱性の等級 () (建具符号 ・ 建具表による)</p> <p>耐震性能</p> <p>建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による。</p> <p>・ 木製建具 (16.7.2~4)</p> <p>建具材の加工、組立時の含水率 (16.7.2~4)</p> <p>※A種</p> <p>建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量</p> <p>※F☆☆☆☆</p> <p>・ フラッシュ戸</p> <p>表面材のホルムアルデヒド放散量等</p> <p>※標準仕様書表16.7.2(2)(4)(a)による</p> <p>表面材の合板の種類</p> <table border="1" data-bbox="1676 514 2166 766"> <thead> <tr> <th>合板の種類</th> <th>規格等</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 普通合板 ()</td> <td>表面の樹種 ・ 板面の品質 (※広葉樹1等) 接着の程度 (・1類 ・2類)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 天然木 化粧合板 ()</td> <td>樹種名 () 接着の程度 (・1類 ・2類) 化粧加工の方法 ※プリント ・ ポリエステル化粧合板 ・ メラミン化粧合板</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 特殊加工 化粧合板 ()</td> <td>接着の程度 (・1類 ・2類)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・ MDF ()</p> <p>表面板の厚さ</p> <p>※表16.7.6による</p> <p>引戸の召合せかまちのいんろう付きの適用</p> <p>・ 適用しない ・ 適用する</p> <p>・ かまち戸</p> <p>かまち樹種 () 鏡板樹種 ()</p> <p>見込み寸法 ※36mm ・ 建具表による</p> <p>・ ふすま</p> <p>張りの種別 (・I型 ・II型)</p> <p>上張り (押入等の裏側以外)</p> <p>・ 鳥の子</p> <p>・ 新鳥の子又はビニル紙程度</p> <p>縁仕上げ</p> <p>・ 塗り縁</p> <p>・ 生地縁 (素地)</p> <p>・ 生地縁 (ウレタンクリヤー塗装)</p> <p>見込み寸法 ※19.5mm ・ 建具表による</p> <p>・ 戸ぶすま</p> <p>表面板の仕上 ・ 建具表による</p> <p>見込み寸法 ※30mm ・ 建具表による</p> <p>・ 紙張り障子</p> <p>見込み寸法 ※30mm ・ 建具表による</p> <p>枠、くつずりの材料</p> <p>・ 建具表による</p> <p>・ 建具用金物 (16.8.2、3) (表16.8.1~5)</p> <p>金物の種類及び見え掛り部の材質等 (16.8.2、3) (表16.8.1~5)</p> <p>※標準仕様書表16.8.1により適用は建具表による</p> <p>・</p> <p>金属製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ</p> <p>※標準仕様書表16.8.2による</p> <p>・ 建具表による</p> <p>樹脂製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ</p> <p>※標準仕様書表16.8.3による</p> <p>・ 建具表による</p> <p>木製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ</p> <p>※標準仕様書表16.8.4による</p> <p>・ 建具表による</p> <p>木製建具に使用する戸車及びレール</p> <p>※標準仕様書表16.8.5による</p> <p>・ 建具表による</p> <p>握り玉及びレバーハンドル、押板類、クレセントの取付け位置</p> <p>・ 建具表による</p> <p>・</p> <p>シリンダ箱錠及びシリンダ本締めり錠 (品質・性能、試験方法は別表による)</p> <p>クローザ類 (品質・性能、試験方法は別表による)</p> <p>マスターキー (16.8.4)</p> <p>製作する ・ 製作しない</p> <p>鍵の製作本数</p> <p>※各室3本組 (室名札付き)</p> <p>鍵箱</p> <p>※有り ・ 無し</p> <p>・ 自閉式上吊り引戸装置 (16.10.3) (表16.10.1)</p> <p>性能値等 (16.10.3) (表16.10.1)</p> <p>※標準仕様書表16.10.1</p> <p>・以下による</p> <p>手動開き力 () ()</p> <p>手動閉じ力 () ()</p> <p>閉じ速度の調整 () ()</p> <p>制動区間 () ()</p> <p>閉鎖緑返し () ()</p> <p>耐衝撃性 () ()</p> <p>・ 重量シャッター (16.11.2、3)</p> <p>シャッターの種類 (16.11.2、3)</p> <p>・ 管理用シャッター</p> <p>・ 外壁用防火シャッター</p> <p>・ 屋内用防火シャッター</p> <p>・ 防煙シャッター</p> <p>外壁開口部に設ける重量シャッターの耐風圧強度 () pa</p> <p>開閉方式の種類</p> <p>※電動式 (手動併用) ・ 手動式</p> <p>安全装置</p> <p>電動式シャッターの急降下制動装置、急降下停止装置 (設置箇所 ・ 建具表による)</p> <p>電動式シャッターの障害物感知装置 (設置箇所 ・ 建具表による)</p> <p>屋内用防火シャッター若しくは防煙シャッターの危害防止装置 (設置箇所 ・ 建具表による)</p> <p>管理用シャッターのシャッターケース</p> <p>・ 設ける ・ 設けない</p> <p>スラット及びシャッターケース用鋼板</p> <p>鋼板の種類</p> <p>・ JIS G 3302 (溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯)</p> <p>・ JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板鋼帯)</p> <p>めっきの付着量</p> <p>※Z12又はF12</p> <p>・</p> <p>ガイドレール、まぐさ、両掛りに用いる座板及び座板のカバー、両掛りに用いるスイッチ</p> <p>ボックス類のふたの材質</p> <p>ステンレス鋼板</p> <p>※SUS304、SUS430J1L、又はSUS443J1</p> <p>・</p> <p>・ 軽量シャッター (16.12.2~4)</p> <p>開閉方式の種類 (16.12.2~4)</p> <p>※手動式</p> <p>・ 電動式 (手動併用)</p> <p>耐風圧強度 () pa</p> <p>安全装置</p> <p>電動シャッターの障害物感知装置 (設置箇所 ・ 建具表による)</p> <p>スラットの材質の種類</p> <p>・ JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯)</p> <p>めっきの付着量 (※Z06又はF06)</p> <p>・ JIS G 3322 (塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯)</p> <p>めっきの付着量 (※A290)</p> <p>スラットの形状</p> <p>・ インターロック形</p> <p>・ オーバーラッピング形</p>	合板の種類	規格等	備考	・ 普通合板 ()	表面の樹種 ・ 板面の品質 (※広葉樹1等) 接着の程度 (・1類 ・2類)		・ 天然木 化粧合板 ()	樹種名 () 接着の程度 (・1類 ・2類) 化粧加工の方法 ※プリント ・ ポリエステル化粧合板 ・ メラミン化粧合板		・ 特殊加工 化粧合板 ()	接着の程度 (・1類 ・2類)		<p>・ 木製建具 (16.7.2~4)</p> <p>建具材の加工、組立時の含水率 (16.7.2~4)</p> <p>※A種</p> <p>建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量</p> <p>※F☆☆☆☆</p> <p>・ フラッシュ戸</p> <p>表面材のホルムアルデヒド放散量等</p> <p>※標準仕様書表16.7.2(2)(4)(a)による</p> <p>表面材の合板の種類</p> <table border="1" data-bbox="1676 514 2166 766"> <thead> <tr> <th>合板の種類</th> <th>規格等</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 普通合板 ()</td> <td>表面の樹種 ・ 板面の品質 (※広葉樹1等) 接着の程度 (・1類 ・2類)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 天然木 化粧合板 ()</td> <td>樹種名 () 接着の程度 (・1類 ・2類) 化粧加工の方法 ※プリント ・ ポリエステル化粧合板 ・ メラミン化粧合板</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 特殊加工 化粧合板 ()</td> <td>接着の程度 (・1類 ・2類)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・ MDF ()</p> <p>表面板の厚さ</p> <p>※表16.7.6による</p> <p>引戸の召合せかまちのいんろう付きの適用</p> <p>・ 適用しない ・ 適用する</p> <p>・ かまち戸</p> <p>かまち樹種 () 鏡板樹種 ()</p> <p>見込み寸法 ※36mm ・ 建具表による</p> <p>・ ふすま</p> <p>張りの種別 (・I型 ・II型)</p> <p>上張り (押入等の裏側以外)</p> <p>・ 鳥の子</p> <p>・ 新鳥の子又はビニル紙程度</p> <p>縁仕上げ</p> <p>・ 塗り縁</p> <p>・ 生地縁 (素地)</p> <p>・ 生地縁 (ウレタンクリヤー塗装)</p> <p>見込み寸法 ※19.5mm ・ 建具表による</p> <p>・ 戸ぶすま</p> <p>表面板の仕上 ・ 建具表による</p> <p>見込み寸法 ※30mm ・ 建具表による</p> <p>・ 紙張り障子</p> <p>見込み寸法 ※30mm ・ 建具表による</p> <p>枠、くつずりの材料</p> <p>・ 建具表による</p> <p>・ 建具用金物 (16.8.2、3) (表16.8.1~5)</p> <p>金物の種類及び見え掛り部の材質等 (16.8.2、3) (表16.8.1~5)</p> <p>※標準仕様書表16.8.1により適用は建具表による</p> <p>・</p> <p>金属製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ</p> <p>※標準仕様書表16.8.2による</p> <p>・ 建具表による</p> <p>樹脂製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ</p> <p>※標準仕様書表16.8.3による</p> <p>・ 建具表による</p> <p>木製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ</p> <p>※標準仕様書表16.8.4による</p> <p>・ 建具表による</p> <p>木製建具に使用する戸車及びレール</p> <p>※標準仕様書表16.8.5による</p> <p>・ 建具表による</p> <p>握り玉及びレバーハンドル、押板類、クレセントの取付け位置</p> <p>・ 建具表による</p> <p>・</p> <p>シリンダ箱錠及びシリンダ本締めり錠 (品質・性能、試験方法は別表による)</p> <p>クローザ類 (品質・性能、試験方法は別表による)</p> <p>マスターキー (16.8.4)</p> <p>製作する ・ 製作しない</p> <p>鍵の製作本数</p> <p>※各室3本組 (室名札付き)</p> <p>鍵箱</p> <p>※有り ・ 無し</p>	合板の種類	規格等	備考	・ 普通合板 ()	表面の樹種 ・ 板面の品質 (※広葉樹1等) 接着の程度 (・1類 ・2類)		・ 天然木 化粧合板 ()	樹種名 () 接着の程度 (・1類 ・2類) 化粧加工の方法 ※プリント ・ ポリエステル化粧合板 ・ メラミン化粧合板		・ 特殊加工 化粧合板 ()	接着の程度 (・1類 ・2類)		<p>・ 木製建具 (16.7.2~4)</p> <p>建具材の加工、組立時の含水率 (16.7.2~4)</p> <p>※A種</p> <p>建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量</p> <p>※F☆☆☆☆</p> <p>・ フラッシュ戸</p> <p>表面材のホルムアルデヒド放散量等</p> <p>※標準仕様書表16.7.2(2)(4)(a)による</p> <p>表面材の合板の種類</p> <table border="1" data-bbox="1676 514 2166 766"> <thead> <tr> <th>合板の種類</th> <th>規格等</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 普通合板 ()</td> <td>表面の樹種 ・ 板面の品質 (※広葉樹1等) 接着の程度 (・1類 ・2類)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 天然木 化粧合板 ()</td> <td>樹種名 () 接着の程度 (・1類 ・2類) 化粧加工の方法 ※プリント ・ ポリエステル化粧合板 ・ メラミン化粧合板</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 特殊加工 化粧合板 ()</td> <td>接着の程度 (・1類 ・2類)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・ MDF ()</p> <p>表面板の厚さ</p> <p>※表16.7.6による</p> <p>引戸の召合せかまちのいんろう付きの適用</p> <p>・ 適用しない ・ 適用する</p> <p>・ かまち戸</p> <p>かまち樹種 () 鏡板樹種 ()</p> <p>見込み寸法 ※36mm ・ 建具表による</p> <p>・ ふすま</p> <p>張りの種別 (・I型 ・II型)</p> <p>上張り (押入等の裏側以外)</p> <p>・ 鳥の子</p> <p>・ 新鳥の子又はビニル紙程度</p> <p>縁仕上げ</p> <p>・ 塗り縁</p> <p>・ 生地縁 (素地)</p> <p>・ 生地縁 (ウレタンクリヤー塗装)</p> <p>見込み寸法 ※19.5mm ・ 建具表による</p> <p>・ 戸ぶすま</p> <p>表面板の仕上 ・ 建具表による</p> <p>見込み寸法 ※30mm ・ 建具表による</p> <p>・ 紙張り障子</p> <p>見込み寸法 ※30mm ・ 建具表による</p> <p>枠、くつずりの材料</p> <p>・ 建具表による</p> <p>・ 建具用金物 (16.8.2、3) (表16.8.1~5)</p> <p>金物の種類及び見え掛り部の材質等 (16.8.2、3) (表16.8.1~5)</p> <p>※標準仕様書表16.8.1により適用は建具表による</p> <p>・</p> <p>金属製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ</p> <p>※標準仕様書表16.8.2による</p> <p>・ 建具表による</p> <p>樹脂製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ</p> <p>※標準仕様書表16.8.3による</p> <p>・ 建具表による</p> <p>木製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ</p> <p>※標準仕様書表16.8.4による</p> <p>・ 建具表による</p> <p>木製建具に使用する戸車及びレール</p> <p>※標準仕様書表16.8.5による</p> <p>・ 建具表による</p> <p>握り玉及びレバーハンドル、押板類、クレセントの取付け位置</p> <p>・ 建具表による</p> <p>・</p> <p>シリンダ箱錠及びシリンダ本締めり錠 (品質・性能、試験方法は別表による)</p> <p>クローザ類 (品質・性能、試験方法は別表による)</p> <p>マスターキー (16.8.4)</p> <p>製作する ・ 製作しない</p> <p>鍵の製作本数</p> <p>※各室3本組 (室名札付き)</p> <p>鍵箱</p> <p>※有り ・ 無し</p>	合板の種類	規格等	備考	・ 普通合板 ()	表面の樹種 ・ 板面の品質 (※広葉樹1等) 接着の程度 (・1類 ・2類)		・ 天然木 化粧合板 ()	樹種名 () 接着の程度 (・1類 ・2類) 化粧加工の方法 ※プリント ・ ポリエステル化粧合板 ・ メラミン化粧合板		・ 特殊加工 化粧合板 ()	接着の程度 (・1類 ・2類)		<p>・ 自動ドア開閉装置</p> <p>戸の開閉方式 (16.9.2、3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 建具表による ・ 引き戸用駆動装置 <p>性能値</p> <p>※標準仕様書表16.9.1 (防錆 ・適用する ・適用しない)</p> <p>・以下による</p> <p>種類・開閉方式 () ()</p> <p>耐電圧 () ()</p> <p>温度上昇 () ()</p> <p>耐久性(サイクル) () ()</p> <p>防錆 () ()</p> <p>電源 () ()</p> <p>・車椅子使用者用扉出入り口引き戸用駆動装置</p> <p>性能値</p> <p>※標準仕様書表16.9.2 (防錆 ・適用する ・適用しない)</p> <p>・以下による</p> <p>耐電圧 () ()</p> <p>温度上昇 () ()</p> <p>耐久性(サイクル) () ()</p> <p>防錆 () ()</p> <p>電源 () ()</p> <p>・引き戸用検出装置</p> <p>性能値</p> <p>※標準仕様書表16.9.3 (防錆 ・適用する ・適用しない)</p> <p>・以下による</p> <p>耐電圧 () ()</p> <p>防錆 () ()</p> <p>防滴 () ()</p> <p>電源 () ()</p> <p>引き戸用検出装置の種類 標準仕様書表16.9.4</p> <p>・ 建具表による</p> <p>タッチスイッチの種類</p> <p>・ 無線式タッチスイッチ ・ 光線式タッチスイッチ</p> <p>車椅子使用者用扉スイッチの種類</p> <p>・ 大形押しボタンスイッチ ・ 非接触スイッチ</p> <p>凍結防止措置</p> <p>・ 行う ・ 行わない</p> <p>・ 自閉式上吊り引戸装置 (16.10.3) (表16.10.1)</p> <p>性能値等 (16.10.3) (表16.10.1)</p> <p>※標準仕様書表16.10.1</p> <p>・以下による</p> <p>手動開き力 () ()</p> <p>手動閉じ力 () ()</p> <p>閉じ速度の調整 () ()</p> <p>制動区間 () ()</p> <p>閉鎖緑返し () ()</p> <p>耐衝撃性 () ()</p> <p>・ 重量シャッター (16.11.2、3)</p> <p>シャッターの種類 (16.11.2、3)</p> <p>・ 管理用シャッター</p> <p>・ 外壁用防火シャッター</p> <p>・ 屋内用防火シャッター</p> <p>・ 防煙シャッター</p> <p>外壁開口部に設ける重量シャッターの耐風圧強度 () pa</p> <p>開閉方式の種類</p> <p>※電動式 (手動併用) ・ 手動式</p> <p>安全装置</p> <p>電動式シャッターの急降下制動装置、急降下停止装置 (設置箇所 ・ 建具表による)</p> <p>電動式シャッターの障害物感知装置 (設置箇所 ・ 建具表による)</p> <p>屋内用防火シャッター若しくは防煙シャッターの危害防止装置 (設置箇所 ・ 建具表による)</p> <p>管理用シャッターのシャッターケース</p> <p>・ 設ける ・ 設けない</p> <p>スラット及びシャッターケース用鋼板</p> <p>鋼板の種類</p> <p>・ JIS G 3302 (溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯)</p> <p>・ JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板鋼帯)</p> <p>めっきの付着量</p> <p>※Z12又はF12</p> <p>・</p> <p>ガイドレール、まぐさ、両掛りに用いる座板及び座板のカバー、両掛りに用いるスイッチ</p> <p>ボックス類のふたの材質</p> <p>ステンレス鋼板</p> <p>※SUS304、SUS430J1L、又はSUS443J1</p> <p>・</p> <p>・ 軽量シャッター (16.12.2~4)</p> <p>開閉方式の種類 (16.12.2~4)</p> <p>※手動式</p> <p>・ 電動式 (手動併用)</p> <p>耐風圧強度 () pa</p> <p>安全装置</p> <p>電動シャッターの障害物感知装置 (設置箇所 ・ 建具表による)</p> <p>スラットの材質の種類</p> <p>・ JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯)</p> <p>めっきの付着量 (※Z06又はF06)</p> <p>・ JIS G 3322 (塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯)</p> <p>めっきの付着量 (※A290)</p> <p>スラットの形状</p> <p>・ インターロック形</p> <p>・ オーバーラッピング形</p>	<p>・ 自動ドア開閉装置</p> <p>戸の開閉方式 (16.9.2、3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 建具表による ・ 引き戸用駆動装置 <p>性能値</p> <p>※標準仕様書表16.9.1 (防錆 ・適用する ・適用しない)</p> <p>・以下による</p> <p>種類・開閉方式 () ()</p> <p>耐電圧 () ()</p> <p>温度上昇 () ()</p> <p>耐久性(サイクル) () ()</p> <p>防錆 () ()</p> <p>電源 () ()</p> <p>・車椅子使用者用扉出入り口引き戸用駆動装置</p> <p>性能値</p> <p>※標準仕様書表16.9.2 (防錆 ・適用する ・適用しない)</p> <p>・以下による</p> <p>耐電圧 () ()</p> <p>温度上昇 () ()</p> <p>耐久性(サイクル) () ()</p> <p>防錆 () ()</p> <p>電源 () ()</p> <p>・引き戸用検出装置</p> <p>性能値</p> <p>※標準仕様書表16.9.3 (防錆 ・適用する ・適用しない)</p> <p>・以下による</p> <p>耐電圧 () ()</p> <p>防錆 () ()</p> <p>防滴 () ()</p> <p>電源 () ()</p> <p>引き戸用検出装置の種類 標準仕様書表16.9.4</p> <p>・ 建具表による</p> <p>タッチスイッチの種類</p> <p>・ 無線式タッチスイッチ ・ 光線式タッチスイッチ</p> <p>車椅子使用者用扉スイッチの種類</p> <p>・ 大形押しボタンスイッチ ・ 非接触スイッチ</p> <p>凍結防止措置</p> <p>・ 行う ・ 行わない</p> <p>・ 自閉式上吊り引戸装置 (16.10.3) (表16.10.1)</p> <p>性能値等 (16.10.3) (表16.10.1)</p> <p>※標準仕様書表16.10.1</p> <p>・以下による</p> <p>手動開き力 () ()</p> <p>手動閉じ力 () ()</p> <p>閉じ速度の調整 () ()</p> <p>制動区間 () ()</p> <p>閉鎖緑返し () ()</p> <p>耐衝撃性 () ()</p> <p>・ 重量シャッター (16.11.2、3)</p> <p>シャッターの種類 (16.11.2、3)</p> <p>・ 管理用シャッター</p> <p>・ 外壁用防火シャッター</p> <p>・ 屋内用防火シャッター</p> <p>・ 防煙シャッター</p> <p>外壁開口部に設ける重量シャッターの耐風圧強度 () pa</p> <p>開閉方式の種類</p> <p>※電動式 (手動併用) ・ 手動式</p> <p>安全装置</p> <p>電動式シャッターの急降下制動装置、急降下停止装置 (設置箇所 ・ 建具表による)</p> <p>電動式シャッターの障害物感知装置 (設置箇所 ・ 建具表による)</p> <p>屋内用防火シャッター若しくは防煙シャッターの危害防止装置 (設置箇所 ・ 建具表による)</p> <p>管理用シャッターのシャッターケース</p> <p>・ 設ける ・ 設けない</p> <p>スラット及びシャッターケース用鋼板</p> <p>鋼板の種類</p> <p>・ JIS G 3302 (溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯)</p> <p>・ JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板鋼帯)</p> <p>めっきの付着量</p> <p>※Z12又はF12</p> <p>・</p> <p>ガイドレール、まぐさ、両掛りに用いる座板及び座板のカバー、両掛りに用いるスイッチ</p> <p>ボックス類のふたの材質</p> <p>ステンレス鋼板</p> <p>※SUS304、SUS430J1L、又はSUS443J1</p> <p>・</p> <p>・ 軽量シャッター (16.12.2~4)</p> <p>開閉方式の種類 (16.12.2~4)</p> <p>※手動式</p> <p>・ 電動式 (手動併用)</p> <p>耐風圧強度 () pa</p> <p>安全装置</p> <p>電動シャッターの障害物感知装置 (設置箇所 ・ 建具表による)</p> <p>スラットの材質の種類</p> <p>・ JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯)</p> <p>めっきの付着量 (※Z06又はF06)</p> <p>・ JIS G 3322 (塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯)</p> <p>めっきの付着量 (※A290)</p> <p>スラットの形状</p> <p>・ インターロック形</p> <p>・ オーバーラッピング形</p>
種類	材質	線径	網目																																																			
・ 防虫網	※合成樹脂製 ・ ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ ステンレス(SUS316)製	※0.25mm以上	※16~18メッシュ																																																			
・ 防鳥網	ステンレス(SUS304)線材	1.5mm	網目寸法15mm																																																			
合板の種類	規格等	備考																																																				
・ 普通合板 ()	表面の樹種 ・ 板面の品質 (※広葉樹1等) 接着の程度 (・1類 ・2類)																																																					
・ 天然木 化粧合板 ()	樹種名 () 接着の程度 (・1類 ・2類) 化粧加工の方法 ※プリント ・ ポリエステル化粧合板 ・ メラミン化粧合板																																																					
・ 特殊加工 化粧合板 ()	接着の程度 (・1類 ・2類)																																																					
合板の種類	規格等	備考																																																				
・ 普通合板 ()	表面の樹種 ・ 板面の品質 (※広葉樹1等) 接着の程度 (・1類 ・2類)																																																					
・ 天然木 化粧合板 ()	樹種名 () 接着の程度 (・1類 ・2類) 化粧加工の方法 ※プリント ・ ポリエステル化粧合板 ・ メラミン化粧合板																																																					
・ 特殊加工 化粧合板 ()	接着の程度 (・1類 ・2類)																																																					
合板の種類	規格等	備考																																																				
・ 普通合板 ()	表面の樹種 ・ 板面の品質 (※広葉樹1等) 接着の程度 (・1類 ・2類)																																																					
・ 天然木 化粧合板 ()	樹種名 () 接着の程度 (・1類 ・2類) 化粧加工の方法 ※プリント ・ ポリエステル化粧合板 ・ メラミン化粧合板																																																					
・ 特殊加工 化粧合板 ()	接着の程度 (・1類 ・2類)																																																					

オーバーヘッドドア (16.13.2, 3)

セクション材料による区分	風圧力による強さの区分	開閉方式による区分	収納形式による区分	ガイドレールの材料
※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラスタイプ	・50 ・75 ・100 ・125	※バランス式 ・チェーン式 ・電動式	※スタンダード形 ・ローヘッド形 ・ハイリフト形 ・パーチカル形	※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ステンレス鋼板

電動式オーバーヘッドドアの障害物感知装置 (設置箇所・建具表による)

ガラス (9.7) (16.14.2~4) (図16.14.1)

- フロート板ガラスの品種及び厚さの呼びによる種類
- 建具表による
- 型板ガラスの厚さによる種類
- 建具表による
- 開口板ガラス及び縁入板ガラスの網又は線の形状、板の表面の状態及び厚さの呼びによる種類
- 建具表による
- 合わせガラス
- 材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに合わせガラスの合計厚さ
- 建具表による
- 落球衝撃はく離特性及びショットバック衝撃特性による種類
- I類 II-1類 II-2類 III類
- 強化ガラス
- 形状による種類、材料板ガラスの種類による名称
- 建具表による
- 破片の状態及びショットバック衝撃特性による種類
- I類 III類
- 熱線吸収板ガラス
- 板ガラスによる種類、厚さによる種類
- 建具表による
- 性能による種類
- I種 II種
- 複層ガラス
- 材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに複層ガラスの厚さ
- 建具表による
- 断熱性による区分
- T1 T2 T3 T4 T5 T6
- 日射取得性及び日射遮蔽性による区分
- G S
- 乾燥気体の種類
- 空気 アルゴン
- 熱線反射ガラス
- 材料板ガラスの種類及び厚さによる種類
- 建具表による
- 日射熱遮へい性による区分
- 1種 2種 3種
- 耐久性による区分 (日射熱遮蔽性による区分が2種の場合)
- A類 B類
- 倍強度ガラス
- 材料板ガラスの種類及び厚さによる種類
- 建具表による

ガラスの留め材及び溝の大きさ (16.14.2) (9.7)

建具の種類	ガラス留め材の種類	ガラス溝の大きさ (mm)
アルミニウム製	・シーリング材 ・グレイジングチャンネル	※建具製造所の仕様による ・図示による
鋼製及び鋼製軽量	・シーリング材	※建具製造所の仕様による ・図示による
ステンレス製	・シーリング材	※建具製造所の仕様による ・図示による
樹脂製	・グレイジングガスケット	※建具製造所の仕様による ・図示による

耐震性能
建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による。

ガラスブロック積み (16.14.5)

呼び寸法 (mm)	厚さ (mm)	色調	目地幅 (mm)	伸縮調整目地位置 (mm)	防火性能
・160×160	・95				
・200×200	・95				

壁用金属枠及び補強材
※図示による

力骨
材質
・ステンレス鋼 (SUS304)

寸法
・寸径 5.5mm

形状
※はしご形状横筋及び単筋
化粧目地モルタルの色 (・白 ・グレー)
シーリングの種類 (・SR-1 ・PS-1)
金属製化粧カバー

材質
・ステンレス製 ・アルミニウム製 (17.3.2~6) (表17.3.1, 2)

寸法
※図示による

形状
※図示による

木下地の場合のアンカー等の取付け間隔
・図示による

目地部の横力骨の納まり
※ガラスブロック製造所の仕様による
・図示による

工法
1章 適用区分による風圧力の (・1 ・1.15 ・1.3) 倍の風圧力に対応した工法

17 カーテンウォール工事 (17.1.3)

取付け形態、性能等 (17.1.3)

- 取付け形態による分類
- 層間方式
- 柱・梁方式
- 方立方式
- スバンドレル方式
- 性能

水密性	気密性	遮音性	断熱性	耐火性	耐温度差性 (°C)
				・30分 ・1時間	・80 ・70 ・60

耐風圧性
1章 適用区分による風圧力 (・1 ・1.15 ・1.3) 倍の風圧力に対応した工法

主要部材の耐風圧性能 (ガラスを除く)

支間距離 (h)	耐風圧性能
4m以下	・たわみ量が±(1/150)×h かつ絶対量20mm以下であること
4mを超える	・

耐震性能
建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による
性能の確認方法及び判定方法
※性能の確認及び判定方法が確認できる資料を提出し、監督職員の承諾を受ける

金属材料の種類 (17.2.2, 3, 5, 6)

- アルミニウム材
- 鋼材
- ステンレス鋼材

シーリング材の種類 (目地等)
種類及び寸法等 ※図示による

ガラスの取付け材料
・シーリング種類 (・SR-2 ・SR-1)
・構造ガスケット形状、寸法等 ※図示による

断熱材 [G]
種類及び範囲 ※図示による
形状及び仕上げ
製品の寸法許容差
※標準仕様書表17.2.11による

見え掛り部の仕上げ (アルミニウム材の場合)
規格等 標準仕様書16.2.3による
種類 (標準仕様書表14.2.1)
着色 ・標準色 ・特注色 (鋼材及びステンレス鋼材の場合)

ガラス溝の寸法、形状等
※カーテンウォールの製造所の仕様

取付け
躯体付け金物の取付け位置の寸法許容差
鉛直方向
※±10mm
水平方向
※±25mm
カーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差
目地の幅
※±3mm
目地の心の通り
※0~2mm
目地両側の段差
※0~2mm
各階の基準量から各部位までの距離
※±3mm
耐火処理
適用部位、材料等 ※図示による

ガラスの取付け材料
ガラスの取付け材料がシーリングの場合のガラスの支持方法
※4辺支持

18 塗装工事

材料
コンクリート
種類 (・普通コンクリート ・軽量コンクリート1種)
品質
設計基準強度 (Fc) ※30N/?
スラブ ※12cm
気乾単位容積質量
・普通コンクリートの場合 2.1t/?を超え2.5t/?以下
・軽量コンクリートの場合1.8 t/ m3~2.1 t/ m3
単位水量の最大値
※185kg/?

鉄筋
種類の記号 ※SD295

補強鉄線
径 (mm) ・3.2 ・4.0 ・5.0 ・6.0
網目寸法
シーリング材の種類 (目地等)
種類及び寸法等 ※図示による

ガラスの取付け材料
・構造ガスケット
形状、寸法等 ・図示による

耐火処理
適用部位、材料等 ※図示による

断熱材 [G] 種類 ()
種類及び範囲 ※図示による

先付けの材料
・表面仕上材
・セラミックタイル
・石材
・建具枠
・ゴンドラ用ガイドレール

形状及び仕上げ
製品の見え掛り部の寸法許容差
辺長
※±3mm
対角線長の差
※0~5mm
板厚
※±2mm
開口部内寸法
※±2mm
ねじれ、反り
※0~5mm
曲がり
※0~3mm
面の凸凹
※0~3mm
先付け金物の位置
※0~5mm

PCカーテンウォールの仕上げ
構造ガスケットを用いる場合のアンカー溝の寸法及び寸法許容差 (mm)
※図示による

製作
PC板の配筋 ※図示による

取付け
躯体付け金物の取付け位置の寸法許容差
鉛直方向
※±10mm
水平方向
※±25mm
カーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差
目地の幅
※±5mm
目地の心の通り
※0~3mm
目地両側の段差
※0~4mm
各階の基準量から各部位までの距離
※±5mm

ガラスの取付け方法
・ガラスの取付け材が構造用ガスケットで複層ガラス等を使用する場合は排水機能の設置及びガラスの封着処理の強化を行う

18 塗装工事

材料
※F☆☆☆☆
防火材料
※屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする。
・以下の箇所を除き防火材料とする。
(箇所:)

18.2.2~7)

下地面等	塗料の種類	種別
木部	不透明塗料塗りの場合	※A種 ・B種
	透明塗料塗りの場合	※B種 ・A種
鉄鋼面 (DP以外)		※C種 ・A種 ・B種
鉄鋼面 (DPのみ)		※B種 ・A種 ・C種
亜鉛めっき鋼面		・A種 ・B種
モルタル面及びせつこうプラスター面		※B種 ・A種
コンクリート面 (DP以外) 及びALCパネル面		※B種 ・A種
押出成形セメント板面		※B種 ・A種
コンクリート面 (DPのみ)		※A種 ・B種
せつこうボード面及び	目地: 継目処理工法	※A種 ・B種
その他ボード面	目地: 継目処理工法以外	※B種 ・A種

18.3.2, 3)

下地面	塗料の種類	錆止め塗料の種類	錆止め塗料塗りの工程
鉄鋼面	SOP	A種	見え隠れ: A種 見え隠れ: B種
	DP	C種及びD種	表18.3.4
	EP-G	※B種 ・A種	見え隠れ: A種 見え隠れ: B種
亜鉛めっき鋼面	SOP	※A種 ・B種	鋼製建具等: A種 上記以外: B種
	DP	B種	表18.3.6
	EP-G	C種	鋼製建具等: A種 上記以外: B種

18.4.1~18.12.2)

塗装	種別	塗料の種類	高日射反射率塗料 [E]
合成樹脂調合ベイント塗り (SOP)	木部屋外	※A種 ・B種	—
	木部屋内	※B種 ・A種	—
	鉄鋼面	※B種 ・A種	・適用する
亜鉛めっき鋼面	—	—	・適用する
クリヤラッカー塗り (CL)	※B種 ・A種	—	—
アクリル樹脂系非水分散形塗料 (NAD)	※B種 ・A種	—	—
耐候性塗料塗り (DP)	鉄鋼面	—	上塗り塗料の等級 () 級 ・適用する
	亜鉛めっき鋼面	—	上塗り塗料の等級 () 級 ・適用する
	コンクリート面 押出成形セメント板面	・A種 ・B種 ・C種	—
つや有合成樹脂エマルジョンベイント塗り (EP-G)	鉄鋼面	※B種 ・A種	—
	コンクリート面	・A種 ・B種 ・C種	—
	ガラス面 プラスチック面 その他の「面」等	※B種 ・A種	—
合成樹脂エマルジョンベイント塗り (EP)	※B種 ・A種	—	—
ウレタン樹脂ワニス塗り (UC)	※B種 ・A種	—	—
ステン塗り	・ビグメント ステン塗り ・オイルステイン塗り (OS)	—	—
木材保護塗料塗り (WP)	※B種 ・A種	—	—

高日射反射率塗料 [E] を適用する場合の適用箇所は屋上、屋根面の金属面とする。
クリヤラッカー塗り A種の工程2の適用
・適用しない
・適用する (着色剤: ・溶剤形着色剤 ・油性染料着色剤)
ウレタン樹脂ワニス塗りの工程1の着色の適用
・適用する
・適用しない
オイルステイン塗りの工程等

19 内装工事

接着剤
ビニル床シート、ビニル床タイル、ゴム床タイル用接着剤のホルムアルデヒド放散量 (19.2.2)
※F☆☆☆☆
施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種類
・図示による

下地の工法
標準仕様書19.2.3(7)~(9)以外の下地の工法 (19.2.3)
・図示による

ビニル床シート [E] (19.2.2, 3)

種類の記号	色柄	厚さ (mm)	備考
※FS (複層ビニル床シート)	・無地 ・マーブル柄 ・柄物	※2.0	

接合部の処理
※熱溶接工法

ハンガーレール及びランナ
※パネル重量の5倍の荷重を、パネル1枚に使用するランナ数で除した値に対して、耐力及び変形量が使用上支障のないもの
(品質・性能は別表による)

表面材の材料	脚部 種類	ドアエッジ 材質
・メラミン樹脂系化粧板	※幅木タイプ	※製造所の仕様による
・ポリエステル樹脂系化粧板	・	・アルミニウム製 ・ステンレス製

(品質・性能、試験方法は別表による)

材料の種類及び仕上げ (20.2.6)

○ SUS304 表面処理 ※HL程度
・ 錆 表面処理 溶融亜鉛めっき (※標準仕様書表14.2.2による種別 () 種)
・ アルミニウム 表面処理 (※標準仕様書表14.2.1による種別 () 種)
色合い・標準色 () ・特注色 ()

手すりの握り部分

材種	表面仕上げ	直径 (mm)	取付箇所	備考
・ 集成材 (材種:)	・ クリアラッカー	・ 35程度 ・ 45程度		
・ ビニル製		・ 35程度 ・ 45程度		

階段滑り止め (20.2.7)

材種
○ ステンレス製
・ 黄銅製押出型材
・ アルミニウム製押出型材
・
形状
※タイヤ型(タイヤの材質: ゴム又は合成樹脂等)
・ タイヤレス型
端部の形状
○ フラットエンドあり
・ フラットエンドなし
寸法(幅)
・ 35mm程度 ○ 40mm程度 ・ 50mm程度
取付け方法
※接着工法
・ 埋込み工法

黒板及びホワイトボード (20.2.9)

・ 黒板
区分
※焼き付け
種類
・ 鎖製黒板
・ ほうろう黒板
色
※ 緑
・ ホワイトボード

鏡 (20.2.10)

取付け箇所 ()
寸法 (mm)
・ 図示による
厚さ (mm)
※ 5

表示 (20.2.11)

衝突防止表示
・ 設置する (設置場所: ※図示による ())
形状・寸法 (・ 30φ)
材質 (・ ステンレス製)
・ 設置しない
誘導標識、非常用出入口等の表示
※ 消防法に適合する市販品
室名札、ピクトグラフ、案内板等の形状、寸法、材質、色、書体、印刷等の種別、取付け形式等
(案内用図記号はJIS Z 8210による)
※ 図示による

タラップ (20.2.12)

材質及び仕上げ
・ SUS304 (スリップ止め加工 ※あり () なし)
○ 鎖製 表面処理 溶融亜鉛めっき
(※標準仕様書表14.2.2による種別 (※C種 () 種))

煙突ライニング (20.2.13)

適用安全使用温度
・
工法
※ 鎖製ユニット煙突(煙突用成形ライニング材)

ブラインド (20.2.14)

形式	操作方法	操作方法の種類	スラットの種類	スラット幅	ボックス・レールの材質	幅・高さ 取付箇所
・ 横形	・ 手動 ・ 電動	※ギヤ式 ・ コード式 ・ 操作棒式	※78mm幅合金製 ()	※25 ・	※鋼製	・ 図示による
・ 縦形	・ 手動 ・ 電動	※2本操作コード式 ・ 1本操作コード式	・ 78mmスラット ・ 70mmスラット	・ 80 ・ 100	※78mm幅合金製	・ 図示による

縦型ブラインドのスラットの材質
・ アルミスラット 焼付け塗装仕上げ
・ クロススラット 消防法で定める防火性能の表示がある特殊樹脂加工
ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合は () とする

ロールスクリーン (20.2.15)

操作方法	スクリーンの材質	その他の材料	幅・高さ 取付箇所	品質等
・ スプリング式 ・ コード式 ・ 電動式	・ ガラス繊維製 ・ 合成・天然繊維製 ・ 木製	※製造所の仕様	・ 図示による	・

スクリーンの仕様
消防法で定める防火性能の表示があるもの
ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合は () とする

カーテン (20.2.16)

形式	開閉操作	ひだの種類	生地の種類、 品質、特殊加工等	取付け 箇所	備考
・ シングル ・ ダブル	・ 片引き ・ 引分け ・ 電動	・ 手引き ・ つまみひだ ・ 箱ひだ、片ひだ ・ プレーンひだ		・ 図示による	・

生地の仕様
消防法で定める防火性能の表示があるもの
ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合は () とする
暗幕用カーテンの高端、上部及び召合せの重なり
※300mm以上

カーテンレール (20.2.16)

材料による区分
※アルミニウム及びアルミニウム合金の押し成型材
・ ステンレス製
強さによる区分
※10-90
仕上げ
※アルマイト
形状
※角形

ブラインドボックス及びカーテンボックス

清幅×深さ (mm)
・ 90×150
・ 120×80
・ 120×150
・ 150×80
・ 図示による

材種
・ 集成材 (仕上げ:)
・ アルミニウム製 押し成型材 (市販品)
標準仕様書表14.2.11による種別
・ BC-1種
・ BC-2種
色合い
・ 標準色 () ・ 特注色 ()
・ 鋼製 (仕上げ:)

材種	寸法	形式	外枠	内枠
・ アルミニウム製	・ 450×450	・ 一般形	・ 屋内外用	・ 額縁タイプ ・ 額縁タイプ
・	・ 600×600	・ 気密形	・ 屋内用	・ 目地タイプ ・ 目地タイプ

(品質・性能、試験方法は別表による)

材種	寸法	形式	備考
・ アルミニウム製	・ 450×450	・ 一般形	・ 屋内外用 ・ 鍵付き
・ ステンレス製	・ 600×600	・ 密閉形	・ 屋内用
・ 鋼製	・	・	・

密閉形とは、ボルト、ナット等メカニカル構造にパッキンを装着したものとす。
(品質・性能、試験方法は別表による)

方向	幅 (mm)	タイプ	耐火性能	防水性能	備考
・ 垂直	・ 25	・ 完全 (全貫通型)	・ 耐火型	・ 有り	
・ 水平	・ 25	・	・ 非耐火型	・ 無し	

目地

目地	内壁	外壁
目地材	・ シーリング材 (見え掛かり部のみ) ・	・ シーリング材 (見え掛かり部のみ) ・ シーリング材 (内外とも)
目地寸法 (mm)	・ スリット幅×深さ10	・ スリット幅×深さ10

目地材の材質は標準仕様書表9.7.11による

止水板

形式
・ 差込式
・ 据置式
・ 壁張り式
施工箇所
・ 図示による

エキスパンションジョイント金物

くつきマット

流し台ユニット

材種	寸法 (mm)			備考
	W	D	H	
・ 流し台	・ 1200 ・ 1500 ・ 1800	・ 550 ・ 600 ・ 650	・ 800 ・ 850	市販品 トラップ付き 天板ステンレス製
・ コンロ台	・ 600	・ 550 ・ 600 ・ 650	・ 620 ・ 670	市販品 バックガード有り 天板ステンレス製
・ つり戸棚	・ 1200 ・ 900	・ 450	・ 500 ・ 700	市販品
・ 水切り	・ 1200 ・ 900 ・ 600	・	・	市販品 ステンレス製 1段式

品質・性能
外観は、JIS A 4420「キッチン設備の構成材」の4.1による。
構成材は、JIS A 4420 の8 により試験を行ったとき、表1 の規定による。
形状
※ 図示による

材種	形式	高さ (m)	操作方法	固定方法	備考
・ アルミニウム合金製	・ テーバー式 ・ 同一断面式		・ ハンドル式 ・ ロープ式	・ 埋込式 ・ ベース式 ・ バンド式	

旗竿

旗竿受金物

車止めさく

フェンス

フェンスの種類
・ ビニル被覆エキスパンドフェンス
・ 樹脂塗装メッシュフェンス
・ 鋼管フェンス
・ アルミフェンス
高さ
・ 図示による

プレキャストコンクリート

コンクリートの設計基準強度 (20.3.3, 4)
※ 水セメント比55%以下、単位セメント量の最小値300kg/m²を満足する割合強度
・ 図示による
配筋
※ 配筋を定めた計算書を監督職員に提出する
・ 図示による
取付け方法
※ 図示による

間知石及びコンクリート間知ブロック積み (20.4.2, 3)

材種	種類	質量区分	備考
・ 間知石	・ 花こう岩 ・ 凝灰岩	・	・
・ コンクリート間知ブロック	・	・ A ・ B	・

積み方
※ 谷積み
・ 布積み
目塗り
・ 図示による
伸縮調整目地
材種
・ 図示による
厚さ
・ 図示による

鋼製書架及び物品棚

種類	規格等	JISによる種類
・ 鋼製書架	JIS S 1039 の規格による	・ 1種 ・ 2種 ・ 3種
・ 鋼製物品棚		・ 4種 ・ 5種 ・ 6種

屋内掲示板

枠の材質
※ アルミニウム製
・
表面の材質
※ 塩化ビニルシート張り
・

洗面カウンター

材種
・ メラミン樹脂化粧板張り (心材: 集成材)
・ 人工大理石
実行き (mm)
・ 約450
・ 約600

防煙垂れ壁

種類	材質	厚さ (mm)	高さ (mm)	備考
※ 固定式				
※ 網入り磨き板ガラス ・ 網入り磨き板ガラス		※ 6.8	※ 500	アルミ製枠付き

可動式

種類	材質	高さ (mm)	備考
・ 垂直降下式 (巻取り型)	※ 不燃布 (不燃認定品)	・ 500 ・ 800	ガイドレール ※ 固定式 (壁埋込型) ・ 可動式 (天井収納型)
・ 回転降下式	鋼板製又はアルミ製	※ 500 ・ 800	表面仕上げ ※ 天井材張り

降下機構
煙感知器連動及び手動開放装置 (埋込型)

屋外掲示板

照明器具
※ 有り
・ 無し
施設
※ 有り
・ 無し
製造所
・

収納家具

合板類、MDF 及びパーティクルボードのホルムアルデヒドの放散量
※ F☆☆☆☆
材質、形状、寸法
※ 図示による

21 排水工事

屋外雨水排水 (21.2.1, 2) (表 21.2.1, 2)

材種	種類・記号	形状	呼び径	備考
○ 通心力鉄筋コンクリート管	外圧管 (1種)	○ B形管	・ 図示による	
	・ RF-VP ()		・ 図示による	
	・ RS-VU ()		・ 図示による	
○ 硬質ポリ塩化ビニル管	・ VP		・ 図示による	
	・ VU		・ 図示による	

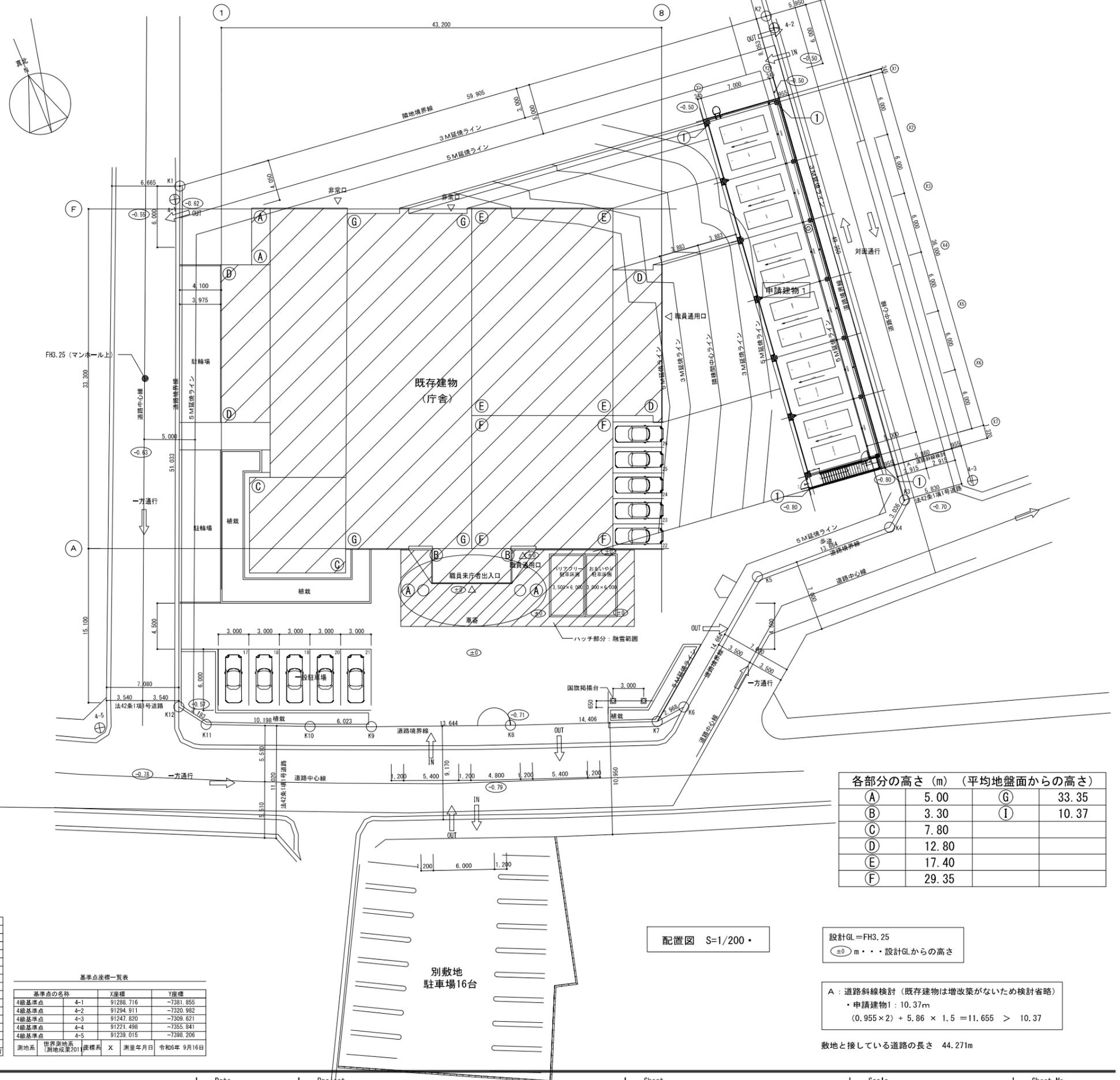
基礎の厚さ及び種類
○ 図示による
硬質ポリ塩化ビニル管の継手に用いる材料
※ 接着剤
継手の形状及び寸法
○ 図示による
排水溝の種類
・ 図示による
砂地層に用いる材料
・ シルト ○ 山砂
・ 川砂
・ 砕砂
砂利地層に用いる材料
○ 再生クラッシュセラン ()
・ 切込砂利又は切込砕石
・ 現場打ちの場合のコンクリート材料
設計基準強度 (N/mm²)
※ 18
スランプ (cm)
※ 15又は18
・ 現場打ちの場合の鉄筋
種類の記号
※ SD295
・ 排水桁が現場打ちの場合の足掛金物
※ 標準仕様書21.2.2(6) (f)
材質
・ ステンレス製
・ 鋼製
・ 合成樹脂被覆加工されたもの
凍上抑制層に用いる材料
・ (砂を用いる場合の粒度試験)
・ 行う
・ 行わない

建築計画概要

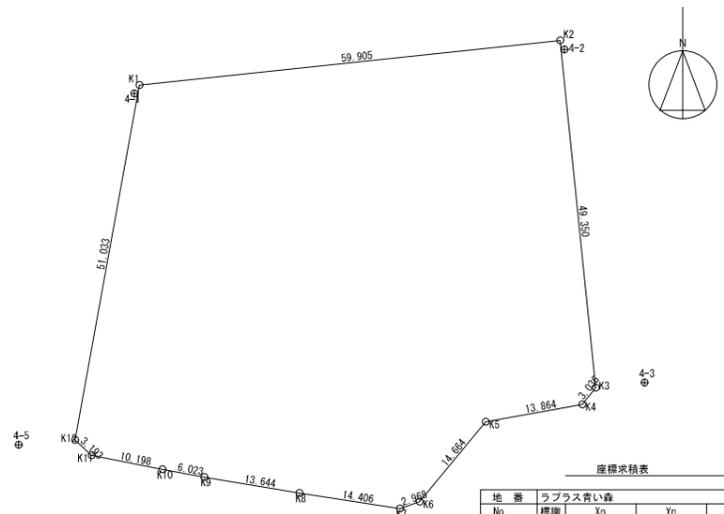
敷地概要			
地名番/住居表示	青森市中央一丁目11番2号、11番3号 / 青森市中央1丁目11番18号		
都市計画区域内外	都市計画区域	建ぺい率	80%
用途地域	商業地域	容積率	600%
防火地域	防火地域	その他地域等	特になし
日影規制	西側近隣商業地域 (二) 5時間、3時間 測定面 4m		
敷地面積	3,829.27 m ²		
建築概要			
主要用途	地方公共団体の支庁又は支所		
工事種別	改修工事、増築工事		
構造規模	庁舎: 1~3階SRC造 4階~5造 地上6階塔屋1階、機械棟(車庫): 地上2階 S造		
高さ	最高高さ 33.35m、最高軒高さ 32.6m		
建築面積	既存: 1,393.04 m ²	申請1: 289.64 m ²	合計: 1,682.68 m ²
延べ面積	既存: 5,196.42 m ²	申請1: 568.27 m ²	合計: 5,764.69 m ²
駐車場数	敷地内: 自走式24台 敷地外: 自走式16台		



案内図



①	5.00	③	33.35
②	3.30	④	10.37
⑤	7.80		
⑥	12.80		
⑦	17.40		
⑧	29.35		



敷地面積求積図 S=1/500

No.	ラプラス背い線	Xn	Yn	辺長	点間No
K1	91289.904	-7381.133	59.905		K2
K2	91296.196	-7321.559	49.350		K3
K3	91247.102	-7316.534	3.036		K4
K4	91244.738	-7318.439	13.864		K5
K5	91242.242	-7332.077	14.664		K6
K6	91230.955	-7341.440	2.968		K7
K7	91230.002	-7344.251	14.406		K8
K8	91232.172	-7358.493	13.644		K9
K9	91234.432	-7371.949	6.023		K10
K10	91235.518	-7377.874	10.198		K11
K11	91237.505	-7387.877	3.193		K12
K12	91239.684	-7390.211	51.033		K1
積面積			-7659.544159		
倍面積			3829.2720795		
地積			3829.27		

基準点の名称	X座標	Y座標
4級基準点 4-1	91288.716	-7381.855
4級基準点 4-2	91294.911	-7320.982
4級基準点 4-3	91247.820	-7308.621
4級基準点 4-4	91221.498	-7355.841
4級基準点 4-5	91238.015	-7398.206

測地系: 世界測地系 (測地成果2011) 産標系: X 測量年月日: 令和6年9月16日

配置図 S=1/200

設計GL=FH3.25
±0 m...設計GLからの高さ

A: 道路斜線検討 (既存建物は増改築がないため検討省略)
・申請建物1: 10.37m
(0.955×2) + 5.86 × 1.5 = 11.655 > 10.37

敷地と接している道路の長さ 44.271m

部 位	仕 上	備 考
屋 上	<ul style="list-style-type: none"> 露出アスファルト防水 (D1-2両等) 断熱材: 硬質ウレタンフォーム t/50 デッキコンクリート押え t/150 + (溶接金網 100×100×6φ) 	<ul style="list-style-type: none"> RD : ステンレス・フレキシブル (融雪キャップ付) φ100 ドラップ: ステンレス製安全ガード付き (SUS304) 1ヶ所
笠 木	<ul style="list-style-type: none"> 一般部笠木 : 7M製押出し形材 (既製品 スチール) W = 300 コーナー部 : 7M製押出し形材 (既製品 スチール) W = 300 	
外 壁	<ul style="list-style-type: none"> 押出成形セメント板 t/60 縦張りフッ素樹脂系仕上 断面形状: フラット 	<ul style="list-style-type: none"> 押出し成形セメント板 二次シール
軒 天	<ul style="list-style-type: none"> 軒天井: ケイ酸板 t/6.0突きつけ張り EP-G 	
開口部	<ul style="list-style-type: none"> カーテンボックス・アルミドア・スチールドア・7M製カーテンボックス 	<ul style="list-style-type: none"> シーリング 20×10 (B-2)
基礎立上り	<ul style="list-style-type: none"> コンクリート打ち放し仕上 基礎と成形板材の取り合い部: シーリング 15×20 (B-2) アルミ水切り板曲げ加工t/2.0・シーリング 15×15 (B-2) 	
建物周り	<ul style="list-style-type: none"> VS側溝 (呼び名: W300×600) 横断用T25 一部がレーシング蓋400×500 建物前面床: コンクリート直押さえ仕上 伸縮目地: 20×15カッター入れ・ウレタン樹脂充填好コ@3000毎 	

階数	室 名	床			巾 木		壁		天 井			備 考
		下地	FL高さ	仕 上	下地	仕 上	下地	仕 上	高さ			
1階	車 庫	RC	-70	コンクリート直押さえ仕上 伸縮目地: 20×15カッター入れウレタン樹脂充填・好コ@3000毎	RC	化粧目地分かれ コンクリート打ち放しH=100	LGS下地W65	内 壁: GB-R t/12.5+ケイ酸板目透かし張り t/6 EP-G 間仕切壁: GB-R t/12.5+9.5+ケイ酸板目透かし張り t/6 EP-G	—	現し	デッキまで	<ul style="list-style-type: none"> 7M製棚・配管ピット点検パネル
	階段下倉庫	RC	±0	コンクリート直押さえ仕上	RC	化粧目地分かれ コンクリート打ち放しH=100	LGS下地W65	間仕切壁: GB-R t/12.5+9.5 その他は現し	—	現し	〃	
2階	受水槽室	デッキプレート	±0	デッキコンクリート直押さえ仕上 (溶接金網 100×100×6φ) 伸縮目地: 20×15カッター入れウレタン樹脂充填・好コ@3000毎	GB-R	7M巾木H=100	内 壁: LGS下地W65 間仕切壁: LGS下地W90	GB-R t/12.5+GW-B t/25 (遮音性能0.7M)	—	現し	〃	<ul style="list-style-type: none"> 受水槽基礎 (7ヶ所)
	自家発電機室	デッキプレート	±0	全上	全上	全上	全上	全上	—	現し	〃	<ul style="list-style-type: none"> 直発電機基礎
	高圧・配電盤室	デッキプレート	±0	全上	全上	全上	全上	全上	—	現し	〃	<ul style="list-style-type: none"> 高圧盤槽基礎・燃料小出し槽基礎
共通	階段室	フェイクプレート	—	<ul style="list-style-type: none"> コンクリート押さえ+長尺塩ビシート張りt/2.0 段先ノリシット: SUS製W400×600入り (フットエンドタイプ) 	ササ柄	SOP仕上	1F 間仕切下地LGSW65 2F 間仕切下地LGSW90	間仕切壁GB-R t/12.5+9.5目透かし910×1820 その他は現し	—	現し	2.700	<ul style="list-style-type: none"> 手摺: SUS製φ40

略記号			
一般記号		塗材記号	
記号	名 称	記号	名 称
LGS-50	軽量下地	SOP	合成樹脂調合ペイント
LGS-65	軽量下地	DP1級	耐候性塗料・フッ素樹脂
LGS-90	軽量下地	EP-G	つや有合成樹脂エマルジョンペイント
LGS-100	軽量下地	EP	合成樹脂エマルジョンペイント
LGS-19	天井野縁-19形	EP-T	合成樹脂エマルジョンペイント模様塗料
LGS-25	天井野縁-25形	UC	合成ケイ酸樹脂ニス
KR	壁下地調整材 (壁ロック)	OS	オキシペン
RC	鉄筋コンクリート	CL	クリテック
C	無筋コンクリート	VE	塩化ビニル樹脂エマル
S	軽量鉄骨	NAD	7M樹脂系水分散形塗料
W	木造下地	FE	7M樹脂エマル
GL	グランドレベル	AE	7M樹脂エマル
FL	フロアイン	2-UE	2液形シリコン樹脂エマル
RL	屋上フロアイン	2-ASE	7Mシリコン樹脂エナメル
SL	鉄骨梁上端	2-FUE	常温乾燥形フッ素樹脂エマル
CB	コンクリートブロック		
GB	硝子ブロック		
MC	モルタル金ごて		
SL	セラミックシーリング		
AS	アスファルト防水		
GW	グラスケル		
UB	ユニットバス		
SU	シャワーユニット		
WC	トイレ		
SUS	ステンレス		
HL	ヘアライン		
ACB	アンカーボルト		

薄付・厚付・複層仕上塗材・軽量骨材仕上塗材記号	名 称
外装薄塗材E	外装合成樹脂エマルジョン系薄付仕上塗材
内装薄塗材E	内装合成樹脂エマルジョン系薄付仕上塗材
外装厚塗材E	外装合成樹脂エマルジョン系厚付仕上塗材
複層塗材CE	ケイ酸系複層仕上塗材
複層塗材E	成樹脂エマルジョン系複層仕上塗材
複層塗材RE	反応硬化形合成樹脂エマルジョン系複層仕上塗材
複層塗材RS	合成樹脂溶液系複層仕上塗材
複層塗材Si	けい酸質系複層仕上塗材
吹付用軽量塗材	吹付用軽量骨材仕上塗材
こて塗用軽量塗材	こて塗用軽量骨材仕上塗材
カラー鉄板	カラー鋼板塗装材

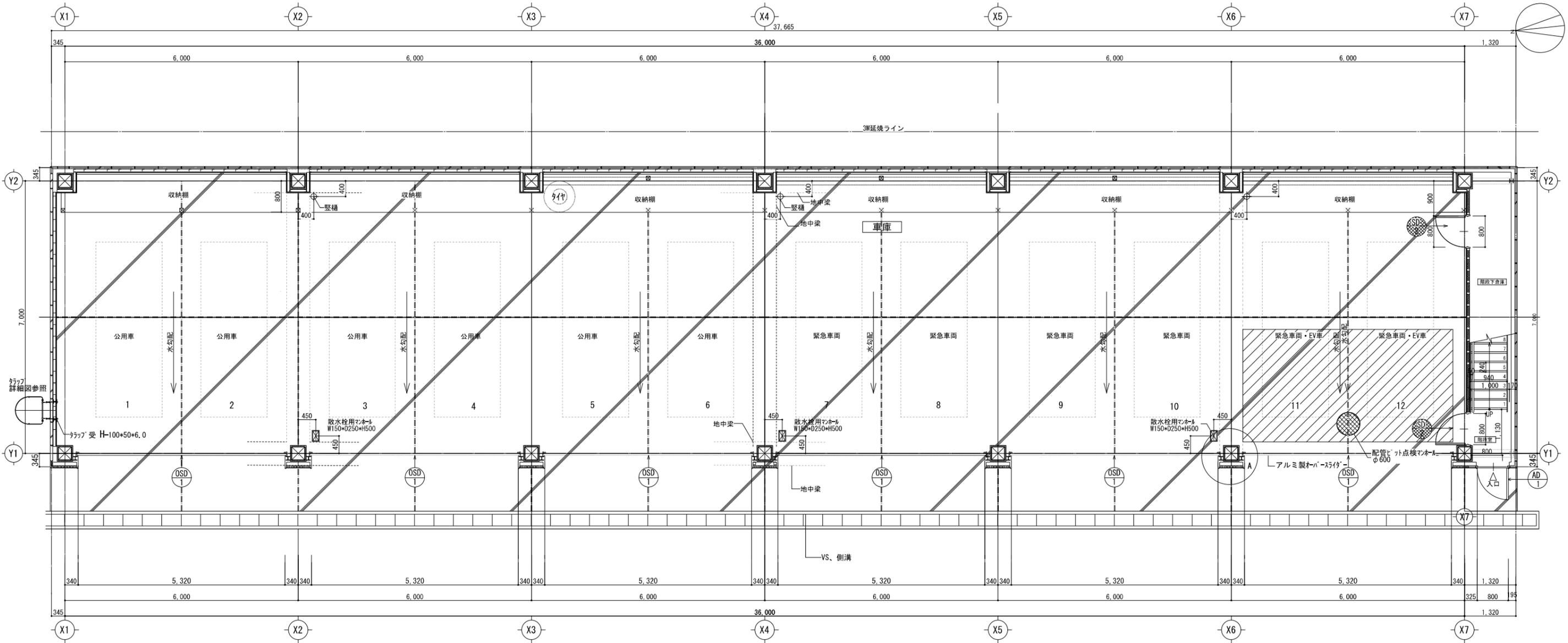
防 火 認 定 番 号							※個別認定番号は参考とする。	
NO	内装材料名	呼 名	部 位		不燃	準不	防火認定番号	備 考
			天井mm	壁mm				
1	・ ロックウール化粧吸音板 (捨て工法)	DR	t/9 t/15 t/12 t/19		○		NM-8599号	同等以上
2	・ ロックウール化粧吸音板 (直張工法)	DR	t/9 ・ t/12		○		NM-8599号	同等以上
3	・ 石膏ボード	GB-R	t/12.5 t/9.5	t/9.5	○		NM-9645号	同等以上
4	・ 石膏ボード (硬質石膏ボード)	GB-RH	t/12.5 ・ t/9.5	t/9.5	○		NM-9645号	同等以上
5	・ 化粧石膏ボード (天井用)	GB-D		t/9.5	○		NM-1864号	同等以上
6	・ 化粧石膏ボード (和室天井用)	GB-D		t/9.5	○	○	QM-9824号	同等以上
7	・ 化粧石膏ボード (和室天井用)	GB-D		t/12.5	○		NM-0127号	同等以上
8	・ 化粧石膏ボード (壁用)	GB-D	t/12.5		○		NM-0128号	同等以上
9	・ 化粧石膏ボード (壁用)	GB-D	t/9.5		○	○	QM-9824号	同等以上
10	・ シーリングボード (防水ボード) (壁用)	GB-S	t/12.5		○		NM-9826号	同等以上
11	・ ガラスウール押えグラスウールボード	GW-B	t/25 ・ t/50	t/50	○		NM-8606号	同等以上
12	・ 不燃積層石膏ボード	GB-NC	t/9.5	t/9.5	○		NM-0441号	同等以上
13	・ グラスウールボード	GW-B	t/25 ・ t/50		○		NM-8603号	同等以上
14	・ 強化石膏ボード	GB-F	t/15 ・ t/12.5	t/15	○		NM-8615号	同等以上
15	・ 硬質石膏ボード	GB-RH	t/12.5 ・ t/9.5	t/9.5			NM-9645号	同等以上
16	・ 不燃化粧板 (ケイ酸塩系)		t/6.0		○		NM-8576号	同等以上

建築基準法施行令第107条第1号規定に基づく耐火構造番号一覧表			
NO	耐火構造部位	商品名	認定番号
1	外壁 (横張り)	鉄骨下地押出し成形セメント板 t/60 横張り	1時間耐火構造 FP060 NE-9038
2	外壁 (縦張り)	鉄骨下地押出し成形セメント板 t/60縦張り	1時間耐火構造 FP060 NE-9037
3	屋根・屋上スラブ	デッキプレート t/150	30分耐火構造 FP030 RF-1745
4	2階床	デッキプレート t/150	1時間耐火構造 告示1399号
5	各階主要間仕切壁	t/12.5強化石膏ボード+t/9.5 硬質石膏ボード 両面張り (t/60グラスウール2枚/103充填)	1時間耐火構造 FP060 NP-0200
6	居室間仕切壁	t/12.5強化石膏ボード±t/12.5 強化石膏ボード 両面張り	1時間耐火構造 FP060 NP-0175
7	異種用途区画部分	GB-F t/12.5 + GB-RH t/9.5両面張り	1時間耐火構造 FP060 NP-0048
8	階段	鉄骨構造	30分耐火構造 告示1399号

NO	耐火被覆	厚さ (法基準値)	比重	耐火時間	認定番号
1	柱・間柱・補強柱	吹き付けロックウール	25mm	0.28以上	1時間耐火構造 FP060 QN-9460
2	大梁・小梁	吹き付けロックウール	25mm	0.28以上	1時間耐火構造 FP060 BM-9408

※ 耐火被覆はFLラインから4mを超える部分についての部材の被覆は不要とする。(直下に不燃材料又は準不燃材料で造られた天井があるものに限る。)

一般共通事項													
断熱材	屋 上	<ul style="list-style-type: none"> 平場: 硬質ウレタンフォームt/50敷込。 											
	各階スラブ	<ul style="list-style-type: none"> 現場発泡ウレタン/50吹き込み 											
	外壁面	<ul style="list-style-type: none"> 外壁に面するタタキ廻りは現場発泡ウレタンを充填する。 											
配管ピット		<ul style="list-style-type: none"> 配管ピットタラップ、釜場 (ピット階平面図及び部分詳細図による。) 配管ピットの底盤・立ち上り・スラブ裏・自閉性樹脂防水膜厚 t/10塗とする。 											
	床・天井	<ul style="list-style-type: none"> 天井廻縁は特記なき限り、内部は塩ビ製目地タタキとし、外部は7Mシールを使用する。 天井下地は軽量鉄骨製とし、内部用JIS19形・外部用JIS25形とする。 床点検用パネルは、フロアパチ (ボルト固定式) 密閉型 (防水・防臭型) とし、結露防止を施す。 釜場上部の床下点検口の設置箇所にはSUSタラップを設ける (φ16×L350) 											
仕 上	壁	<ul style="list-style-type: none"> 壁の石膏ボードは目透かし張りとする。 壁の貫通部仕様 (防火区画及び令114条区画部分) は、令112条15項、16項及び令129条の2の5の1項7号による施工とする。 											
	その他	<ul style="list-style-type: none"> 建材及び建築材料: 使用する材料はF☆☆☆☆に対応する規格と 使用材料・塗材・接着剤等は全て環境対策型 (F☆☆☆☆相当品) を使用するものとする。 外部に使用する留め金物 (ビス・釘等) は全て、ステンレス製とする。 ステンレスは特記なき限り、SUS-304・HL仕上とする。 目透かし部分の目地巾は特記なき限り張り物厚さとし、目地底はテープ張り塗装仕上とする。 鉄骨は溶融垂鉛付とし、見え掛り部分は (防水塗装仕上) とする。 鉄骨階段のノリシットはタタキ入りとし、取付けはアキ止めとする。 雨水用の堅固配管は保温材 (グラスウール) 巻きの上ラック (SUS鋼板) カバー巻きとする。保温材t/30GW (32Kg) 防露巻とする。 											
増し打ちコンクリート		<ul style="list-style-type: none"> 増打ちコンクリートは、特記なき限り次の通りとする。 											
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>部 位</th> <th>仕 上 げ</th> <th>増打ち厚さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外壁面</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 打ち放し仕上 打ち放し+塗装仕上 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 20mm 20mm </td> </tr> <tr> <td>内外部床面</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 直押さえ仕上 直押さえ+張り物仕上 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 15mm 15mm </td> </tr> <tr> <td>内壁面</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 打ち放し仕上 打ち放し+塗装仕上 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 15mm 10mm </td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 内部の床・壁・天井の下地組のある場合増打ちコンクリートは無しとする。</p>	部 位	仕 上 げ	増打ち厚さ	外壁面	<ul style="list-style-type: none"> 打ち放し仕上 打ち放し+塗装仕上 	<ul style="list-style-type: none"> 20mm 20mm 	内外部床面	<ul style="list-style-type: none"> 直押さえ仕上 直押さえ+張り物仕上 	<ul style="list-style-type: none"> 15mm 15mm 	内壁面	<ul style="list-style-type: none"> 打ち放し仕上 打ち放し+塗装仕上
部 位	仕 上 げ	増打ち厚さ											
外壁面	<ul style="list-style-type: none"> 打ち放し仕上 打ち放し+塗装仕上 	<ul style="list-style-type: none"> 20mm 20mm 											
内外部床面	<ul style="list-style-type: none"> 直押さえ仕上 直押さえ+張り物仕上 	<ul style="list-style-type: none"> 15mm 15mm 											
内壁面	<ul style="list-style-type: none"> 打ち放し仕上 打ち放し+塗装仕上 	<ul style="list-style-type: none"> 15mm 10mm 											

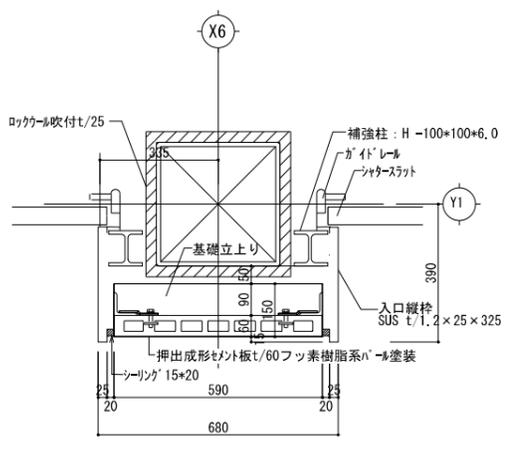


1階平面詳細図 S = 1/50

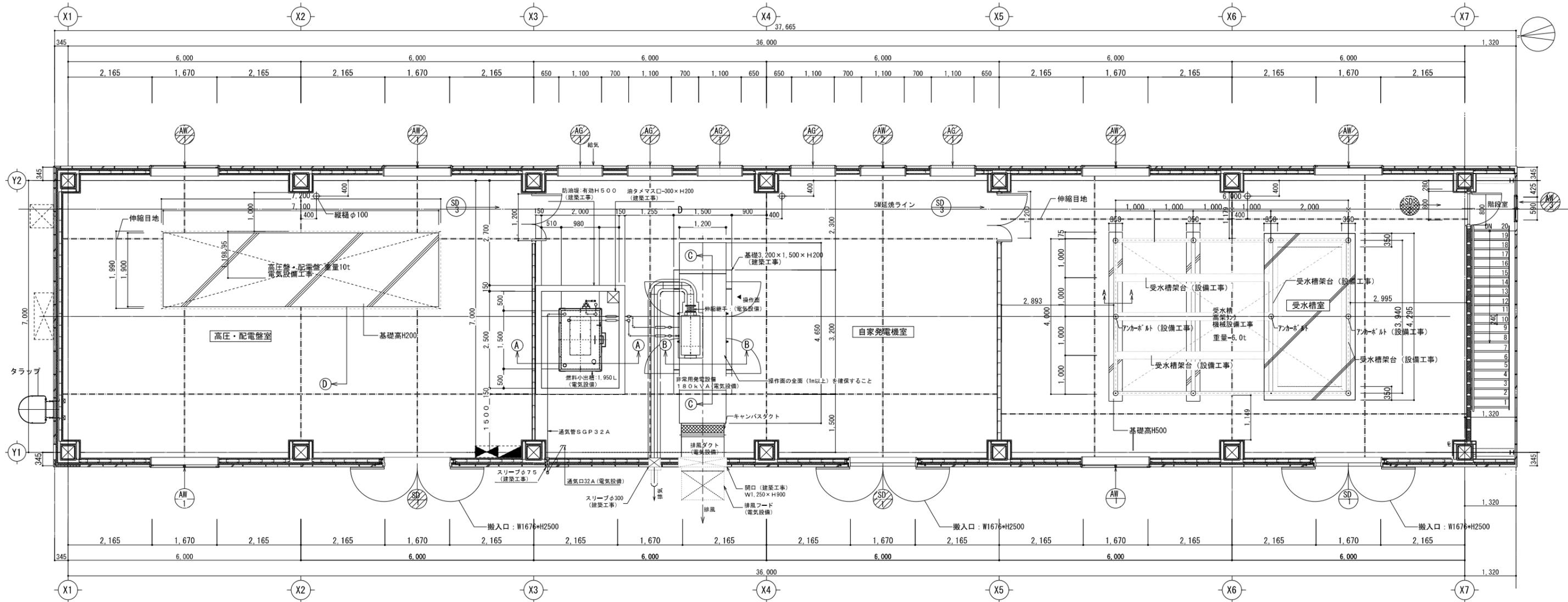
式			
1	1階床面積	37.665*7.69- (5.32*0.345*6)	278.63㎡
2	2階床面積	37.665*7.69	289.64㎡
3	延べ床面積	1+2	568.27㎡
4	建築面積	2と同様	289.64㎡
5	車庫部分面積	36.345 * (7.69-1.145) -(5.32 * 0.345 * 6)	226.86㎡

階段寸法	
幅	940mm
蹴上	200mm
踏面	240mm

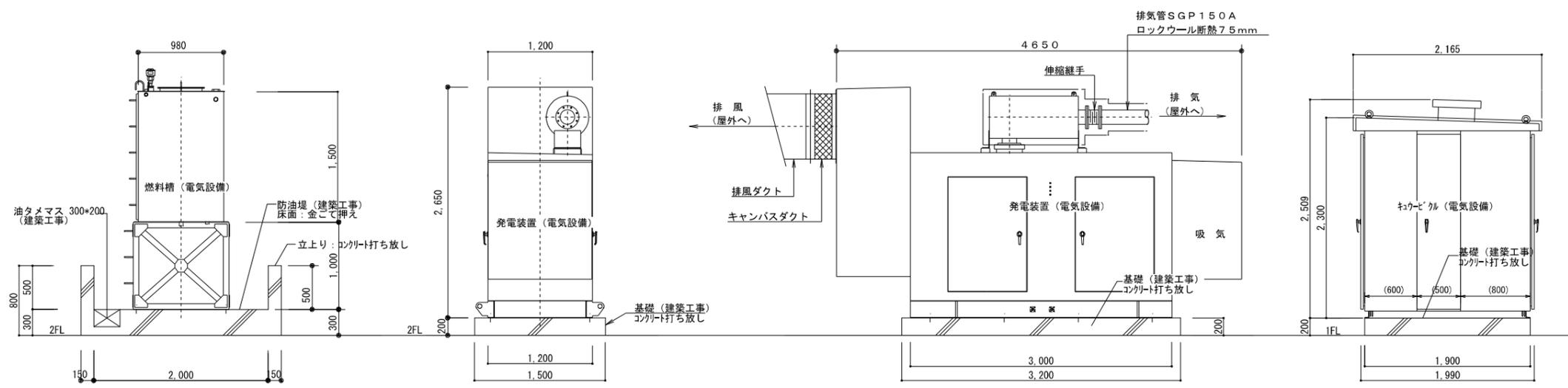
凡例	部位	仕様
	外壁	押出成型セメント板 t/60 x 590 縦張り
	内壁下地	LGS下地 W = 65
	間仕切壁下地	LGS下地 W = 65 GD-F t/12.5 + GB-R-H t/9.5両面張り・(異種用途区画) 内部がラス材充填24kg
	伸縮目地	カッター入れ・ウレタン充填20 x 15
	配管ビット	配管ビット217を示す。
	雨水用縦樋	φ100
	パネル	散水栓用パネル (W150*D250*H500) 設備工事
	耐火付被覆	鉄骨柱部：ロックール吹付 t/25
	マンホール	配管ビット点検マンホールφ600 (※ 円固定式) 密閉型 (防水・防臭型)



A部分詳細図 S = 1/10



2階平面詳細図 S = 1/50



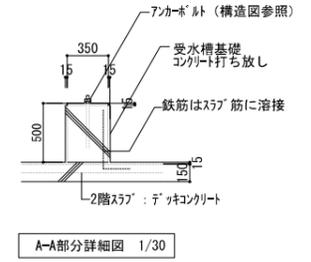
A-A 断面図 S = 1/30

B-B 断面図 S = 1/30

※ 基礎の配筋要領は構造図参照

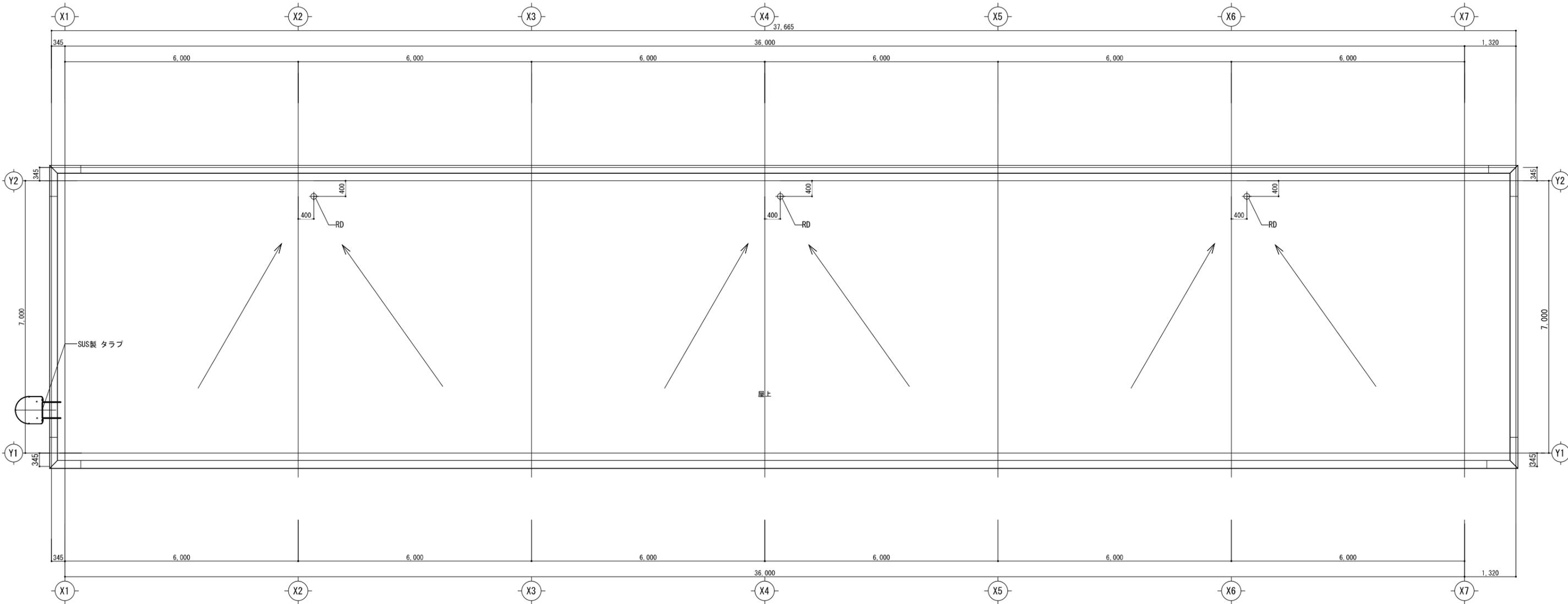
C-C 断面図 S = 1/30

D-D 断面図 S = 1/30

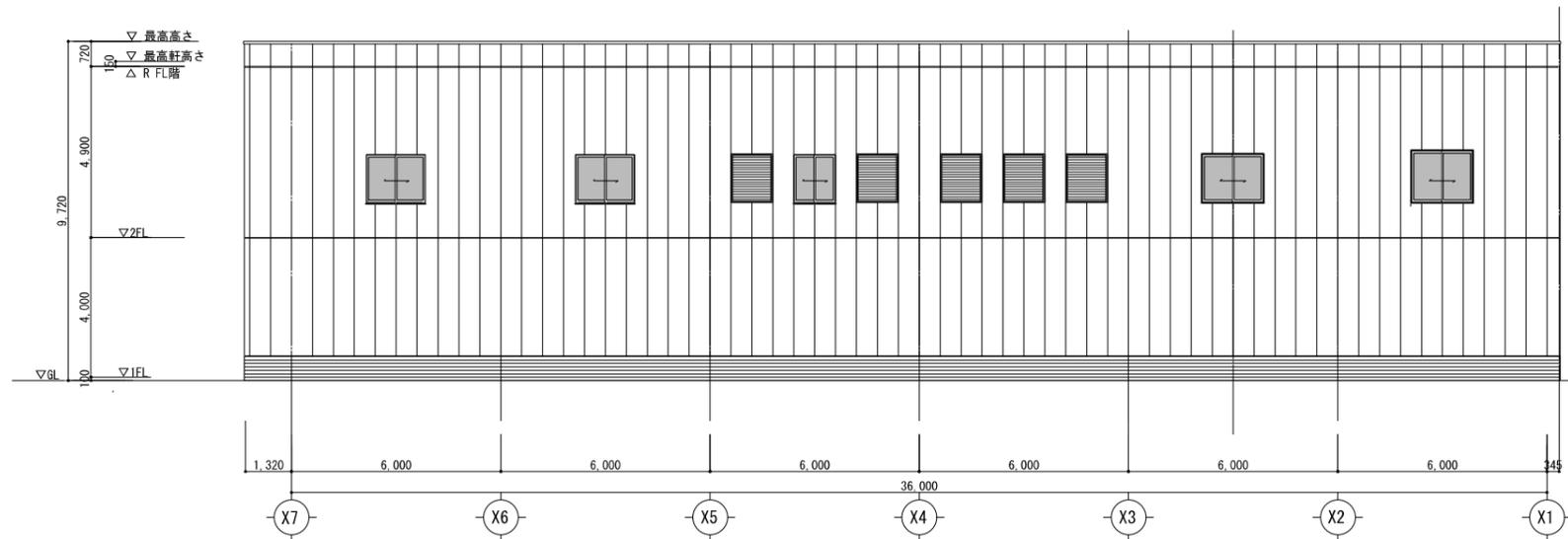


A-A部分詳細図 1/30

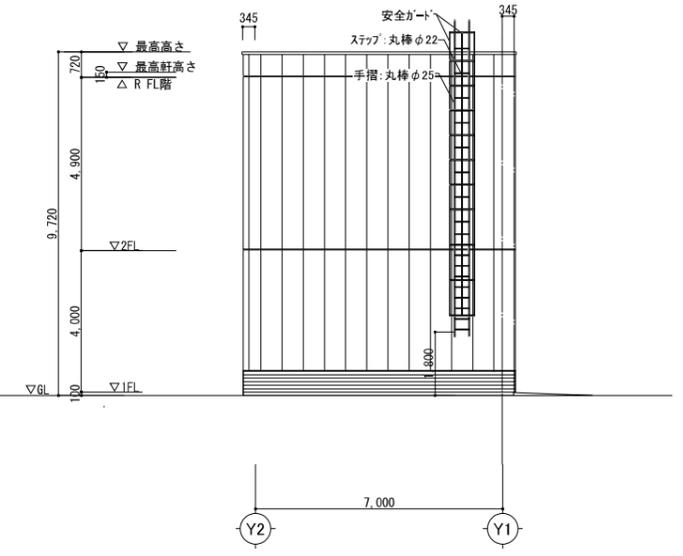
凡例	部位	仕様
	外壁	押出成型板 t/60 x 590 縦張り
	内壁下地	LGS下地 W=65
	間仕切壁下地	LGS下地 W=90 内部ｸﾞﾗｽﾞﾙﾙ充填 t/100 x 24kg 品
	伸縮目地	ｶｯﾀｰ入れ・ｳﾙﾀﾝﾓﾙﾄﾙ充填20 x 15
	雨水用縦樋	保温材(ｸﾞﾗｽﾞﾙﾙ)巻きの上ﾗｯｷﾝｸﾞ(SUS鋼板)カバー巻きとする。
	耐火被覆	鉄骨柱部: ロｯｸｳｰﾙ吹付t/25



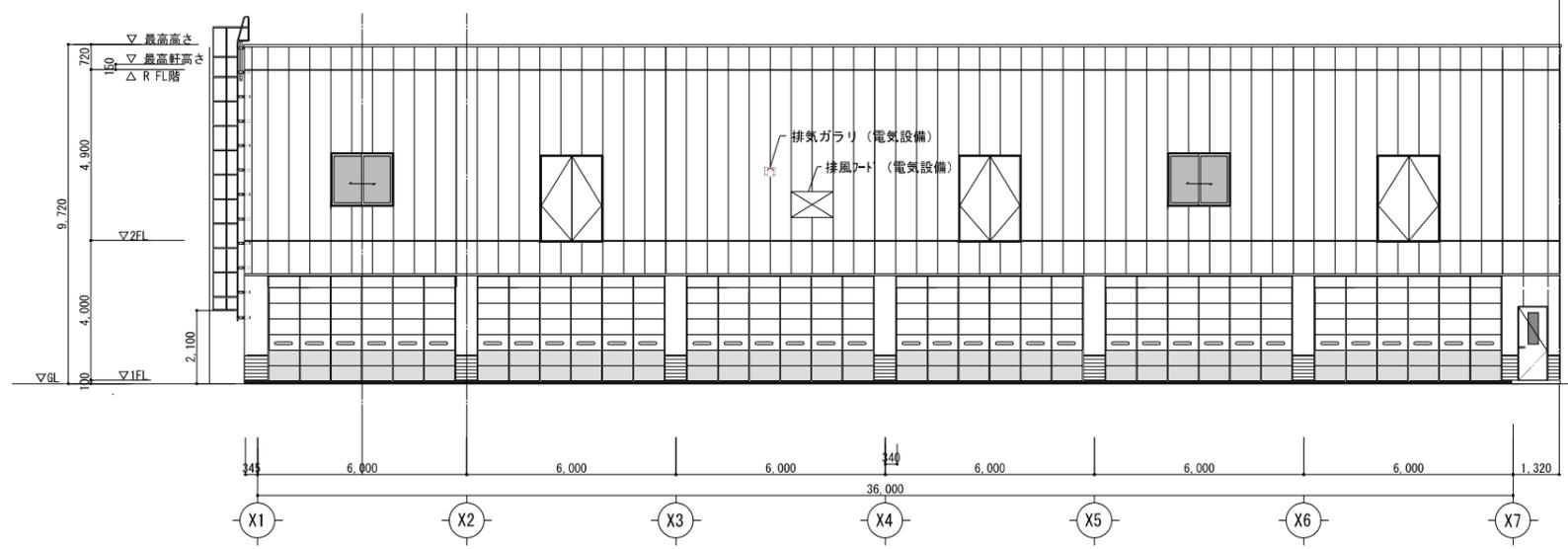
R 階平面詳細図 S = 1 : 50



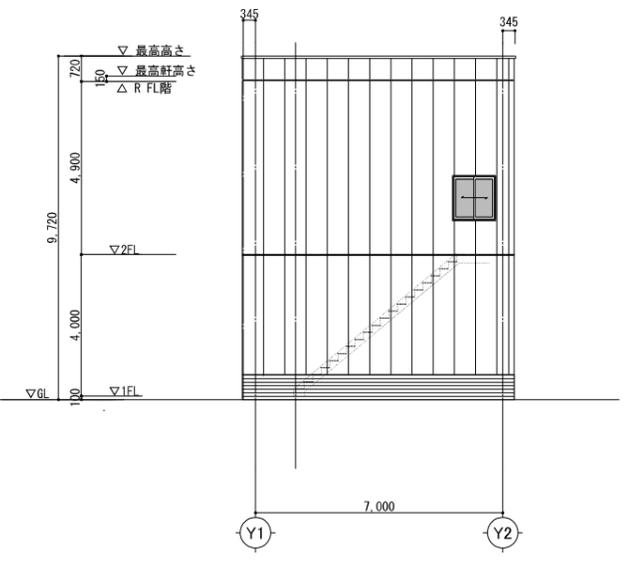
東側 立面図 S = 1/100



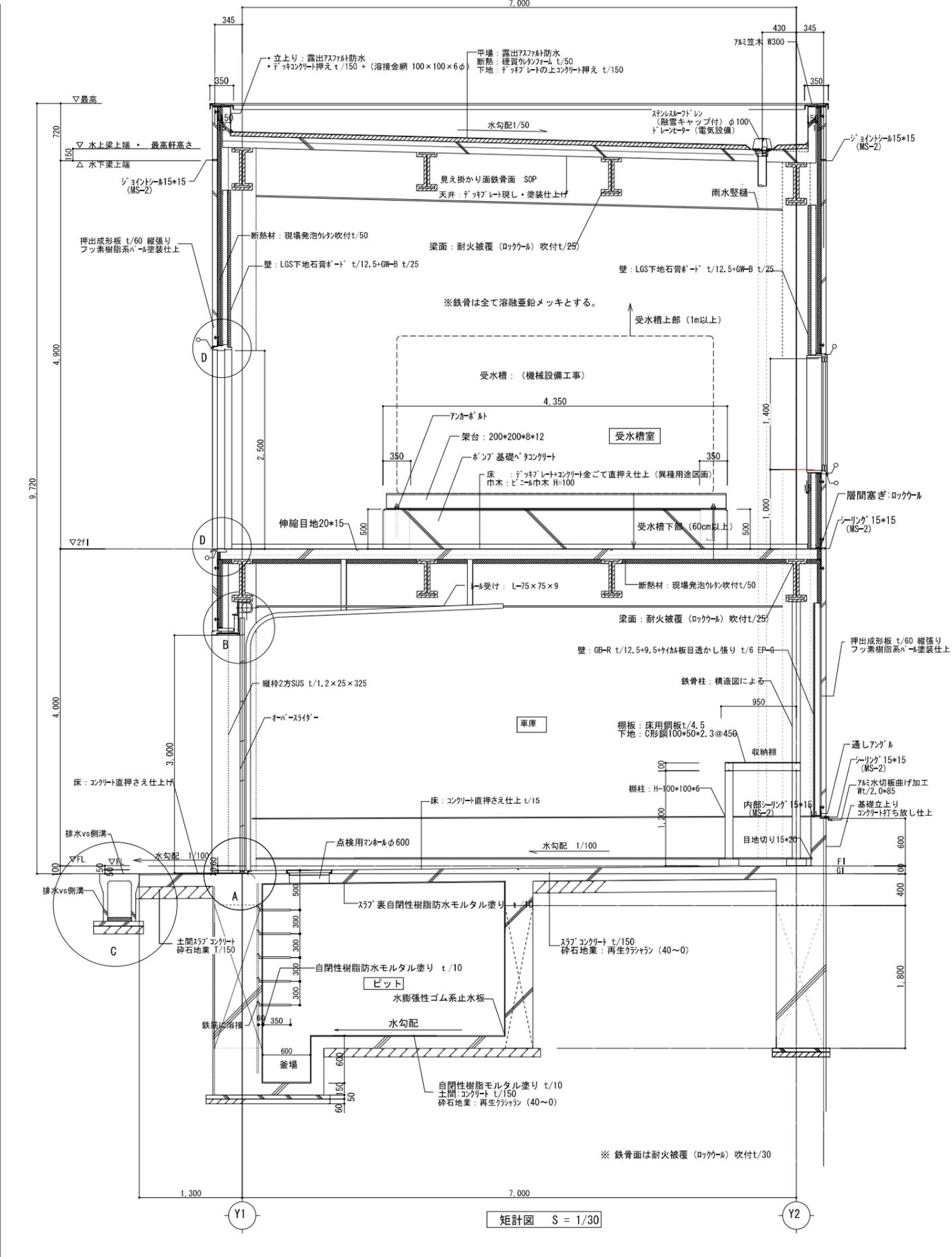
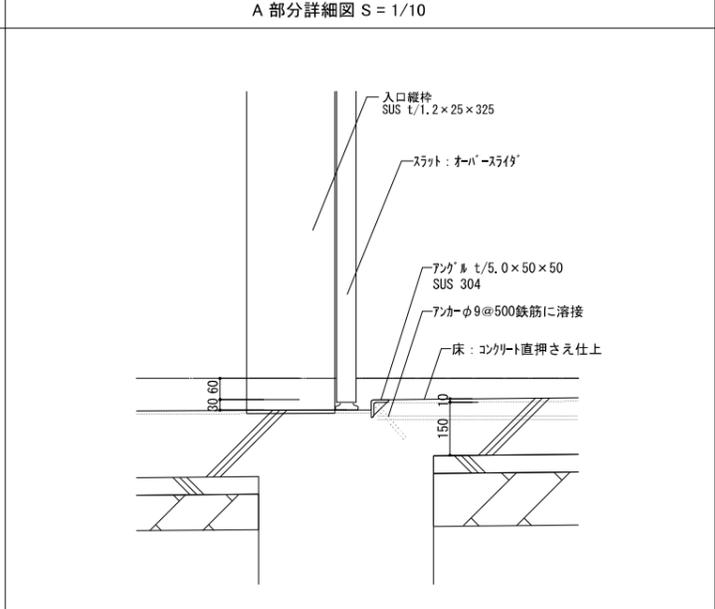
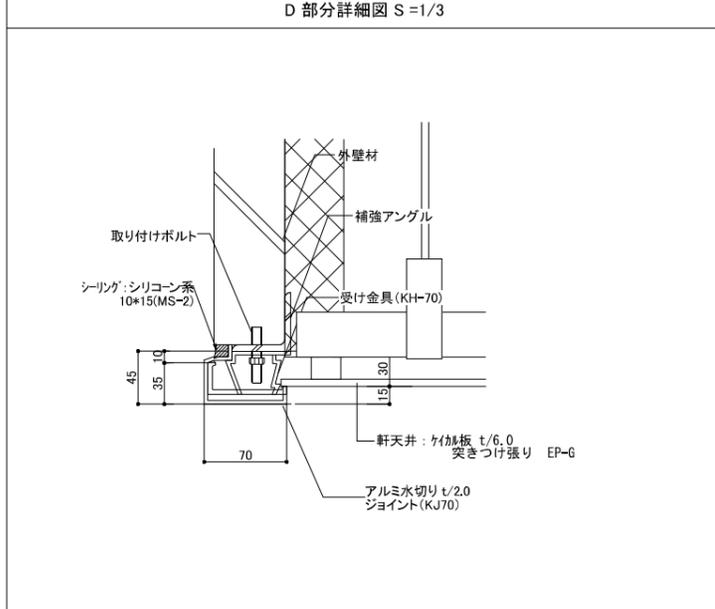
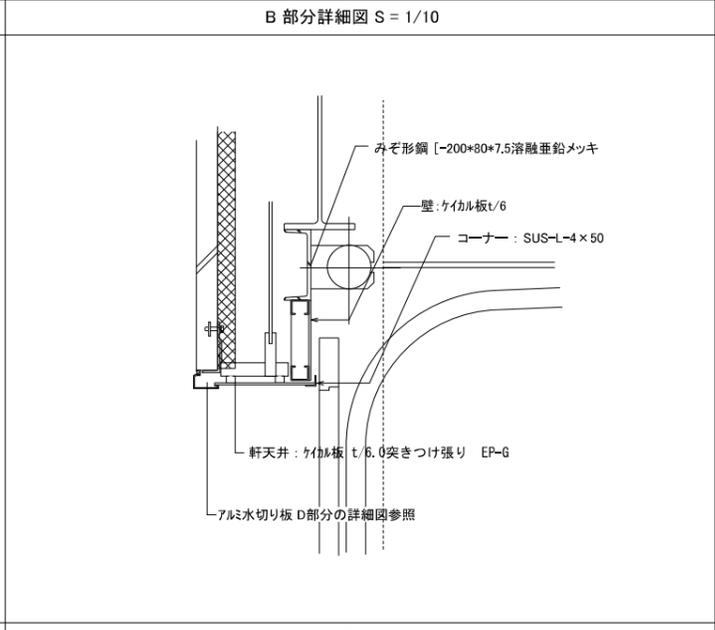
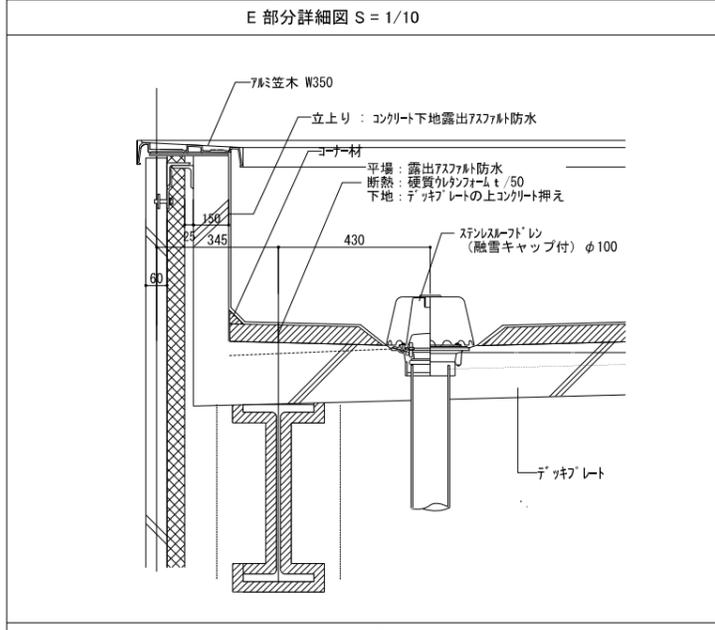
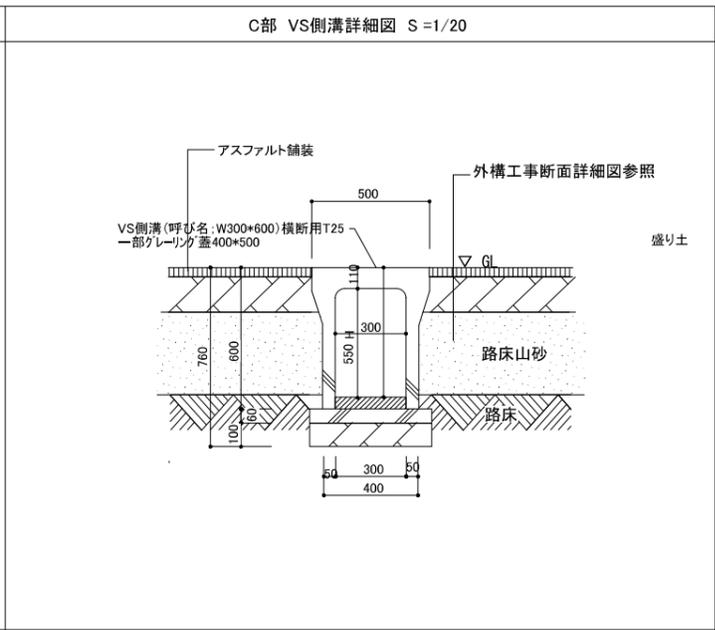
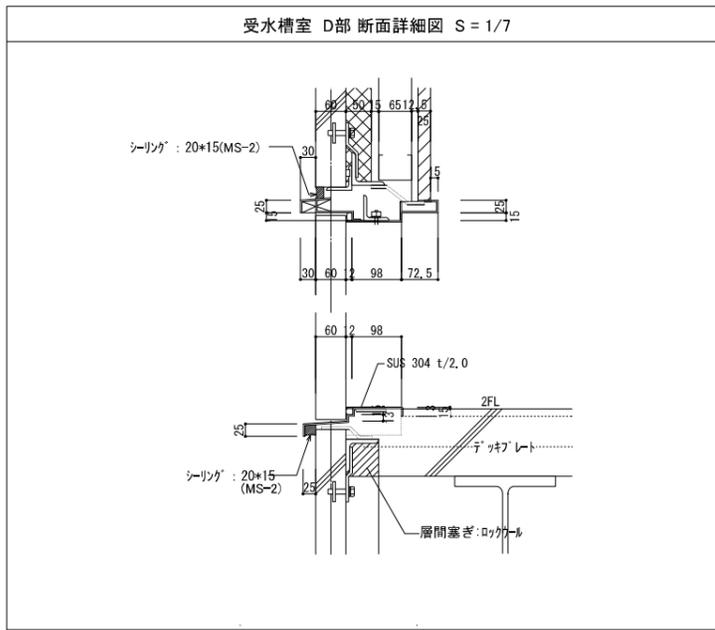
北側 立面図 S = 1/100

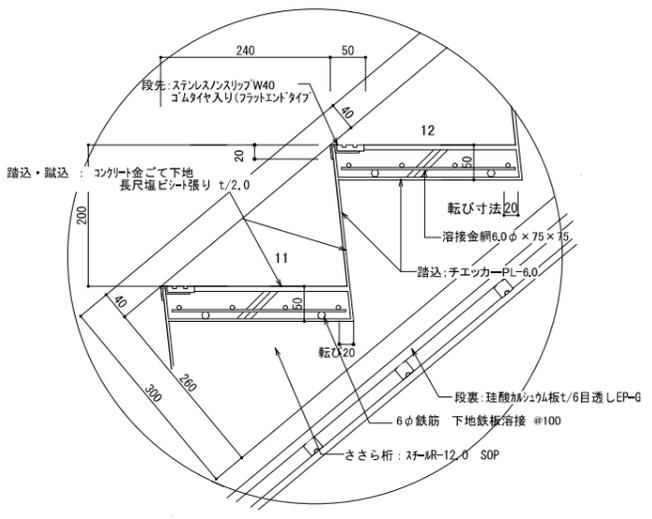


西側 立面図 S = 1/100

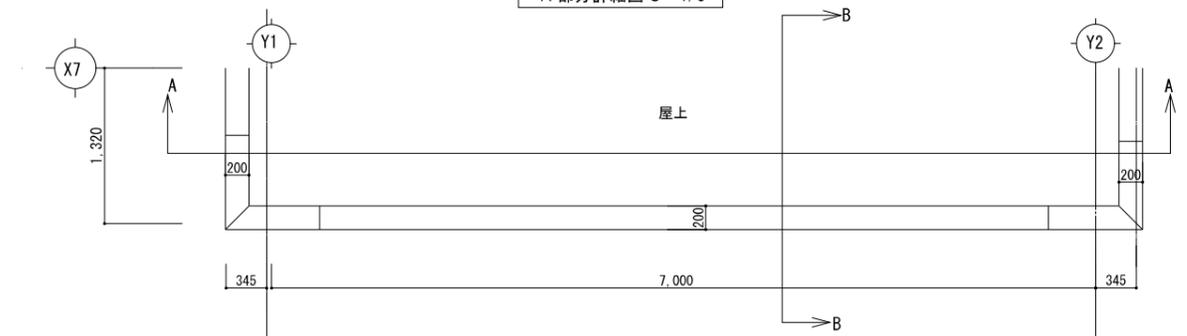


南側 立面図 S = 1/100

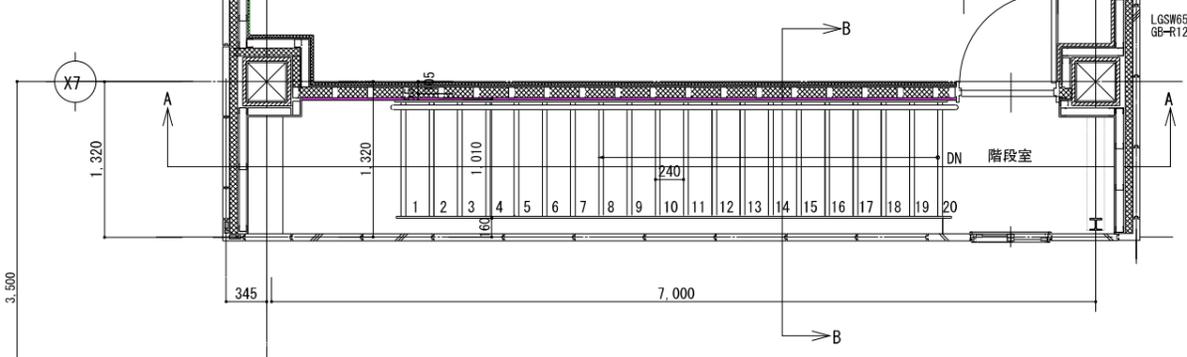




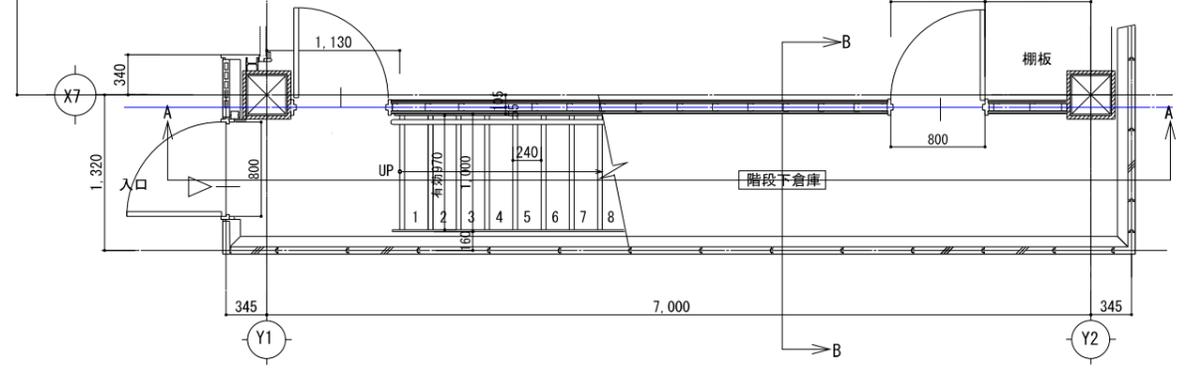
A部分詳細図 S=1/5



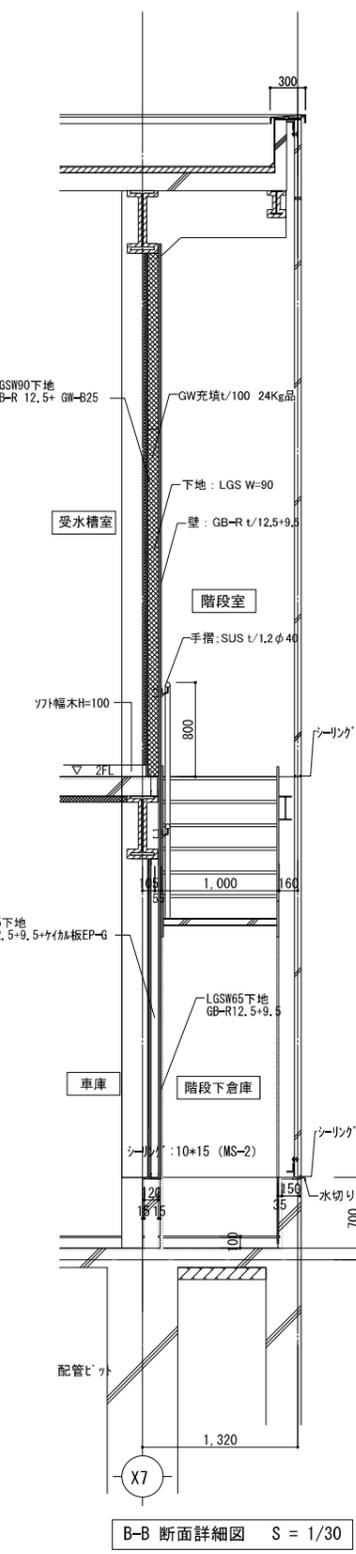
R階 階段平面詳細図 S=1/30



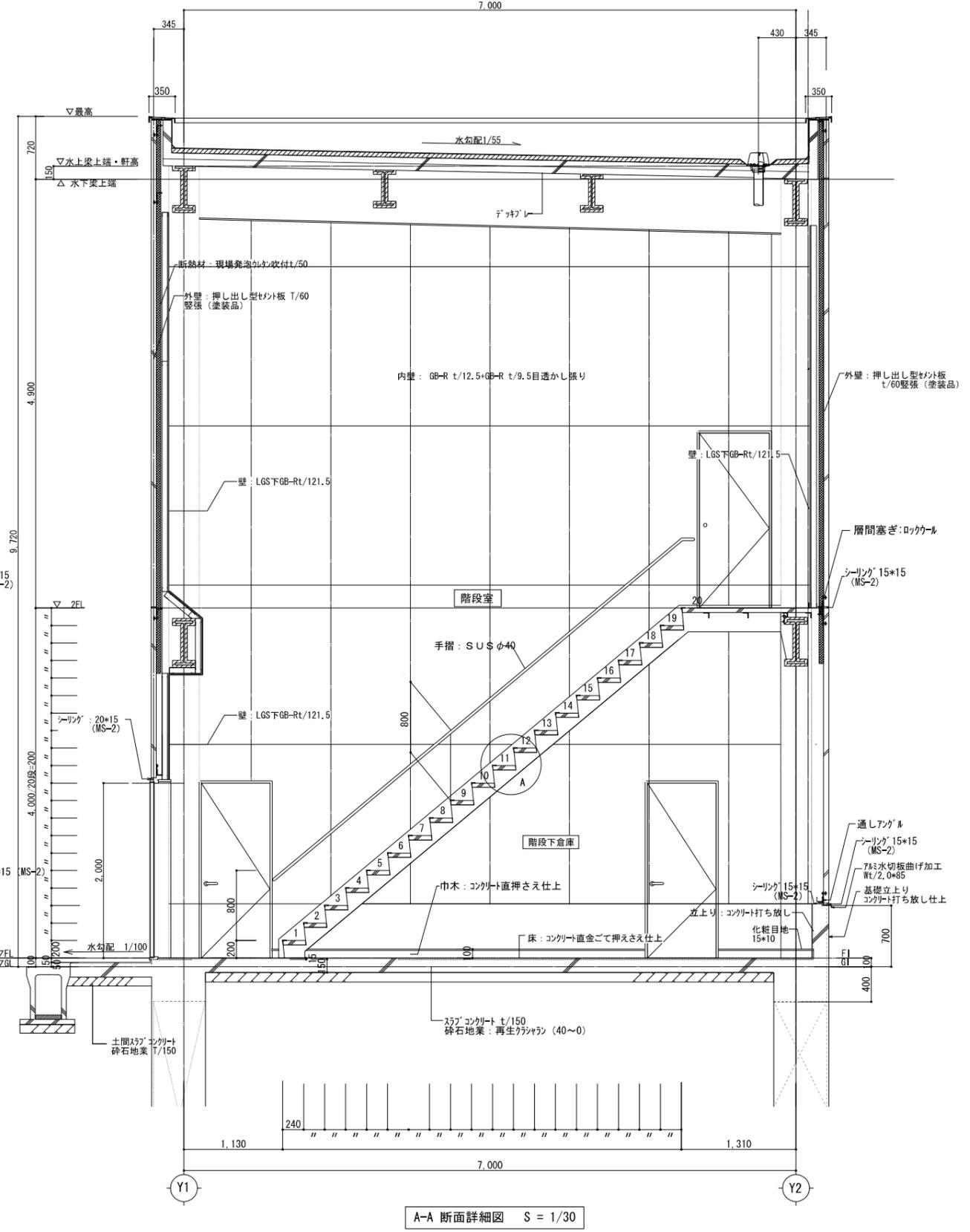
2階 階段平面詳細図 S=1/30



1階 階段平面詳細図 S=1/30



B-B 断面詳細図 S=1/30



A-A 断面詳細図 S=1/30

●支持地盤等 (3.2.1)(4.2.4)(4.3.4)(4.3.5)(4.4.4)(4.5.5)(4.5.6)

●杭基礎
 支持層の位置及び土質(基礎ぐいの先端の位置含む)
 ○図示による(S-標準-012)

●直接基礎
 支持地盤の位置及び土質(基礎底部の位置含む)
 ・図示による()
 試験照り(根切り底の状態の確認等)
 ・行わない
 ・行う
 位置等
 ・図示による()

●地盤の載荷試験(平板載荷試験)
 載荷試験の方法
 ・地盤工学会基準 JGS 15211による
 試験の位置、載荷荷重
 ・図示による()
 報告書の記載事項
 ・図示による()

●既製コンクリート杭地業 (4.2.2)(4.3.1)(4.3.3)~(4.3.6)(4.3.8)

種類
 ・遠心力高強度プレストレストコンクリート杭 (PHC杭)
 ・プレストレスト鉄筋コンクリート杭 (PRC杭)
 ・外装鋼管付きコンクリート杭 (SC杭)
 SC杭の鋼管材料 ・SKK400 ・SKK490

杭の種類、性能及び曲げ強度等による区分(種類)、寸法、継手の箇所数等

種類	コンクリート種類	強度(N/mm ²)	杭径(mm)	厚さ(mm)	杭長(mm)	継手数	つど数	長期設計支持力(kN/本)	備考
試験杭	上杭 中杭 下杭								
本杭	上杭 中杭 下杭								

杭先端部形状
 ・開放形 ・半開放形 ・閉そく形

工法
 ・セメントミルク工法
 試験杭
 試験杭の位置
 ・図示による()
 掘削深さ
 ・図示による()
 杭の支持層への掘入れ長さ
 ・図示による()
 杭の精度
 水平方向の位置ずれ
 ・杭径の1/4かつ100mm以下
 建込み時の杭の鉛直度
 ・1/100以内

●特定埋込杭工法
 ・H13国土交通省告示第1113号第6 による地盤の許容支持力方式で $\alpha=250$ を採用できる工法
 ・H13国土交通省告示第1113号第6 による地盤の許容支持力方式のうち
 $\alpha=()$ 、 $\beta=()$ 、 $\gamma=()$

工法
 ・プレボーリング拡大根固め工法
 ・中掘り拡大根固め工法

杭周固定液
 ・使用する ・使用しない

試験杭
 試験杭の位置
 ・図示による()
 杭の支持層への掘入れ長さ
 ※評定等の評価内容による

杭の精度
 水平方向の位置ずれ
 ※評定等の評価内容による
 建込み時の杭の鉛直度
 ※評定等の評価内容による

杭の継手の工法
 ・アーク溶接継手
 溶接材料
 ・標準仕様書 7.2.5(1)(2)による
 ・機械式継手(継手部に接続金具を用いた方式のもの)
 工法
 ※評定等を受けた工法

杭頭の処理等
 ・処理しない
 ・処理する
 処理方法(切断ともなう補強方法含む)
 ・図示による()

杭頭の中詰め材料
 ・基礎のコンクリートと同調合のもの
 杭施工に伴う養生汚泥の処理
 ・場内で固め処理した後に搬出

●鋼杭地業 (4.2.2)(4.4.3)~(4.4.6)

鋼杭の材料
 ・STK400 ○STK490

杭の種類、寸法、継手等

種類	杭径(mm)	板厚(mm)	杭長(mm)	継手数	つど数	長期設計支持力(kN/本)	備考
試験杭	上杭 中杭 下杭						
本杭	上杭 中杭 下杭						

特定埋込杭工法
 ・H13国土交通省告示第1113号第6 による地盤の許容支持力方式で $\alpha=250$ を採用できる工法
 ○H13国土交通省告示第1113号第6 による地盤の許容支持力方式のうち
 $\alpha=()$ 、 $\beta=()$ 、 $\gamma=()$

工法
 ・N-ECSパイル工法

試験杭
 試験杭の位置
 ○図示による()
 杭の支持層への掘入れ長さ
 ※評定等の評価内容による

杭の精度
 水平方向の位置ずれ
 ※評定等の評価内容による
 建込み時の杭の鉛直度
 ※評定等の評価内容による

杭の継手の工法
 ・アーク溶接継手
 形状
 ・JIS A 5525による
 溶接材料
 ・標準仕様書 7.2.5(1)(2)による

●機械式継手
 工法
 ※評定等を受けた工法

杭頭の処理等
 ○処理しない
 ・処理する
 処理方法(切断ともなう補強方法含む)
 ・図示による()

杭頭の中詰め材料
 ○基礎のコンクリートと同調合のもの

工法
 ・アースドリル工法(安定液 ※使用する ・使用しない)
 ・リバース工法
 ・オールケーシング工法(孔内の水張り ・行う ・行わない)

供用する工法
 ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法
 鋼管巻き材料
 ・SKK400 ・SKK490
 ・拡底杭工法(安定液 ※使用する ・使用しない)

寸法等

種類	種類記号	呼び径(mm)	備考
試験杭			
本杭			

試験杭
 試験杭の位置
 ・図示による()
 孔壁の保持状況(孔壁測定)
 測定箇所
 ・試験杭()箇所及び本杭()箇所
 杭の支持層への掘入れ長さ
 ・図示による()

杭の精度
 水平方向の位置ずれ
 ・杭径の1/4かつ100mm以下
 建込み時の杭の鉛直度
 ・1/100以内
 ※評定等の評価内容による

鉄筋の種類

種類記号	呼び径(mm)	備考
SD295		
SD345		

帯筋の加工及び組立
 ・図示による()
 鉄筋の最小かぶり厚さ
 ・100mm

鉄筋かごの補強
 ・

組み立てた鉄筋の節ごとの継手
 ※重ね継手
 重ね継手の長さ ・図示による()

主筋の基礎底盤への定着長さ
 ・図示による()

●場所打ちコンクリート地業 (4.2.2)(4.5.1)(4.5.4)~(4.5.9)

●砂利地業 (4.6.2)(4.6.3)

セメントの種類
 ※高炉セメントB種G
 コンクリートの設計基準強度
 ・図示による()
 コンクリートの種類
 ・A種 ・B種 ・評定等の評価内容による

スランプ
 ・18cm ・21cm
 構造体強度補正値
 ・3N/? ・評定等の評価内容による

材料
 砂利 ○再生クラッシュランG ・切込砂利又は切込砕石
 範囲
 ○基礎下、基礎梁下、土間スラブ下、土間コンクリート下
 ・図示による()
 厚さ
 ※60mm

●換コンクリート地業 (4.6.4)

範囲
 ○基礎下、基礎梁下、土間スラブ下 ・図示による()
 厚さ
 ※50mm
 設計基準強度
 ※18N/mm²
 スランプ
 ※15cm又は18cm

材料
 ※ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上

範囲
 ○建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下(ピット下を除く)

種類及び施工法等
 ○図示による(バリアフリー駐車場表層改)

形状等
 ・図示による()
 支持地盤
 ・図示による()
 型枠使用の有無
 ・無し
 ・有り 型枠の使用箇所等は図示による()

●床下防湿層 (4.6.2)(4.6.5)

●地盤改良工法
 ・置換コンクリート地業(ラッブルコンクリート地業)

●鉄筋 (5.2.1)

鉄筋の種類等

種類の記号	呼び径(mm)	備考
SD295	D10~D16	
SD345	D19~D25	
SD390	D29	

鉄筋の形状等

種類	種類の記号	鉄筋の形状、網目寸法、鉄筋の径(mm)	使用部位
溶接金網		Φ6-150×150	
鉄筋格子			

鉄筋の継手の方法等 (5.3.4)(5.5.3)(5.6.3)

部位	継手の方法	呼び径(mm)
柱、梁の主筋	○ガス圧接 ・溶接継手 ・重ね継手	D19以上
耐力壁の鉄筋	・重ね継手	
その他の鉄筋()	○重ね継手	

継手位置
 ○図示による(構造関係共通事項(配筋標準図)5.1.6.1.7.1.7.3.8.1)

柱及び梁主筋の重ね継手の長さ
 ○図示による(構造関係共通事項(配筋標準図)3.1(a)(2)及び表3.1)
 耐力壁の重ね継手の長さ
 ・図示による(構造関係共通事項(配筋標準図)3.1(a)(2)及び表3.1)

●鉄筋の定着 (5.3.4)

鉄筋の定着長さ
 ○図示による(構造関係共通事項(配筋標準図)3.1(b))

機械式定着工法
 ・適用する
 適用箇所
 ・図示による()

種類
 ・摩擦圧接接合 ・蝶合グラウト固定
 ・嵌合グラウト固定

工法
 ※第三者機関の評定等を取付している工法とする

必要定着長さ
 ※評定等の評価内容による

補強筋形状
 ※評定等の評価内容による

かぶり厚さ
 ※評定等の評価内容による

品質確認
 ※評定等の評価内容による
 検査
 ※評定等の評価内容による

●鉄筋のかぶり厚さ及び間隔(溶接金網を含む) (5.3.5)

最小かぶり厚さ
 ○図示による(構造関係共通事項(配筋標準図)4.1表4.1)
 軽量コンクリートを適用する場合
 ・あり 適用箇所()
 ・最小かぶり厚さに加える厚さ()mm
 耐久性上不利な箇所がある場合(塩害等を受けるおそれのある部分等)
 ・あり 適用箇所()
 ・最小かぶり厚さに加える厚さ()mm

●各部配筋 (5.3.7)

各部配筋
 ○図示による(構造関係共通事項(配筋標準図))

●ガス圧接継手 (5.4.10)

圧接完了後の圧接部の試験
 ※超音波探傷試験
 ・引張試験
 試験方法等 ※標準仕様書5.4.10(i)(b)①~⑥による

●機械式継手 (5.5.3)(5.5.5)

適用箇所
 ・図示による()
 H12建告第1463号に適合する性能
 ・A級

種類
 ・ねじ式鉄筋継手
 充填方式
 ・無機グラウト方式 ・有機グラウト方式
 ・端部ねじ加工継手
 ・モルタル充填式継手
 工法
 ※第三者機関の評定等を取付している工法

鉄筋相互のあき
 ※評定等の評価内容による

品質の確認
 ※評定等の評価内容による

検査
 ※評定等の評価内容による

施工完了後の継手部の試験
 ・外観試験
 試験対象
 ※全数
 試験項目
 ・評定等の評価内容による

試験方法
 ・評定等の評価内容による

●超音波測定試験
 試験対象
 ・抜取り
 ロット
 ・1組の作業班が1日に行った継手箇所、最大200箇所程度とする。

試験の箇所数
 1ロットに対して()箇所
 ・全数

試験項目
 ※挿入長さ
 試験方法
 ※JIS Z 3064(鉄筋コンクリート用機械式継手の鉄筋挿入長さの超音波測定方法及び判定基準)による

不合格となった場合の措置
 ・

●溶接継手 (5.6.3)(5.6.5)

適用箇所
 ・図示による()
 H12建告第1463号に適合する性能
 ・A級

溶接継手の工法
 ・図示による()

鉄筋相互のあき
 ・標準仕様書5.3.5(4)による
 ・評定等の評価内容による
 ・図示による()

施工完了後の溶接部の試験
 ・外観試験
 試験対象
 ※全数
 試験項目
 ・評定等の評価内容による

試験方法
 ・評定等の評価内容による

●超音波探傷試験
 試験対象
 ・抜取り
 ロット
 ・1組の作業班が1日に行った溶接箇所、最大200箇所程度とする。

試験の箇所数
 1ロットに対して()箇所
 ・全数

試験項目
 ※内部欠陥の検出
 試験方法
 ※JIS Z 3063(鉄筋コンクリート用異形棒鋼溶接部の超音波測定方法及び判定基準)による

不合格となった場合の措置
 ・

6 コンクリート工事	<p>○コンクリートの種類 (6.2.1)</p> <p>コンクリートの類別 ※I類 (JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート) ・II類 (JIS A 5308に適合したコンクリート)</p> <p>○コンクリートの気乾単位容積質量による種類及び強度等 (6.2.1)~(6.2.4) (6.3.2) (6.10.1) (6.10.2)</p> <table border="1"> <tr> <th>設計基準強度 (N/mm²)</th> <th>スラブ (cm)</th> <th>気乾単位容積質量 (t/m³)</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>○24</td> <td>※標準仕様書表6.2.2による</td> <td>○2.3程度</td> <td>全域</td> </tr> <tr> <td>○18</td> <td>※標準仕様書表6.2.2による</td> <td>○2.3程度</td> <td>外構、機械基礎</td> </tr> </table> <p>構造体強度補正值 ※標準仕様書表6.3.2による</p> <p>・軽量コンクリート</p> <table border="1"> <tr> <th>設計基準強度 (N/mm²)</th> <th>スラブ (cm)</th> <th>気乾単位容積質量 (t/m³)</th> <th>種類</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>・</td> <td>※21</td> <td>・</td> <td>・1種 ・2種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>構造体強度補正值 ※標準仕様書表6.3.2による</p>	設計基準強度 (N/mm ²)	スラブ (cm)	気乾単位容積質量 (t/m ³)	適用箇所	○24	※標準仕様書表6.2.2による	○2.3程度	全域	○18	※標準仕様書表6.2.2による	○2.3程度	外構、機械基礎	設計基準強度 (N/mm ²)	スラブ (cm)	気乾単位容積質量 (t/m ³)	種類	適用箇所	・	※21	・	・1種 ・2種		・	・	・			<p>○打継ぎの位置、ひび割れ誘発目地、打継目地 (6.6.4) (6.8.1) (9.7.3)</p> <p>打継ぎの位置 ※標準仕様書6.6.4(1)による ・図示による ()</p> <p>目地寸法 ※標準仕様書9.7.3(1) (7)による ・図示による ()</p> <p>ひび割れ誘発目地の位置・形状・寸法 ・図示による ()</p> <p>○構造体コンクリートの仕上り (6.2.5)</p> <p>合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上り</p> <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>○A種</td> <td>壁</td> </tr> <tr> <td>○B種</td> <td>基礎</td> </tr> <tr> <td>○C種</td> <td></td> </tr> </table> <p>コンクリートの仕上りの平たんさ (柱・梁・壁)</p> <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>○a種</td> <td>化粧打ち放しコンクリート、塗装仕上げ、壁紙張り、接着剤による陶磁器質タイル張り</td> </tr> <tr> <td>○b種</td> <td>仕上塗材塗り</td> </tr> <tr> <td>○c種</td> <td>セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り、モルタル塗り、胴縁下地</td> </tr> </table> <p>コンクリートの仕上りの平たんさ (床)</p> <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>○a種</td> <td>合成樹脂塗床、ビニル系床材張り、コンクリート直均し仕上げ、フリーアクセスフロア (蓋敷式)</td> </tr> <tr> <td>○b種</td> <td>カーペット張り、防水下地、セルフレベリング材塗り</td> </tr> <tr> <td>○c種</td> <td>タイル張り、モルタル塗り、二重床</td> </tr> </table>	種別	適用箇所	○A種	壁	○B種	基礎	○C種		種別	適用箇所	○a種	化粧打ち放しコンクリート、塗装仕上げ、壁紙張り、接着剤による陶磁器質タイル張り	○b種	仕上塗材塗り	○c種	セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り、モルタル塗り、胴縁下地	種別	適用箇所	○a種	合成樹脂塗床、ビニル系床材張り、コンクリート直均し仕上げ、フリーアクセスフロア (蓋敷式)	○b種	カーペット張り、防水下地、セルフレベリング材塗り	○c種	タイル張り、モルタル塗り、二重床	<p>○普通ボルト (7.2.3) (7.3.2) (7.3.8)</p> <p>ボルト及びナットの種類 ○標準仕様書表7.2.3 (JIS附属書)又は次による ボルトの規格は、JIS B 1180とする。 ボルトの種類は、呼び径六角ボルト又は金ねじ六角ボルトとし、材料は鋼とする。 ボルトの強度区分は、4.6又は4.8とする。なお、呼び径六角ボルトの軸径の最大寸法は、ボルトの径の値以下とする。 ナットの規格は、JIS B 1181とする。 ナットの種類は、六角ナット-Cとし、材料は鋼とする。</p> <p>産金 ※JIS B 1256による ボルトの軸端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ○図示による () 母屋又は胴縁の取付けに使用するボルトの孔径 ※ねじの呼び径+1.0mm</p> <p>ボルトの軸端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ○図示による () 摩擦面の処理方法 ・プラスチック (表面粗度50 μm Rz以上) ○りん酸塩処理</p> <p>○すべり試験の実施 ○すべり係数試験 ・すべり耐力試験 すべり試験を実施する場合、標準仕様書7.12.5(1) (7)又は(4)による摩擦面の確認は、本試験で作成した対比試験片で行うこと。</p>	<p>・仮組 (7.3.10)</p> <p>○溶接作業を行う技能資格者の技量付加試験 (7.6.3)</p> <p>○溶接接合 (7.6.4) (7.6.7)</p> <p>関係の形状 ○図示による () 鋼製エンドタブを切断する部分 切断する箇所 ○図示による (全域) 切断範囲 ○鋼製エンドタブ、裏当て金等は、梁フランジの端から5mm以下を残して直線状に切断する。 なお、切断線が交差する場合は、交差部をアール状に加工する。</p> <p>切断面の仕上げ ○標準仕様書7.6.7(1) (3) (5) (2)による</p> <p>スカラップの形状 ・図示による ()</p> <p>○入熱、バス間温度の溶接条件 (7.6.7) (7.6.10)</p> <p>鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件 ○図示による () 適用箇所 ○図示による () ・柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶込み溶接部</p>																														
	設計基準強度 (N/mm ²)	スラブ (cm)	気乾単位容積質量 (t/m ³)	適用箇所																																																																																	
	○24	※標準仕様書表6.2.2による	○2.3程度	全域																																																																																	
	○18	※標準仕様書表6.2.2による	○2.3程度	外構、機械基礎																																																																																	
	設計基準強度 (N/mm ²)	スラブ (cm)	気乾単位容積質量 (t/m ³)	種類	適用箇所																																																																																
	・	※21	・	・1種 ・2種																																																																																	
	・	・	・																																																																																		
	種別	適用箇所																																																																																			
	○A種	壁																																																																																			
	○B種	基礎																																																																																			
○C種																																																																																					
種別	適用箇所																																																																																				
○a種	化粧打ち放しコンクリート、塗装仕上げ、壁紙張り、接着剤による陶磁器質タイル張り																																																																																				
○b種	仕上塗材塗り																																																																																				
○c種	セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り、モルタル塗り、胴縁下地																																																																																				
種別	適用箇所																																																																																				
○a種	合成樹脂塗床、ビニル系床材張り、コンクリート直均し仕上げ、フリーアクセスフロア (蓋敷式)																																																																																				
○b種	カーペット張り、防水下地、セルフレベリング材塗り																																																																																				
○c種	タイル張り、モルタル塗り、二重床																																																																																				
○セメント (6.3.1) <p>種類 ※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種 (普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210 に示された規定の他、水和熱が7日目で352 J/g 以下、かつ28日目で 402 J/g 以下のものとする) 適用箇所 () ・高炉セメントB種 [G] 適用箇所 () ・フライアッシュセメントB種 [G] 適用箇所 ()</p>	<p>○打増し厚さ (打放し仕上げ部) (6.8.1)</p> <p>○打放し仕上げの打増し厚さ (外部に面する部分に限る) ○20mm ○打放し仕上げの打増し厚さ (内部に面する部分に限る) ○10mm ・20mm ○15 (1F床)</p>	<p>○溶融垂れつき高力ボルト (7.3.2) (7.4.2) (7.12.5)</p> <p>ボルトの軸端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ○図示による () 摩擦面の処理方法 ・プラスチック (表面粗度50 μm Rz以上) ○りん酸塩処理</p> <p>○すべり試験の実施 ○すべり係数試験 ・すべり耐力試験 すべり試験を実施する場合、標準仕様書7.12.5(1) (7)又は(4)による摩擦面の確認は、本試験で作成した対比試験片で行うこと。</p>	<p>○入熱、バス間温度の溶接条件 (7.6.7) (7.6.10)</p> <p>鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件 ○図示による () 適用箇所 ○図示による () ・柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶込み溶接部</p>																																																																																		
○骨材 (6.3.1) <p>アルカリシリカ反応性による区分 ※A ・B</p>	<p>○型枠 (6.8.2)</p> <p>せき板の材料及び厚さ ○合板 (※12mm) [G] ・ ・断熱材を兼用した型枠材 使用箇所 ・図示による () 性能 熱抵抗値を0.73m²・K/W以上を有するもの ・MCR工法用シート 適用箇所 ・図示による () 打増し厚さ ・20mm 打増し範囲 ・図示による () スリーブの材質・規格等 ○図示による ()</p>	<p>○アンカーボルト (7.2.4) (7.3.2)</p> <p>○構造用アンカーボルト種類 ○ABR400 ・ABR490 ○建方用アンカーボルト種類 ○SS400 アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度 ※標準仕様書表7.2.3による ○標準仕様書7.2.4以外のアンカーボルト適用箇所 ○図示による () ○SS400 アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度 ※標準仕様書表7.2.3による ボルトの軸端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ○図示による (CS-003)</p>	<p>○溶接部の試験 (7.6.12)</p> <p>平12建告第1464号第二号に関する外観試験方法等 ・「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」3.5.2 受入検査による ※抜き取り検査② ・抜き取り検査① JASS 6 付則 6 [鉄骨精度検査基準]の付表3「溶接」に関する試験方法等 ○JASS 6 10.4 [受入検査] e. 溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の採取箇所は、超音波探傷試験の試験箇所と同一とする。外観試験の不合格箇所は、すべて標準仕様書7.6.13による補修を行い、再試験する。 完全溶込み部の超音波探傷試験 ○工場溶接の場合 AQL (%) ※4.0 ・2.5</p> <table border="1"> <tr> <th>節</th> <th>○全て</th> <th>・</th> <th>・</th> <th>・</th> </tr> <tr> <td>検査水準</td> <td>※第6水準</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> </table> <p>○工事現場溶接の場合 ※全て</p>	節	○全て	・	・	・	検査水準	※第6水準	・	・	・																																																																								
節	○全て	・	・	・																																																																																	
検査水準	※第6水準	・	・	・																																																																																	
○混和材料 (6.3.1) <p>○混和剤 混和剤の種類 ※標準仕様書 6.3.1(4) (a)による ○混和材 混和材の種類 ※標準仕様書 6.3.1(4) (b)による</p>	<p>○型枠 (6.8.2)</p> <p>せき板の材料及び厚さ ○合板 (※12mm) [G] ・ ・断熱材を兼用した型枠材 使用箇所 ・図示による () 性能 熱抵抗値を0.73m²・K/W以上を有するもの ・MCR工法用シート 適用箇所 ・図示による () 打増し厚さ ・20mm 打増し範囲 ・図示による () スリーブの材質・規格等 ○図示による ()</p>	<p>○アンカーボルト (7.2.4) (7.3.2)</p> <p>○構造用アンカーボルト種類 ○ABR400 ・ABR490 ○建方用アンカーボルト種類 ○SS400 アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度 ※標準仕様書表7.2.3による ボルトの軸端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ○図示による (CS-003)</p>	<p>○溶接部の試験 (7.6.12)</p> <p>平12建告第1464号第二号に関する外観試験方法等 ・「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」3.5.2 受入検査による ※抜き取り検査② ・抜き取り検査① JASS 6 付則 6 [鉄骨精度検査基準]の付表3「溶接」に関する試験方法等 ○JASS 6 10.4 [受入検査] e. 溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の採取箇所は、超音波探傷試験の試験箇所と同一とする。外観試験の不合格箇所は、すべて標準仕様書7.6.13による補修を行い、再試験する。 完全溶込み部の超音波探傷試験 ○工場溶接の場合 AQL (%) ※4.0 ・2.5</p> <table border="1"> <tr> <th>節</th> <th>○全て</th> <th>・</th> <th>・</th> <th>・</th> </tr> <tr> <td>検査水準</td> <td>※第6水準</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> </table> <p>○工事現場溶接の場合 ※全て</p>	節	○全て	・	・	・	検査水準	※第6水準	・	・	・																																																																								
節	○全て	・	・	・																																																																																	
検査水準	※第6水準	・	・	・																																																																																	
○中空コンクリート (6.11.1) (6.11.2) <p>適用期間 ○図示による () 構造体強度補正值 ○標準仕様書6.11.2(3) (7)による ・積算温度による</p>	<p>○型枠 (6.8.2)</p> <p>せき板の材料及び厚さ ○合板 (※12mm) [G] ・ ・断熱材を兼用した型枠材 使用箇所 ・図示による () 性能 熱抵抗値を0.73m²・K/W以上を有するもの ・MCR工法用シート 適用箇所 ・図示による () 打増し厚さ ・20mm 打増し範囲 ・図示による () スリーブの材質・規格等 ○図示による ()</p>	<p>○アンカーボルト (7.2.4) (7.3.2)</p> <p>○構造用アンカーボルト種類 ○ABR400 ・ABR490 ○建方用アンカーボルト種類 ○SS400 アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度 ※標準仕様書表7.2.3による ボルトの軸端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ○図示による (CS-003)</p>	<p>○溶接部の試験 (7.6.12)</p> <p>平12建告第1464号第二号に関する外観試験方法等 ・「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」3.5.2 受入検査による ※抜き取り検査② ・抜き取り検査① JASS 6 付則 6 [鉄骨精度検査基準]の付表3「溶接」に関する試験方法等 ○JASS 6 10.4 [受入検査] e. 溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の採取箇所は、超音波探傷試験の試験箇所と同一とする。外観試験の不合格箇所は、すべて標準仕様書7.6.13による補修を行い、再試験する。 完全溶込み部の超音波探傷試験 ○工場溶接の場合 AQL (%) ※4.0 ・2.5</p> <table border="1"> <tr> <th>節</th> <th>○全て</th> <th>・</th> <th>・</th> <th>・</th> </tr> <tr> <td>検査水準</td> <td>※第6水準</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> </table> <p>○工事現場溶接の場合 ※全て</p>	節	○全て	・	・	・	検査水準	※第6水準	・	・	・																																																																								
節	○全て	・	・	・																																																																																	
検査水準	※第6水準	・	・	・																																																																																	
○暑中コンクリート (6.12.2) <p>構造体強度補正值 ※6N/mm</p>	<p>○型枠 (6.8.2)</p> <p>せき板の材料及び厚さ ○合板 (※12mm) [G] ・ ・断熱材を兼用した型枠材 使用箇所 ・図示による () 性能 熱抵抗値を0.73m²・K/W以上を有するもの ・MCR工法用シート 適用箇所 ・図示による () 打増し厚さ ・20mm 打増し範囲 ・図示による () スリーブの材質・規格等 ○図示による ()</p>	<p>○アンカーボルト (7.2.4) (7.3.2)</p> <p>○構造用アンカーボルト種類 ○ABR400 ・ABR490 ○建方用アンカーボルト種類 ○SS400 アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度 ※標準仕様書表7.2.3による ボルトの軸端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ○図示による (CS-003)</p>	<p>○溶接部の試験 (7.6.12)</p> <p>平12建告第1464号第二号に関する外観試験方法等 ・「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」3.5.2 受入検査による ※抜き取り検査② ・抜き取り検査① JASS 6 付則 6 [鉄骨精度検査基準]の付表3「溶接」に関する試験方法等 ○JASS 6 10.4 [受入検査] e. 溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の採取箇所は、超音波探傷試験の試験箇所と同一とする。外観試験の不合格箇所は、すべて標準仕様書7.6.13による補修を行い、再試験する。 完全溶込み部の超音波探傷試験 ○工場溶接の場合 AQL (%) ※4.0 ・2.5</p> <table border="1"> <tr> <th>節</th> <th>○全て</th> <th>・</th> <th>・</th> <th>・</th> </tr> <tr> <td>検査水準</td> <td>※第6水準</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> </table> <p>○工事現場溶接の場合 ※全て</p>	節	○全て	・	・	・	検査水準	※第6水準	・	・	・																																																																								
節	○全て	・	・	・																																																																																	
検査水準	※第6水準	・	・	・																																																																																	
○マスコンクリート (6.13.1) (6.13.2) <p>適用箇所 ・図示による () セメントの種類 ・普通ポルトランドセメント ・中熱ポルトランドセメント ・低熱ポルトランドセメント ・高炉セメントB種 [G] ・フライアッシュセメントB種 [G] ・シリカセメント ・</p> <p>混和材料 ・混和剤 混和剤の種類 ※標準仕様書 6.13.2(2) (7)による ・混和材 混和材の種類 ※標準仕様書 6.13.2(2) (4)による</p> <p>スラブ ※15cm 構造体強度補正值 ※標準仕様書表6.13.1による</p>	<p>○型枠 (6.8.2)</p> <p>せき板の材料及び厚さ ○合板 (※12mm) [G] ・ ・断熱材を兼用した型枠材 使用箇所 ・図示による () 性能 熱抵抗値を0.73m²・K/W以上を有するもの ・MCR工法用シート 適用箇所 ・図示による () 打増し厚さ ・20mm 打増し範囲 ・図示による () スリーブの材質・規格等 ○図示による ()</p>	<p>○アンカーボルト (7.2.4) (7.3.2)</p> <p>○構造用アンカーボルト種類 ○ABR400 ・ABR490 ○建方用アンカーボルト種類 ○SS400 アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度 ※標準仕様書表7.2.3による ボルトの軸端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ○図示による (CS-003)</p>	<p>○溶接部の試験 (7.6.12)</p> <p>平12建告第1464号第二号に関する外観試験方法等 ・「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」3.5.2 受入検査による ※抜き取り検査② ・抜き取り検査① JASS 6 付則 6 [鉄骨精度検査基準]の付表3「溶接」に関する試験方法等 ○JASS 6 10.4 [受入検査] e. 溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の採取箇所は、超音波探傷試験の試験箇所と同一とする。外観試験の不合格箇所は、すべて標準仕様書7.6.13による補修を行い、再試験する。 完全溶込み部の超音波探傷試験 ○工場溶接の場合 AQL (%) ※4.0 ・2.5</p> <table border="1"> <tr> <th>節</th> <th>○全て</th> <th>・</th> <th>・</th> <th>・</th> </tr> <tr> <td>検査水準</td> <td>※第6水準</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> </table> <p>○工事現場溶接の場合 ※全て</p>	節	○全て	・	・	・	検査水準	※第6水準	・	・	・																																																																								
節	○全て	・	・	・																																																																																	
検査水準	※第6水準	・	・	・																																																																																	
○無筋コンクリート (6.14.1) <p>コンクリートの種類 ※普通コンクリート セメントの種類 ※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種 ・高炉セメントB種 [G] ・フライアッシュセメントB種 [G]</p> <p>設計基準強度 ※18N/mm スラブ ※15cm又は18cm 適用箇所 ※標準仕様書 6.14.1(4) (7)~(h)による</p>	<p>○型枠 (6.8.2)</p> <p>せき板の材料及び厚さ ○合板 (※12mm) [G] ・ ・断熱材を兼用した型枠材 使用箇所 ・図示による () 性能 熱抵抗値を0.73m²・K/W以上を有するもの ・MCR工法用シート 適用箇所 ・図示による () 打増し厚さ ・20mm 打増し範囲 ・図示による () スリーブの材質・規格等 ○図示による ()</p>	<p>○アンカーボルト (7.2.4) (7.3.2)</p> <p>○構造用アンカーボルト種類 ○ABR400 ・ABR490 ○建方用アンカーボルト種類 ○SS400 アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度 ※標準仕様書表7.2.3による ボルトの軸端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ○図示による (CS-003)</p>	<p>○溶接部の試験 (7.6.12)</p> <p>平12建告第1464号第二号に関する外観試験方法等 ・「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」3.5.2 受入検査による ※抜き取り検査② ・抜き取り検査① JASS 6 付則 6 [鉄骨精度検査基準]の付表3「溶接」に関する試験方法等 ○JASS 6 10.4 [受入検査] e. 溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の採取箇所は、超音波探傷試験の試験箇所と同一とする。外観試験の不合格箇所は、すべて標準仕様書7.6.13による補修を行い、再試験する。 完全溶込み部の超音波探傷試験 ○工場溶接の場合 AQL (%) ※4.0 ・2.5</p> <table border="1"> <tr> <th>節</th> <th>○全て</th> <th>・</th> <th>・</th> <th>・</th> </tr> <tr> <td>検査水準</td> <td>※第6水準</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> </table> <p>○工事現場溶接の場合 ※全て</p>	節	○全て	・	・	・	検査水準	※第6水準	・	・	・																																																																								
節	○全て	・	・	・																																																																																	
検査水準	※第6水準	・	・	・																																																																																	
○流動化コンクリート (6.15.1) <p>適用箇所 ・図示による ()</p>	<p>○型枠 (6.8.2)</p> <p>せき板の材料及び厚さ ○合板 (※12mm) [G] ・ ・断熱材を兼用した型枠材 使用箇所 ・図示による () 性能 熱抵抗値を0.73m²・K/W以上を有するもの ・MCR工法用シート 適用箇所 ・図示による () 打増し厚さ ・20mm 打増し範囲 ・図示による () スリーブの材質・規格等 ○図示による ()</p>	<p>○アンカーボルト (7.2.4) (7.3.2)</p> <p>○構造用アンカーボルト種類 ○ABR400 ・ABR490 ○建方用アンカーボルト種類 ○SS400 アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度 ※標準仕様書表7.2.3による ボルトの軸端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ○図示による (CS-003)</p>	<p>○溶接部の試験 (7.6.12)</p> <p>平12建告第1464号第二号に関する外観試験方法等 ・「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」3.5.2 受入検査による ※抜き取り検査② ・抜き取り検査① JASS 6 付則 6 [鉄骨精度検査基準]の付表3「溶接」に関する試験方法等 ○JASS 6 10.4 [受入検査] e. 溶接部の外観検査(1)から(5)までによる。ただし、完全溶込み溶接部の外観検査の採取箇所は、超音波探傷試験の試験箇所と同一とする。外観試験の不合格箇所は、すべて標準仕様書7.6.13による補修を行い、再試験する。 完全溶込み部の超音波探傷試験 ○工場溶接の場合 AQL (%) ※4.0 ・2.5</p> <table border="1"> <tr> <th>節</th> <th>○全て</th> <th>・</th> <th>・</th> <th>・</th> </tr> <tr> <td>検査水準</td> <td>※第6水準</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> </table> <p>○工事現場溶接の場合 ※全て</p>	節	○全て	・	・	・	検査水準	※第6水準	・	・	・																																																																								
節	○全て	・	・	・																																																																																	
検査水準	※第6水準	・	・	・																																																																																	
7 鉄骨工事	<p>○鉄骨製作工場 (7.1.3)</p> <p>鉄骨製作工場の加工能力 ※建築基準法第68条の25に基づき国土交通大臣から構造方法等の認定を取得している鉄骨製作工場又は同等以上の能力のある工場 (M)グレード以上 ・監督職員の承諾する工場</p> <p>○鉄骨製作工場における施工管理技術者 (7.1.4)</p> <p>※配置する</p> <p>○鋼材 (7.2.1) (7.2.10)</p> <table border="1"> <tr> <th>種類の記号</th> <th>適用箇所 (主要な部分)</th> <th>規格</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>・JISによる</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>・JISによる</td> </tr> <tr> <td></td> <td>(図面による)</td> <td>・JISによる</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>・JISによる</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>・JISによる</td> </tr> </table> <p>○高力ボルト (7.2.2) (7.3.2) (7.4.2)</p> <p>高力ボルトの種類 ○トルネード形高力ボルト ○JIS形高力ボルト ・</p> <p>ボルトの軸端距離、ボルト間隔、ゲージ等 ○図示による () 摩擦面の処理方法 ○標準仕様書7.4.2(1)による ・ ・すべり試験の実施 ・すべり係数試験 ・すべり耐力試験 すべり試験を実施する場合、標準仕様書7.4.2(1) (4)による摩擦面の確認は、本試験で作成した対比試験片で行うこと。</p>	種類の記号	適用箇所 (主要な部分)	規格			・JISによる			・JISによる		(図面による)	・JISによる			・JISによる			・JISによる	<p>○溶接材料 (7.2.5)</p> <p>溶接材料 ○標準仕様書 7.2.5(1) (2)による</p> <p>○ターナックル (7.2.6)</p> <p>種類 建築用ターナックルボルト ※羽子板ボルト 建築用ターナックル鋼 ※割棒式 ねじの呼び ・図示による ()</p> <p>○床構造用のデッキプレート (7.2.7) (7.7.8)</p> <table border="1"> <tr> <th>材質、形状及び寸法</th> <th>適用箇所</th> <th>材質・形状・寸法</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>○デッキプレート 単独の構造</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・デッキプレートとコンクリートとの合 成スラブとする構造</td> <td></td> <td>(図面による)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>開口部補強要領 (補強筋の定着長さ等を含む) ・図示による () 鉄骨部材への溶接方法 ・図示による () 耐火認定 ・あり 耐火時間 ・図示による () ・なし</p> <p>○スタッド (7.2.8)</p> <table border="1"> <tr> <th>呼び名</th> <th>呼び長さ (mm)</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>○16</td> <td>(図面による)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○19</td> <td>(図面による)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・22</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>○柱底均しモルタル (7.2.9)</p> <p>無収縮モルタルとする場合の材料、調合等 ※標準仕様書 7.2.9(2) (7)から(4)による</p> <p>○製作精度 (7.3.3)</p> <p>鉄骨の製作精度は、JASS 6 付則 6 [鉄骨精度検査基準]に加えて、次による 通しダイアグラムの突合せ継手の食い違いの寸法 ※H12建告第1464号第二号(2)による ・ アンダーカットの寸法 ※H12建告第1464号第二号(3)による ・ 食い違い仕口のずれの検査方法及び補強方法 ○「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による</p>	材質、形状及び寸法	適用箇所	材質・形状・寸法	備考	○デッキプレート 単独の構造				・デッキプレートとコンクリートとの合 成スラブとする構造		(図面による)		・				呼び名	呼び長さ (mm)	適用箇所	○16	(図面による)		○19	(図面による)		・22			<p>○耐火被覆 (7.9.2)~(7.9.8)</p> <p>種類、材料、工法等</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>材料・工法</th> <th>性能 (耐火時間)</th> <th>適用箇所 (部位・部分)</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">○耐火材吹付け</td> <td>○乾式吹付けロックウール</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・半乾式吹付けロックウール</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・湿式ロックウール</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・耐火板張り</td> <td>・繊維混入型酸カルシウム板</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・耐火材巻付け</td> <td>・高断熱ロックウール</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ラス張りモルタル塗り</td> <td>・</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・耐火塗料</td> <td>・</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>○アンカーボルト等の設置等 (7.10.3)</p> <p>構造用アンカーボルトの形状及び寸法 ○図示による () 構造用アンカーフレームの形状及び寸法 ○図示による () 建方用アンカーボルトの形状及び寸法 ○図示による () 建方用アンカーボルトの保持及び埋込み工法 種類 ○A種 ・B種 柱底均しモルタルの厚さ及び工法の種類 厚さ ○50 種類 ※A種 ・B種</p> <p>ボルトの接合部 ○普通ボルト接合 (7.11.2)</p>	種類	材料・工法	性能 (耐火時間)	適用箇所 (部位・部分)	○耐火材吹付け	○乾式吹付けロックウール			・半乾式吹付けロックウール			・湿式ロックウール			・耐火板張り	・繊維混入型酸カルシウム板			・			・耐火材巻付け	・高断熱ロックウール			・			・ラス張りモルタル塗り	・			・耐火塗料	・		
種類の記号	適用箇所 (主要な部分)	規格																																																																																			
		・JISによる																																																																																			
		・JISによる																																																																																			
	(図面による)	・JISによる																																																																																			
		・JISによる																																																																																			
		・JISによる																																																																																			
材質、形状及び寸法	適用箇所	材質・形状・寸法	備考																																																																																		
○デッキプレート 単独の構造																																																																																					
・デッキプレートとコンクリートとの合 成スラブとする構造		(図面による)																																																																																			
・																																																																																					
呼び名	呼び長さ (mm)	適用箇所																																																																																			
○16	(図面による)																																																																																				
○19	(図面による)																																																																																				
・22																																																																																					
種類	材料・工法	性能 (耐火時間)	適用箇所 (部位・部分)																																																																																		
○耐火材吹付け	○乾式吹付けロックウール																																																																																				
	・半乾式吹付けロックウール																																																																																				
	・湿式ロックウール																																																																																				
・耐火板張り	・繊維混入型酸カルシウム板																																																																																				
	・																																																																																				
・耐火材巻付け	・高断熱ロックウール																																																																																				
	・																																																																																				
・ラス張りモルタル塗り	・																																																																																				
・耐火塗料	・																																																																																				

建物概要等

1. 構造概要		構造概要		備考
構造種別	地上 ()階(RC)造一部鉄骨造 ()階~()階()造 ()階~()階()造	地下 ()階~()階()造 ()階~()階()造		
架構形式	X方向 (耐震壁付ラーメン(校舎棟)、壁式構造(寄宿舎棟)構造) Y方向 (耐震壁付ラーメン(校舎棟)、壁式構造(寄宿舎棟)構造)			
耐震構造	耐震構造 (制振構造) 方式 (免震構造(免震層の位置)・基礎下免震・中間層免震()階) (直接基礎(・独立・連続(・水た))バリアフリー駐車場)			
基礎方式	(杭基礎(・場所打ちコンクリート杭・既製コンクリート杭) (鋼管杭()) 機械機車庫			
耐震安全性の分類	I 類(1.5) (II 類(1.25) III 類(1.0)			
耐風に関する性能の分類	I 類(1.3) (II 類(1.15) III 類(1.0)			

2. 構造設計条件等		計算方法		備考
許容応力度計算 (令第82条各号+令第82条の4) 【ルート1】	()	X方向	Y方向	バリアフリー駐車場
許容応力度等計算 【ルート2】	()			
保有水平耐力計算 【ルート3】	()			機械機車庫
限界耐力計算	()			
その他の計算法()	()			X方向、Y方向の適用する計算法に○を記載する
構造計算適合性判定機関()	()			
特別な検証法(特別応答解析による)	()			
大臣認定(認定番号)	()			
指定性能評価機関()	()			
評価 (高層評価・免震評価・その他)	()			
(評価番号)	()			

3. 地盤調査資料		外力等		備考
設計用一次固有周期	(0.6)秒			
地震地域係数(Z)	$Z=1.0$ () 0.9 ・ 0.8 ・ 0.7			
地盤の種類	第(2)種地盤 $Tc=(0.6)$ 秒			
標準せん断力係数	X方向 Y方向			
一次設計	$C_s=(0.2)$ $C_d=(0.2)$			
二次設計	$C_s=()$ $C_d=()$			
風圧力(施行令第87条)	地表面粗度区分 基準風速(V_s) 速度圧(q)			
	・I・II(III)・IV (34)m/s			
風圧力(施行令第82条の4)	地表面粗度区分 基準風速(V_s) 平均速度圧(q)			
	・I・II(III)・IV (34)m/s			
積雪荷重	区域 ()多雪区域 () ()多雪区域以外(特定緩勾配屋根・有・無)			
	設計垂直積雪量 (180) cm^2			
	単位荷重 (30)N/m/cm			
	垂直積雪量の低減・低減する ()低減しない			

当該地の既往調査報告書
当該地の既往調査報告書及び今回工事に含まれる地盤調査結果(今回工事に含まれる地盤調査については図示による。)

有り
(範囲、工法、仕様、計測、試験等については図示による。)
無し

5. 軽微な変更への対応 (あらかじめの検討)
施工の関係上やむを得ず発生する可能性の高い変更等(位置の変更) 施工誤差を考慮して構造耐力上支障がない検討が行われている部分

- くいのおずれを考慮した検討
許容誤差(100mm)
- 小ばりの位置の変更を見込んだ大ばり等の検討
- 大きさの変更を見込んだスラブ等の検討(屋根床版含む)
- はり貫通孔の大きさと位置の変更を見込んだ検討
- 壁開口の位置の変更を見込んだ検討
- スラブの開口及び段差の変更を見込んだ検討
- 間柱の位置の変更を見込んだ検討

構造関係共通事項 (共通事項)

1.1 適用範囲
(1) 構造関係共通事項(配筋標準図)は鉄筋コンクリート造及び鉄骨鉄筋コンクリート造等における鉄筋の加工、組立等の一般的な標準図とする。
(2) 構造関係共通事項(鉄骨標準図)は鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造等における鉄骨の加工、組立の一般的な標準図とする。
(3) 建築構造図に特記無き事項は、公共建築工事標準仕様書(建築工事編)令和4年版による。

1.2 用語の定義
(1) 「構造図」とは、建築構造図のうち構造関係共通事項(共通事項)、構造関係共通事項(配筋標準図)及び構造関係共通事項(鉄骨標準図)以外の図面をいう。

1.3 優先順位
設計図書中の図面が相違する場合の優先順位は以下のとおりとする。
1. 構造図及び構造関係共通事項(共通事項)
2. 構造関係共通事項(配筋標準図)、構造関係共通事項(鉄骨標準図)

1.4 記号等
(1) 図面で使用される記号等は表1.1~表1.8、図1.1を標準とする。
(2) 異形鉄筋の径(本文、図、表において「D、d」で示す)は、呼び名に用いた数値とする。
(3) 長さ、厚さ等の単位は、特記なき限りmmとする。

表1.1 異形鉄筋の断面表示記号

区分	径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
建築		●	×	⊗	●	○	⊙	⊗	⊙

表1.2 各階伏図における記号

記号	説明	記号	説明
⊙	スラブの配筋種別	⊕	杭の位置
◇	スラブ厚さ	⊕	試験杭の位置
○	階段の配筋種別	▨	打増しの範囲
⊙	土間コンクリート	⊗	スラブ開口
▨	コンクリートブロック壁(CB壁)	⊕	ボーリング位置
▨	梁・スラブの上り下りがりの範囲	(±)	FLからの上り下り
EW○○	耐力壁		
EKW○○	片持ちスラブ階段を受け、かつ耐力壁		
ERW○○	土圧を受け、かつ耐力壁		

表1.3 梁貫通孔記号

区分	径	50	75	100	125	150	175	200	225	250	275	300	325	350	375	400
建築		⊕	✕	+	✕	⊕	✕	+	✕	✕	+	✕	+	✕	+	✕

表1.4 スリーブ材質の凡例

管名	銅管	溶融亜鉛めっき鋼板	硬質塩化ビニル管(薄肉管)	つば付き鋼管(黒管)
記号(建築用)	SP(白管)	GA	VU	RS

※建築用以外のスリーブ材質は各工事による。

表1.5 高力ボルト径の記号

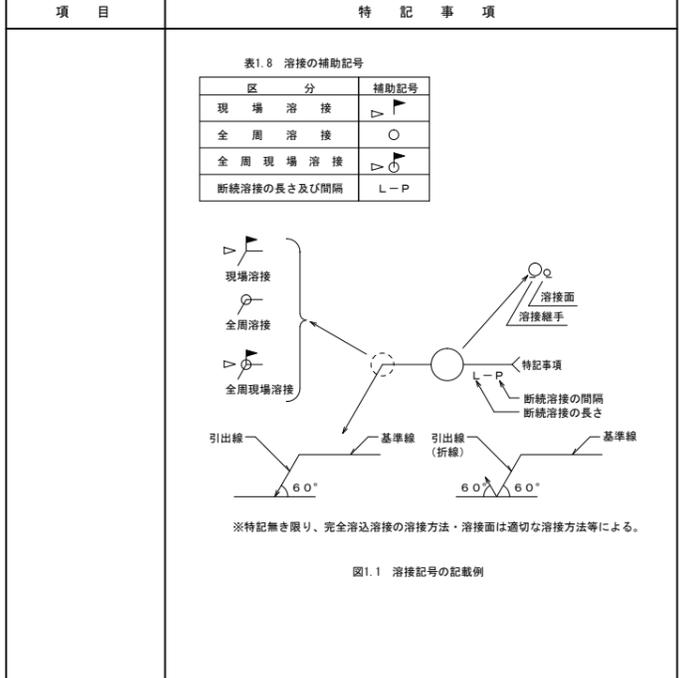
区分	径	M12	M16	M20	M22	M24
高力ボルト(F10T、S10T)		●	●	●	●	●
溶融亜鉛めっき高力ボルト(F8T相当)			+	✕	✕	✕

表1.6 普通ボルト径の記号

区分	径	M12	M16	M20	M22	M24
普通ボルト		○	⊕	⊕	✕	✕

表1.7 溶接方法、溶接継手及び溶接面の分類記号
設計図中で使用する記号は、JIS Z 3021-2016による。

溶接の種類	基本記号	備考
I 形開先溶接	┐┌	A7 t1溶接、F7a1溶接、摩擦溶接などを含む。
V 形開先溶接、X 形開先溶接	┐ ✕	A7 t1溶接、F7a1溶接、摩擦溶接などを含む。X形は基本記号V形を組み合わせたもの。
レ 形開先溶接、K 形開先溶接	┐ ✕	A7 t1溶接、F7a1溶接、摩擦溶接などを含む。K形は基本記号レ形を組み合わせたもの。
V 形フレア溶接	┐┐	
レ 形フレア溶接	┐┐	
すみ肉溶接	┐	
抵抗スポット溶接、溶融スポット溶接	⊙	
抵抗シーム溶接、溶融シーム溶接	⊙	



1. コンクリートの単位水量測定
(1) 単位水量の測定は、150m³に1回以上及び荷下し時に品質の異常が認められた時に実施する。
(2) 単位水量の上限値は、標準仕様書6.3.2(4)(c)による。
(3) 単位水量の管理目標値は次の通りとして、施工する。
1) 測定した単位水量が、配合計画書の設計値(以下「設計値」という。)±15kg/m³の範囲にある場合は、その運搬車のレディーミックスコンクリート(以下「生コン」という。)を合格とし、そのまま打設する。
2) 測定した単位水量が設計値±15を超え±20kg/m³の範囲にある場合は、その運搬車の生コンを合格とし打設してよいが、水量変動の原因を調査し、生コン生産者に改善を指示する。その後、設計値±15kg/m³以内に安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。
3) 測定した単位水量が設計値±20kg/m³を超える場合は、その運搬車の生コンを不合格とし、打設せずに持ち帰らせるとともに、水量変動の原因を調査し、生コン生産者に改善を指示する。その後、単位水量が設計値±20kg/m³以内になるまで全運搬車の測定を行い、更に設計値±15kg/m³以内に安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。
(4) 単位水量管理についての記録を計画(配合計画書、製造管理記録、打込み時の外気温、コンクリート温度等)と写真により監督職員に提出する。
(5) 単位水量の測定方法は、高周波誘電加熱乾燥法(電子レンジ法)、エアメータ法又は静電容量測定法による。また、試験機関は当該生コン生産者以外の機関とする。

構造関係共通事項 (配筋標準図)

1.1 鉄筋の加工

鉄筋の折曲げ内法直径は、表1.1を標準とする。

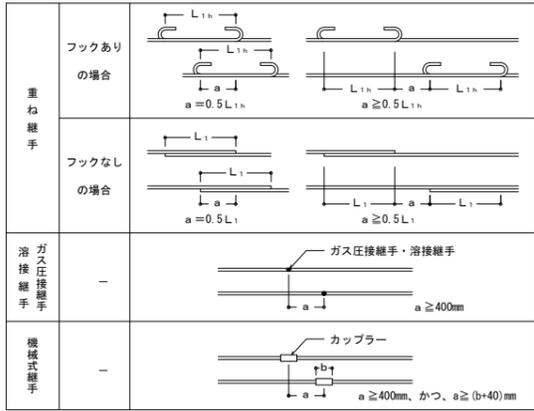
表1.1 鉄筋の折曲げ内法直径

折曲げ角度	折曲げ図 (余長)	折曲げ内法直径(D)			
		鉄筋の種類	SD295, SD345	SD390	
		呼び名	D16以下	D19 ~ D38	D19 ~ D38
180°			3d以上	4d以上	5d以上
135°			3d以上	4d以上	5d以上
90°			3d以上	4d以上	5d以上
135°及び90° (幅止め筋)			4d以上	4d以上	4d以上

- 片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フック又は135°フックを用いる場合は、余長は4d以上とする。
- 90°未満の折曲げの内法直径は構造図による。

- 隣り合う継手の位置は、表3.2による。ただし、スラブ筋でD16以下の場合及び壁筋の場合は除く。

表3.2 隣り合う継手の位置



- 鉄筋の定着 (1) 鉄筋の定着の長さは、表3.3及び図3.2による。

表3.3 鉄筋の定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc (N/mm²)	直線定着の長さ				フックあり定着の長さ			
		L1	L2	小梁	スラブ	L1h	L2h	小梁	スラブ
SD295	18	45d	40d	35d	30d	30d	30d	30d	30d
	21	40d	35d	30d	25d	25d	25d	25d	25d
	24, 27	35d	30d	25d	20d	20d	20d	20d	20d
	30, 33, 36	35d	30d	25d	20d	20d	20d	20d	20d
SD345	18	50d	40d	35d	30d	30d	30d	30d	30d
	21	45d	35d	30d	25d	25d	25d	25d	25d
	24, 27	40d	35d	30d	25d	25d	25d	25d	25d
	30, 33, 36	35d	30d	25d	20d	20d	20d	20d	20d
SD390	21	50d	40d	35d	30d	30d	30d	30d	30d
	24, 27	45d	40d	35d	30d	30d	30d	30d	30d
	30, 33, 36	40d	35d	30d	25d	25d	25d	25d	25d

- L1, L1h: 2. から4. まで以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ
- L2, L2h: 割製破壊のおそれない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ
- L3: 小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ。ただし、基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁は除く。
- L3h: 小梁の下端筋のフックあり定着の長さ
- フックあり定着の場合は、図3.2に示すようにフック部分 Q を含まない。また、中間部での折曲げは行わない。
- 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。
- 打増し部分に、壁、梁、スラブ等がとりつく場合は、壁、梁、スラブ筋等の定着長さには、打増し厚さを含まない。

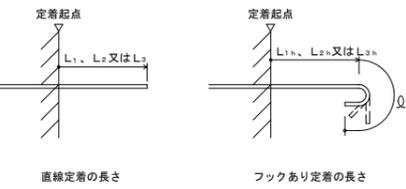


図3.2 直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ

- 梁主筋の柱内折曲げ定着又は小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の方法は、図3.3による。ただし、梁主筋の柱内定着においては、柱せいの3/4倍以上とする。

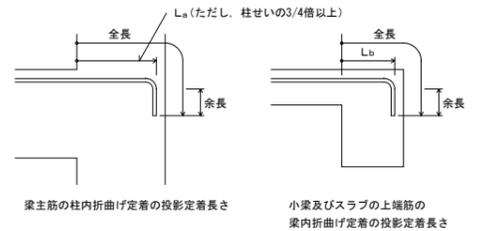


図3.3 折曲げ定着の方法

表3.4 鉄筋の投影定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc (N/mm²)	La	Lb
SD295	18	20d	15d
	21	15d	15d
	24, 27	15d	15d
SD345	18	20d	20d
	21	20d	20d
	24, 27	20d	15d
SD390	21	20d	20d
	24, 27	20d	20d
	30, 33, 36	20d	15d

- L1: 梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ (基礎梁、片持梁及び片持スラブを含む。)
- L2: 小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ (片持小梁及び片持スラブを除く。)
- 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

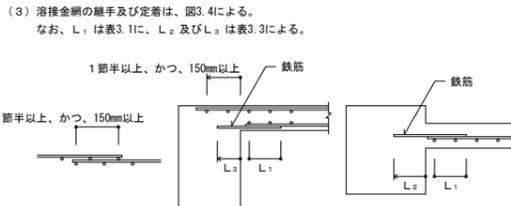


図3.4 溶接金網の継手及び定着

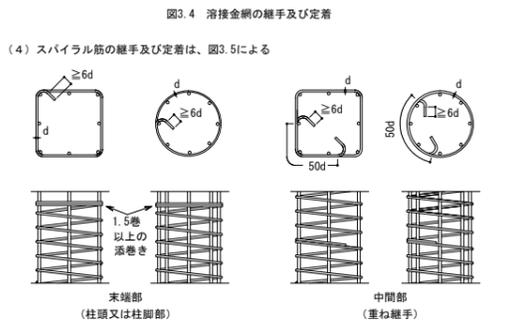


図3.5 スパイラル筋の継手及び定着

4.1 最小かぶり厚さ

- 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、表4.1による。ただし、柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。

表4.1 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ

構造部分の種類	最小かぶり厚さ (mm)	
	仕上げあり	仕上げなし
土に接しない部分	スラブ、耐力壁以外の壁	20
	柱、梁、耐力壁	30
	屋外	40
	屋外	40
土に接する部分	基礎、擁壁、耐圧スラブ	60
	煙突等熱を受ける部分	60

- この表は、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートには適用しない。また、塩害を受けるおそれのある部分等耐久性上不利な箇所には適用しない。
- 「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ (土塗材、塗装等) のものを除く。
- スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含まない。
- 杭基礎の場合の基礎下端筋のかぶり厚さは、杭先端からとする。

- 柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに10mmを加えた数値を標準とする。

- 鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

- 鉄筋相互のあきは図4.1より、次の値のうち最大のものととする。
- 粗骨材の最大寸法の1.25倍
- 25mm
- 隣り合う鉄筋の径の平均 (呼び名の数値) の1.5倍

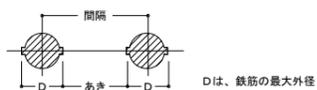


図4.1 鉄筋相互のあき及び間隔

- 鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは、(d)による。
- 貫通孔に接する鉄筋のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

5.1 基礎梁

- 一般事項 (1) 梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合には、図5.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部では、折り曲げて定着する。
- 梁筋を柱内に定着する場合は、7.1(b) (4)による。

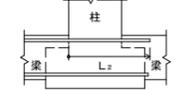
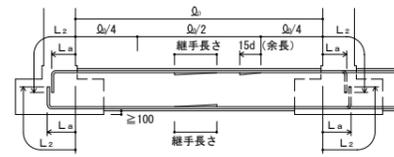
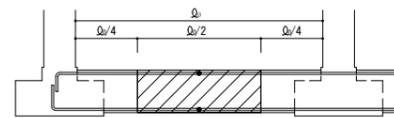


図5.1 梁筋の基礎梁内への定着

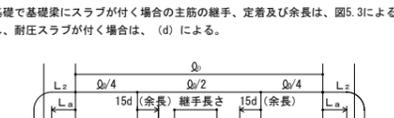
- 独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.2による。



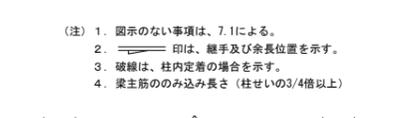
- 図示のない事項は、7.1による。
- 印は、継手及び余長位置を示す。
- 破線は、柱内定着の場合を示す。
- 梁主筋のみ込み長さ (柱せいの3/4倍以上)



- 図示のない事項は、7.1による。
- 印は、継手及び余長位置を示す。
- 破線は、柱内定着の場合を示す。
- 梁主筋のみ込み長さ (柱せいの3/4倍以上)



- 図示のない事項は、7.1による。
- 印は、継手及び余長位置を示す。
- 破線は、柱内定着の場合を示す。
- 梁主筋のみ込み長さ (柱せいの3/4倍以上)



- 図示のない事項は、7.1による。
- 印は、継手及び余長位置を示す。
- 破線は、柱内定着の場合を示す。
- 梁主筋のみ込み長さ (柱せいの3/4倍以上)

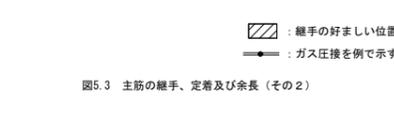
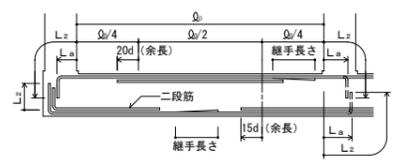


図5.2 主筋の継手、定着及び余長 (その2)

- 連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.4による。



- 図示のない事項は、7.1による。
- 印は、継手及び余長位置を示す。
- 破線は、柱内定着の場合を示す。
- 梁主筋のみ込み長さ (柱せいの3/4倍以上)

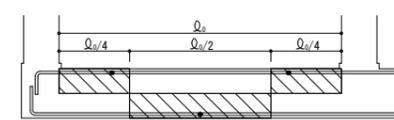


図5.4 主筋の継手、定着及び余長 (その3)

5.2 基礎梁のあばら筋等

- 一般事項 (1) あばら筋の径および間隔は、構造図による。
- あばら筋組立の形及びフックの位置は、7.2(b)による。ただし、梁の上下端にスラブが付く場合で、かつ、梁せいが1.5m以上の場合は、図5.5によることができる。

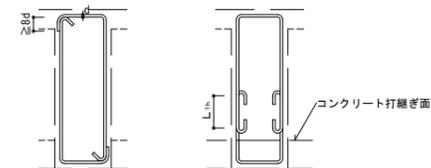


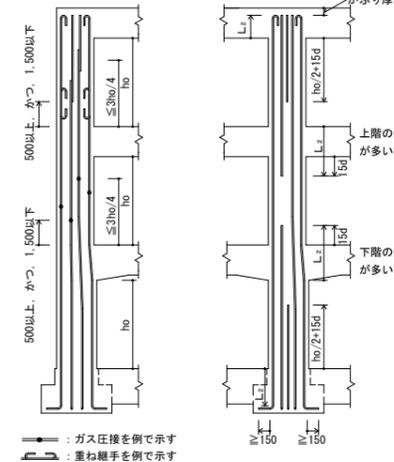
図5.5 あばら筋組立の形及びフックの位置

- 腹筋及び幅止め筋は、7.2による。ただし、梁せいが1.5m以上の場合は構造図による。

- あばら筋の割付けは、7.2(c)による。

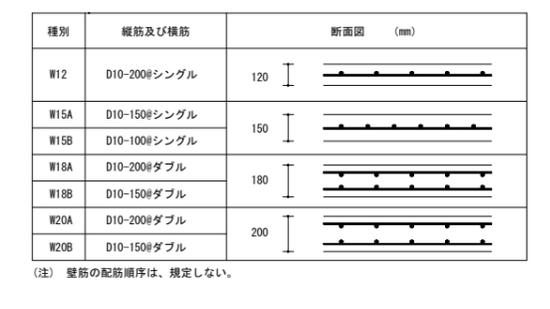
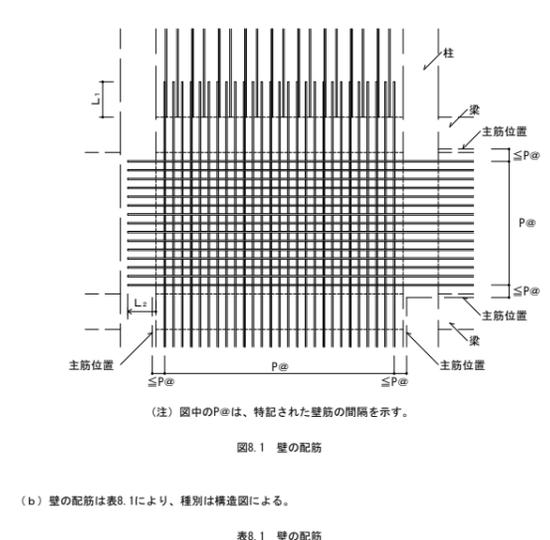
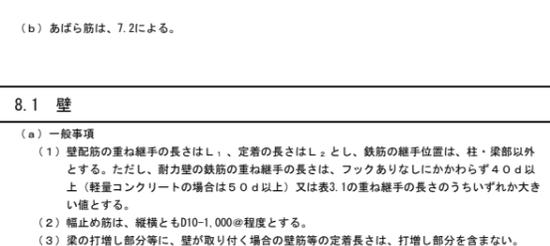
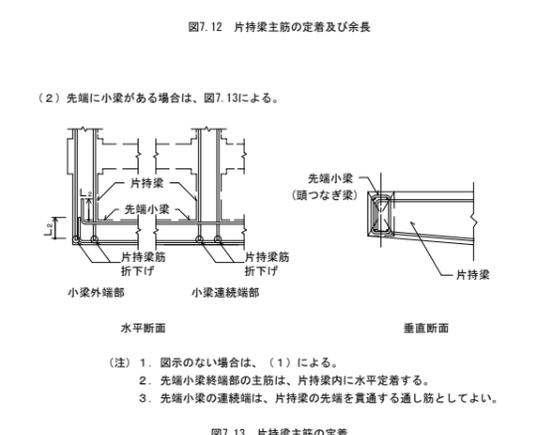
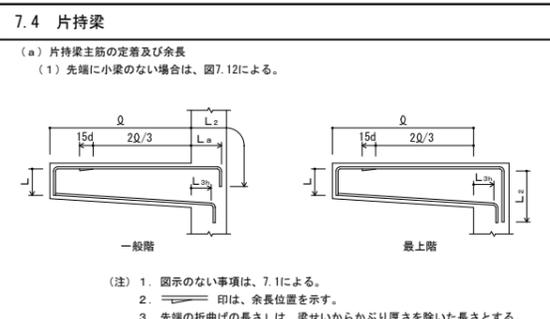
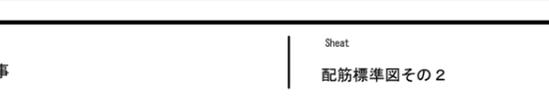
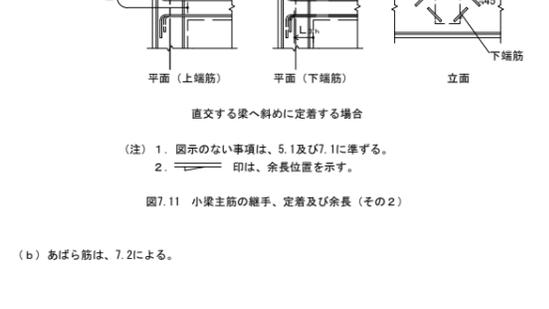
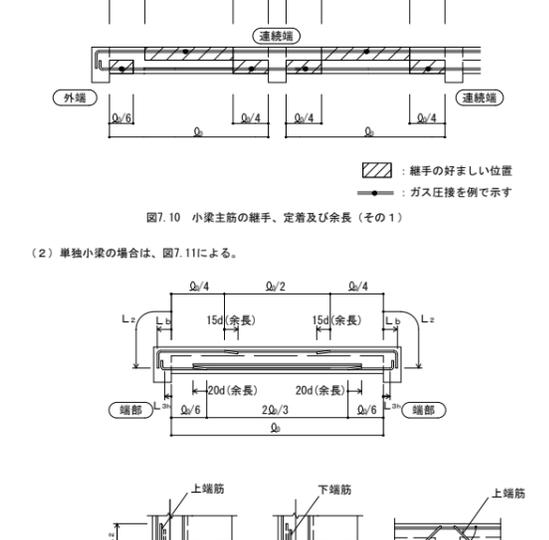
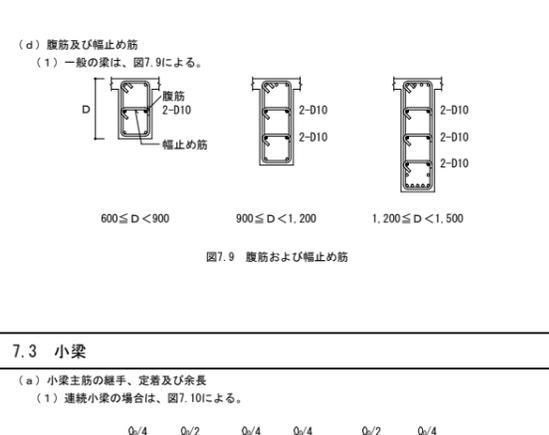
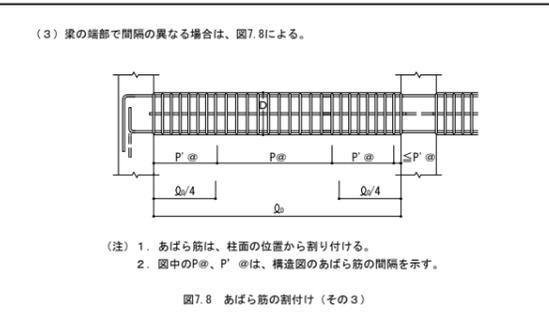
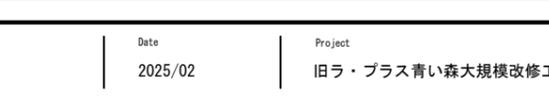
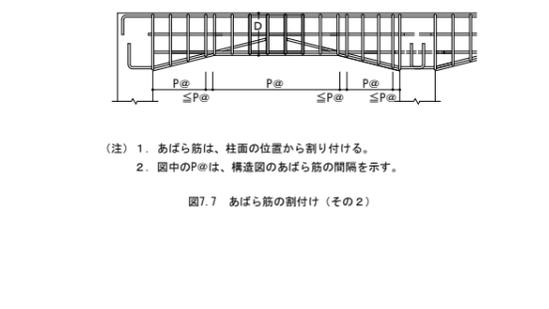
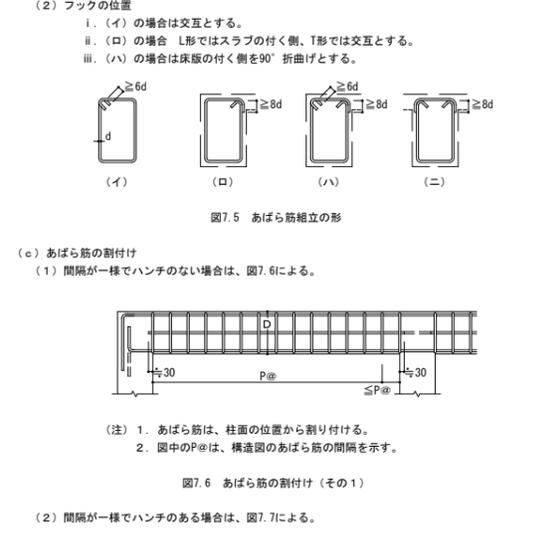
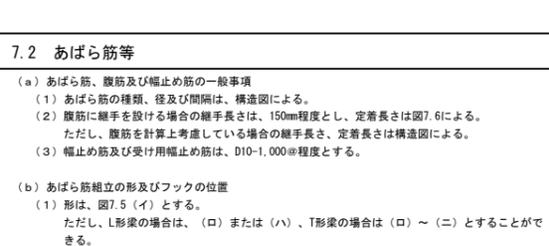
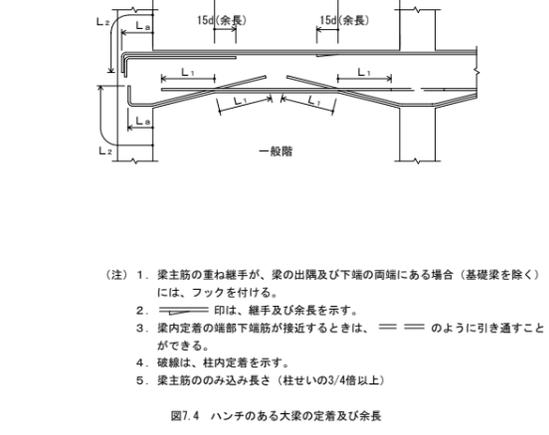
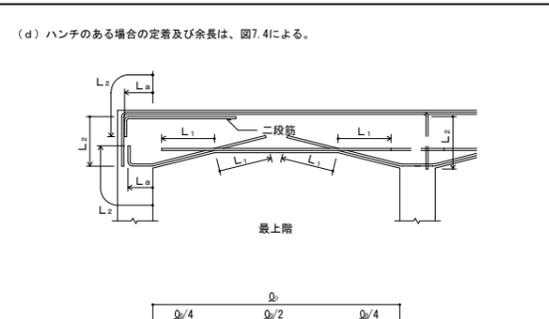
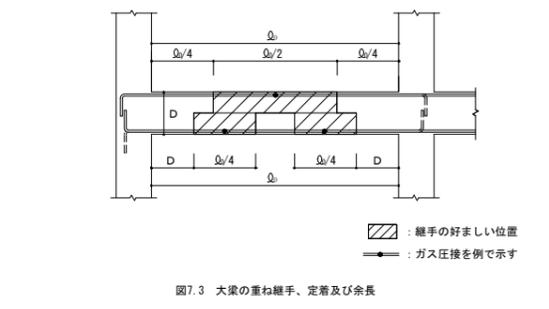
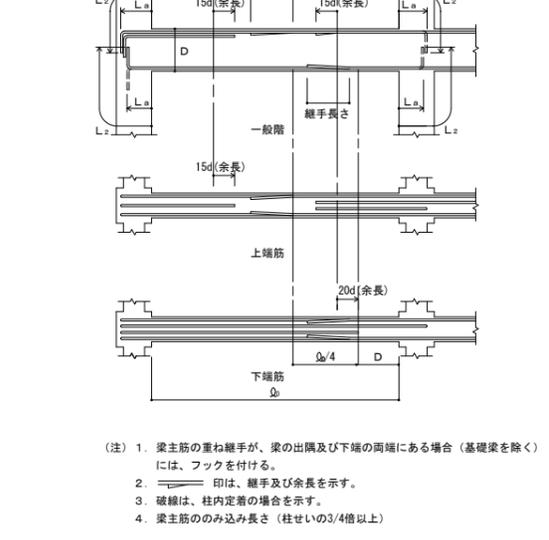
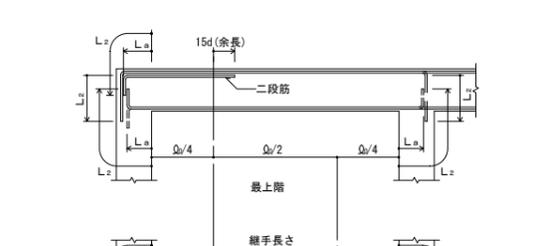
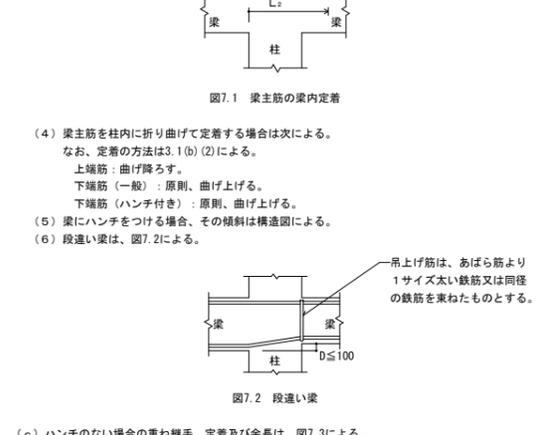
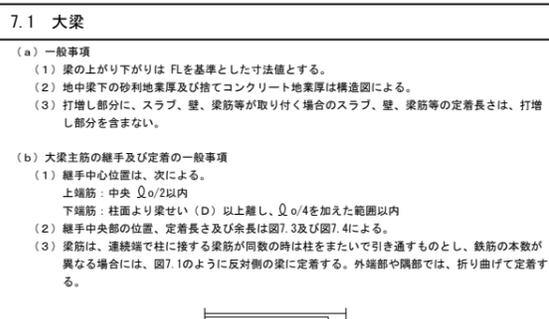
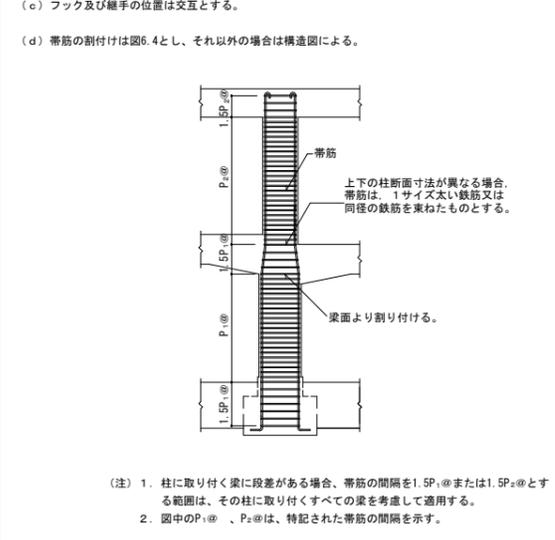
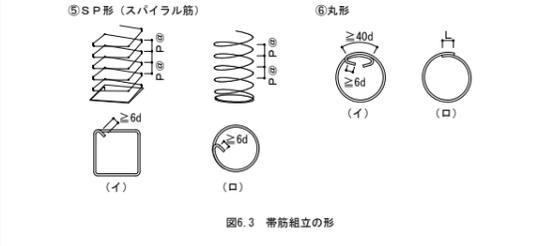
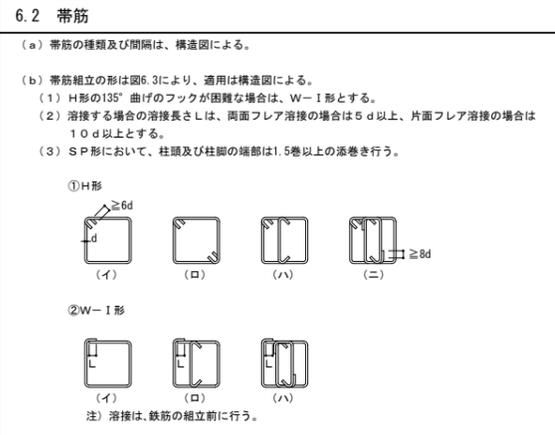
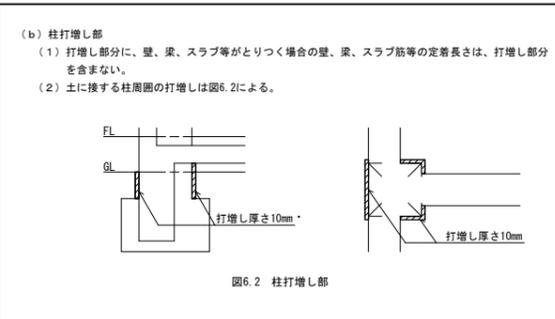
6.1 柱

- 一般事項 (1) 継手中心位置は、梁上端から500mm以上、1,500mm以下、かつ、3ho/4 (hoは柱の内法高さ) 以下とする。
- 継手、定着及び余長は、図6.1による。ただし、柱頭定着長さ Lc が確保できない場合は、構造図による。



- 柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合には、フックを付ける。
- 隣り合う継手の位置は、表3.2 [隣り合う継手の位置] による。
- 継手及び定着は、すべての階に適用できる。

図6.1 柱主筋の継手、定着及び余長



(c) 片持スラブ形階段を受ける壁の配筋は表8.2により、種別は構造図による。

表8.2 片持スラブ形階段を受ける壁の配筋

種別	縦筋及び横筋	断面図 (mm)	階段の配筋種別 (表10.1)
KW1	縦筋 D13-200@ダブル	180	KA1 KA3
	横筋 D10-200@ダブル		
KW2	縦筋 D13-150@ダブル	200	KA2 KA4
	横筋 D10-200@ダブル		

(注) 縦筋は、横筋の外側に配筋する。

(d) 土圧を受ける壁の配筋は、構造図による。

(e) 壁の交差部及び端部の配筋は、図8.2による。

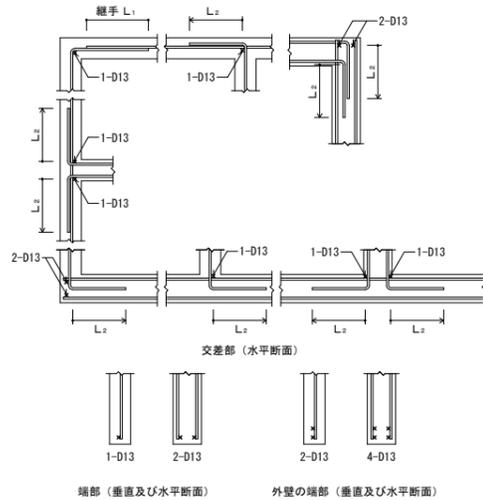


図8.2 壁の交差部及び端部の配筋

8.2 壁の補強

(a) 壁開口部の補強

(1) 耐力壁を除く壁開口部の補強筋は、A形は表8.3、B形は表8.4とし、適用は構造図による。なお、耐力壁の補強筋は、構造図による。

表8.3 壁開口部補強筋 (A形)

壁の種別	補強筋	
	縦筋	斜め
W12, W15	1-D13	1-D13
W18, W20	2-D13	2-D13

表8.4 壁開口部補強筋 (B形)

壁の種別	補強筋	
	縦筋	斜め
W12, W15	2-D13	1-D13
W18, W20	4-D13	2-D13

(2) 壁開口部補強の定着長さは、図8.3による。

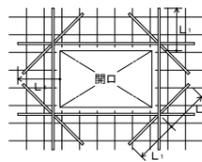


図8.3 壁開口部補強筋の定着長さ

(b) コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、構造図による。

9.1 スラブ

- (1) スラブ及び土間コンクリートの上り下りは、FLを基準とした寸法とする。
- (2) 土間スラブ下の砂利地層厚及び捨てコンクリート地層厚は構造図による。
- (3) 土間コンクリート補強筋 (D[®]) の配筋及びコンクリート厚さは構造図による。
- (4) スラブの配筋 (S形配筋) は表9.1及び図9.1により、配筋種別及びスラブ厚さは、構造図による。
- (5) 梁の打増し部分等に、スラブが取り付く場合のスラブ筋等の定着長さは、打増し部分を含まない。

表9.1 S形配筋

配筋種別	短辺方向 (主筋) 全域		長辺方向 (配力筋) 全域	
	短辺方向 (主筋) 全域	長辺方向 (配力筋) 全域	短辺方向 (主筋) 全域	長辺方向 (配力筋) 全域
S 1	D13-100@	D13-100@	S 8	D10, D13-150@
S 2	同上	D13-150@	S 9	同上
S 3	同上	D10, D13-150@	S10	D10, D13-200@
S 4	D13-150@	D13-150@	S11	同上
S 5	同上	D10, D13-150@	S12	同上
S 6	同上	D10-150@	S13	D10-200@
S 7	D10, D13-150@	D10, D13-150@	S14	同上

(注) 上端筋、下端筋とも同一配筋とする。

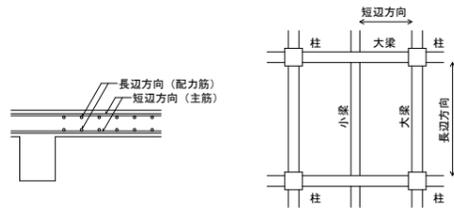


図9.1 スラブの配筋

- (5) 配筋の割付けは、中央から行い、端部は定められた間隔以下とする。
 - (6) 鉄筋の重ね継手長さは、L₂とする。
 - (7) 定着長さ及び受け筋は、図9.2による。
- ただし、引き通すことができない場合は、図9.3により梁内に定着する。

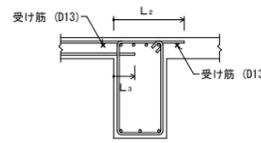


図9.2 スラブ筋の定着長さ及び受け筋 (その1)

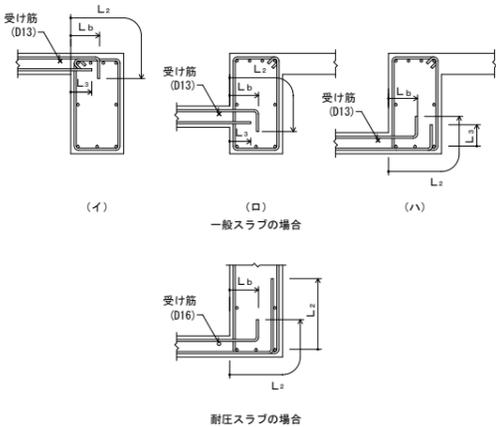


図9.3 スラブ筋の定着長さ及び受け筋 (その2)

9.2 片持スラブ

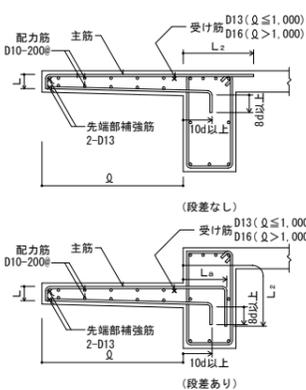
片持スラブは、プレキャストコンクリート部材または現場打ちコンクリート部材とする。プレキャストコンクリート部材とする場合の躯体への接続方法は、構造図による。ただし、構造図になければ、片持スラブは現場打ちコンクリート部材とする。

片持スラブの配筋は、次に示す。

(1) 片持スラブの配筋 (CS形配筋) は、表9.2並びに図9.4及び図9.5により、配筋種別及びスラブ厚さは、構造図による。

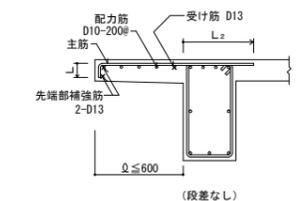
表9.2 CS形配筋

配筋種別	主筋		配筋種別	主筋	
	上	下		上	下
CS1	上	D13-100@	CS5	上	D10-200@
	下	D13-200@		下	D10-400@
CS2	上	D13-150@	CS6	上	D10, D13-200@
	下	D13-300@		下	—
CS3	上	D10, D13-150@	CS7	上	D10-200@
	下	D10, D13-300@		下	—
CS4	上	D10, D13-200@			
	下	D10-200@			



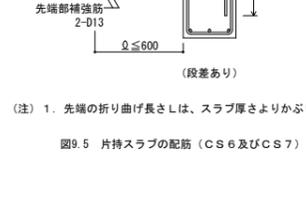
(注) 1. 先端の折り曲げ長さは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

図9.4 片持スラブの配筋 (CS 1 から CS 5)



(注) 1. 先端の折り曲げ長さは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

図9.5 片持スラブの配筋 (CS 6 及び CS 7)



(2) 先端に壁が付く場合の配筋は、図9.6による。

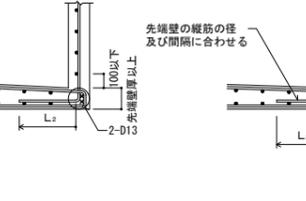


図9.6 先端に壁が付く場合の配筋

(3) 出隅部

(i) 出隅部の補強筋は構造図による。配筋方法は、図9.7による。

(ii) 出隅受け部分 (図9.7の斜線部分) の補強筋は構造図による。

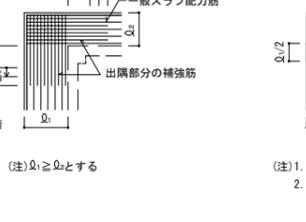


図9.7 片持スラブ出隅部の補強配筋

9.3 スラブ等の補強

(a) スラブ開口部の補強

スラブ開口部の補強方法は、構造図による。構造図になければ、(i) (ii)による。

(i) スラブ開口の最大径が700mm以下の場合は、図9.8により開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅内部に斜め方向に2-D13 (Q=2L₂) シングルを上下筋の内側に配筋する。

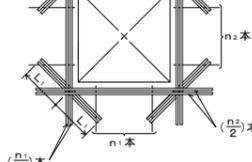


図9.8 スラブ開口部の補強配筋

(ii) スラブ開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

(b) 屋根スラブの補強

屋根スラブの出隅及び入隅部分には、図9.9により、補強筋を上端筋の下側に配置する。

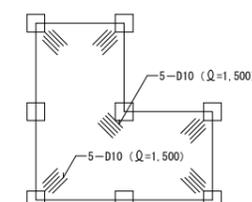


図9.9 出隅及び入隅部の補強配筋

(c) 土間スラブの打継ぎ補強

基礎梁とスラブを一体打ちとし、打継ぎを設ける場合の補強は図9.10による。ただし、土間スラブとは、土に接するスラブでS形の配筋によるものをいう。

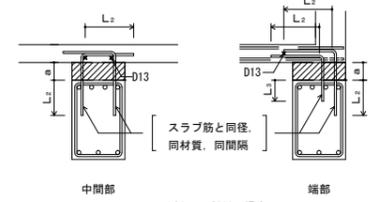


図9.10 打継ぎ補強配筋

(d) 土間コンクリートの補強

土間コンクリートの補強筋は、構造図による。なお、基礎梁との接合部は、図9.11による。

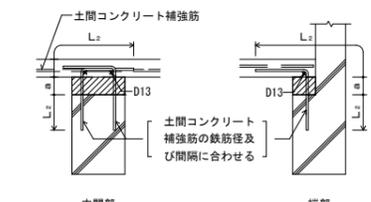


図9.11 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

10.1 片持スラブ形階段

片持スラブ形階段の配筋は、表10.1及び図10.11により、寸法及び配筋種別は、構造図による。

表10.1 片持スラブ形階段の配筋

配筋種別	KA1		KA2	
	配筋図	配筋図	配筋図	配筋図
配筋図	D13 D13 D10-300@	D13 D13 D10-300@	2-D13 D13 D10-300@	D10-300@
配筋図	D10-300@ D13 D13	D10-300@ D13 D13	D10-300@ D13 2-D13	D10-300@



図10.1 片持スラブ形階段配筋の定着

- (注) 1. 壁配筋は、8.1 (c) による。
2. 階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦に下ろす。
3. スラブ配力筋の継手及び定着の長さは、表3.3 [鉄筋の定着の長さ] のL₂とする。

10.2 二辺固定スラブ形階段

二辺固定スラブ形階段は、プレキャストコンクリート部材または現場打ちコンクリート部材とする。プレキャストコンクリート部材とする場合の躯体への接続方法は構造図による。二辺固定スラブ形階段の配筋は表10.2並びに図10.2及び図10.3により、寸法及び配筋種別は、構造図による。

ただし、構造図になければ、二辺固定スラブ形階段は現場打ちコンクリート部材とする。

表10.2 二辺固定スラブ形階段

配筋種別	上端筋、下端筋とも (全域)
KB1	D13-200@
KB2	D13-150@
KB3	D13-100@
KB4	D13, D16-150@
KB5	D16-150@
KB6	D16-125@
KB7	D16-100@

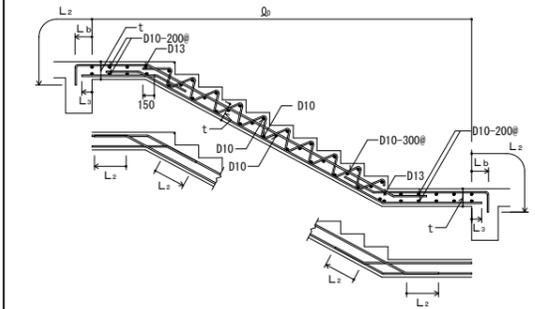


図10.2 二辺固定スラブ形階段配筋 (その1)

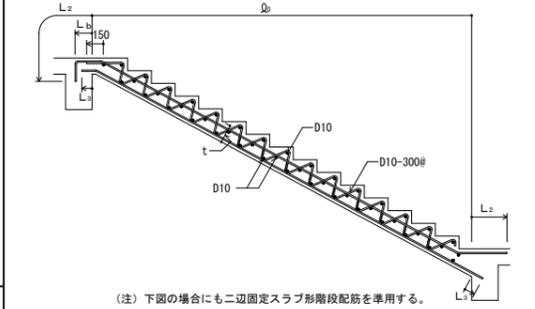


図10.3 二辺固定スラブ形階段配筋 (その2)

(注) 下図の場合にも二辺固定スラブ形階段配筋を準用する。

11.1 梁貫通孔

(a) 梁貫通孔は、次による。

- (1) 梁貫通孔補強筋の名称等は、図11.1による。
- (2) 孔の径は、梁せい \times 1/3以下とする。
- (3) 孔の上下方向の位置は梁せい中心付近とし、梁中央部においては、梁下端よりD/3 (Dは梁せい)の範囲に孔を設けてはならない。ただし、耐圧スラブ付きの基礎梁の梁中央部においては、梁上端よりD/3の範囲に孔を設けてはならない。
- (4) 孔は、柱面から原則として、1.5D以上離す。ただし、基礎梁及び壁付帯梁は除く。
- (5) 孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。
- (6) 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の筋に配筋する。
- (7) 補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは、図11.2による。
- (8) 孔の径が梁せい \times 1/10以下、かつ、150mm未満のものは、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。
- (9) 溶接金網の余長は1格子以上とし、突出しは10mm以上とする。
- (10) 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋 1-13φのリング筋を取り付ける。
なお、リング筋は、溶接金網に4箇所以上溶接する。
- (11) 溶接金網の剥付け始点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。

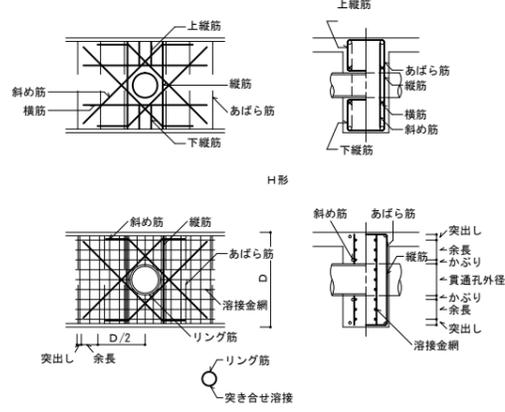


図11.1 梁貫通孔補強筋の名称等

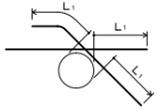


図11.2 補強筋の定着長さ

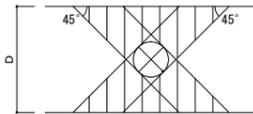


図11.3 他の開孔を設けない範囲

(b) 梁貫通孔の補強形式は表11.1～表11.3により、配筋種別は構造図による。

表11.1 H形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H1	2-2-D13	なし	なし	なし	
H2		2-2-D13			
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4	4-2-D16				
H5	4-2-D16	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H6	4-2-D19				
H7	4-2-D22				

(注) — — は、一般部分のあばら筋を示す。

表11.2 M形配筋

配筋種別	縦筋	溶接金網	配筋図
M1	2-2-D13	なし	
M2	4-2-D13		
M3	4-2-D13	2-6φ-100#	
M4	6-2-D13		

(注) — — は、一般部分のあばら筋を示す。

表11.3 MH形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	溶接金網	配筋図
MH1	2-2-D13	なし	なし	
MH2		2-2-D13		
MH3	2-2-D13	2-2-D13	2-6φ-100#	
MH4	4-2-D13			
MH5	4-2-D16	4-2-D13	2-6φ-100#	
MH6	4-2-D16			
MH7	4-2-D19			

(注) — — は、一般部分のあばら筋を示す。

11.2 コンクリートブロック壁との取合い

(a) 控壁は、次による。

- (1) 控壁の配置は、構造図による。
- (2) 配筋は、図11.4による。

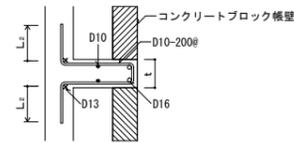


図11.4 控壁の配筋 (水平、垂直とも)

(b) 壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強は、図11.5による。

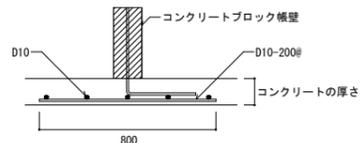


図11.5 壁付き土間コンクリートの補強配筋

11.3 パラペット

パラペットの先端補強筋は図11.6により、コンクリート厚さ及び配筋は構造図による。

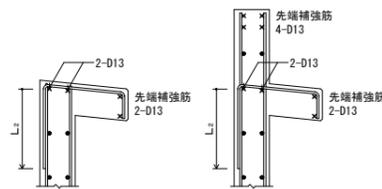


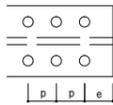
図11.6 パラペットの先端補強筋

構造関係共通事項(鉄骨標準図)

1-1 縁端距離及びボルト間隔

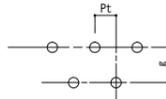
(a) 縁端距離及びボルト間隔
縁端距離及びボルト間隔は、表1.1による。ただし、引張材の接合部分において、せん断力を受けるボルトが応力方向に3本以上並ばない場合の縁端距離は、構造図による。構造図になければ、ボルト軸径の2.5倍以上とする。
また、アンカーボルトの縁端距離は構造図による。

ねじの呼び	縁端距離 e	ボルト間隔 p
M12	40	60
M16		
M20		
M22	45	70
M24		



(b) 千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔
千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔は、表1.2による。

ゲージ g	千鳥打ちのボルト間隔 Pt		
	M12, M16, M20, M22	M24	
35	50	65	
40	45	60	
45	40	55	
50	35	50	
55	25	45	
60	-	40	



(c) 形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径
形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径は、表1.3による。

表1.3 形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径 (単位:mm)

A又はB	g ₁	g ₂	最大軸径	B			最大軸径	B	g ₃	最大軸径
				B	g ₁	g ₂				
45	25	12	100	56	16	50	30	12		
50	28	16	125	75	16	65	35	20		
60	35	16	150	90	22	70	40	20		
65	35	20	175	105	22	75	40	22		
70	40	20	200	120	24	80	45	22		
75	40	22	250	150	24	90	50	24		
80	45	22	300	150	40 ^{*)}	100	55	24		
90	50	24	350	140	70	24				
100	55	24	400	140	90	24				
125	50	35	24							
130	50	40	24							
150	55	55	24							
175	60	70	24							
200	60	90	24							

※1 千鳥打ちとした場合

1-2 溶接継手の種類別開先標準

突合せ継手(B)の開先標準 (単位:mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフェールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
t ≤ 6			
基本記号	基本記号	基本記号	基本記号
6 < t ≤ 19			
基本記号	基本記号	基本記号	基本記号
19 < t ≤ 40			
基本記号	基本記号	基本記号	基本記号

T型継手(T)の開先標準 (単位:mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフェールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
t ≤ 6			
基本記号	基本記号	基本記号	基本記号
6 < t ≤ 19			
基本記号	基本記号	基本記号	基本記号
19 < t ≤ 40			
基本記号	基本記号	基本記号	基本記号

部材が直交しない場合の開先標準 (単位:mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフェールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
6 < t ≤ 40			
基本記号	基本記号	基本記号	基本記号

かど継手(L)の開先標準 (単位:mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフェールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
t ≤ 6			
基本記号	基本記号	基本記号	基本記号
6 < t ≤ 19			
基本記号	基本記号	基本記号	基本記号
19 < t ≤ 40			
基本記号	基本記号	基本記号	基本記号

隅肉溶接(F)の開先標準 (単位:mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフェールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
t ≤ 16			
基本記号	基本記号	基本記号	基本記号
16 < t ≤ 40			
基本記号	基本記号	基本記号	基本記号

隅肉溶接のサイズ (単位:mm)

t	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	19	22	25	28	32	36	40
s	3	4	5	5	6	7	8	8	9	10	10	11	11	12	13	15	17	19	21	24

部分溶込み溶接(P)の開先標準 (単位:mm)

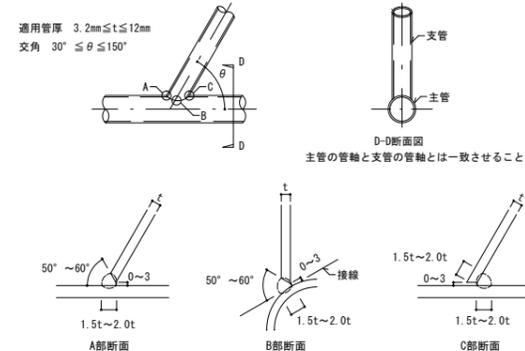
H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフェールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
12 ≤ t ≤ 40			
基本記号	基本記号	基本記号	基本記号

フレア溶接(FL)の開先標準 (単位:mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフェールドアーク溶接)			
1 (丸鋼等片面溶接)	2 (丸鋼等両面溶接)	3 (軽量形鋼V形溶接)	4 (軽量形鋼I形溶接)
基本記号	基本記号	基本記号	基本記号

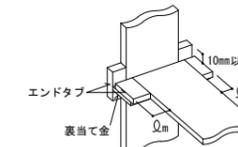
1-3 鋼管分岐継手詳細

自動機械により開先加工を行う場合はこの限りではない。(単位:mm)



1-4 鉄骨溶接施工

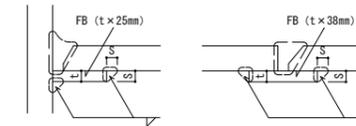
(a) エンドタブ・裏当て金の鋼材の種類及び引張強さによる区分は、母材と同等とする。
(b) エンドタブ
エンドタブの形状は母材と同厚・同開先のものとする。



溶接方法	Qm
手溶接	35以上
半自動溶接	38以上
自動溶接	70以上

(c) 裏当て金

(1) 裏当て金の組み立て溶接は、接合部に影響を与えないように、エンドタブの位置又は梁フランジ幅の1/4の位置に行い、梁フランジ両端から10mm以内の位置には行ってはならない。
(2) 完全溶込み溶接の片面溶接に用いる裏当て金は原則としてフランジの内側に設置する。

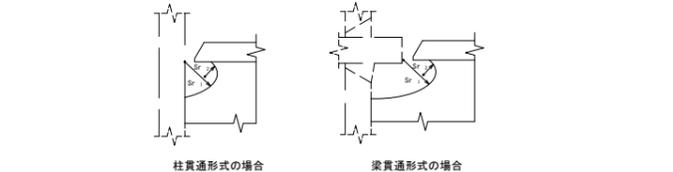


裏当て金の厚さ (単位:mm)	
溶接方法	t
手溶接	6以上
半自動溶接	9以上
自動溶接	12以上

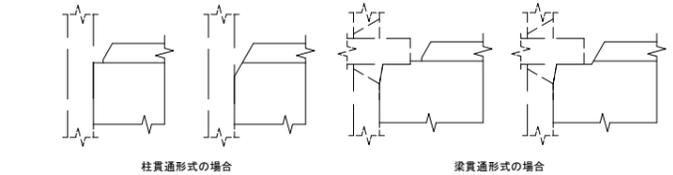
溶接のサイズ (単位:mm)	
裏当て金の厚さ	S
裏当て金	5
t > 9	9

(d) スカラップ

スカラップの要否および加工は、構造図による。構造図に特記が無い場合は、次による。
(1) スカラップを設ける場合
改良型スカラップ
(i) スカラップ半径Srは35mmとする。Srは10mmとする。
(ii) スカラップ円弧の曲線は、フランジに滑らかに接するように加工し、複合円は滑らかに仕上げる。

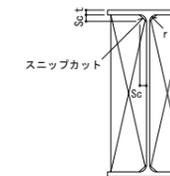


(2) スカラップを設けない場合



(e) スニップカット

(1) スニップカット部は溶接により埋めるものとする。

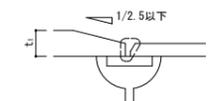


(2) スニップカットの寸法は、下表による。ただし、既製形鋼のスニップカットについては、Sc=r+2により求めるものとする。

t	6	9	12	16以上
Sc	10	12	14	15

(f) 溶接部分の段差

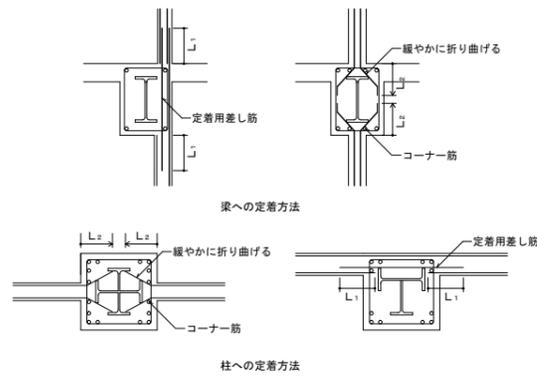
完全溶込み溶接を行う部分の板厚の差による段差が10mmを超える場合



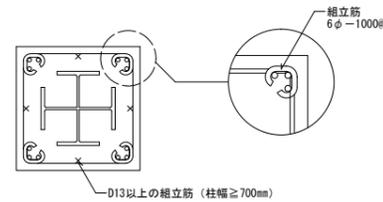
(e) 鋼材と溶接材料の組み合わせと溶接条件

鋼材の種類	規格	溶接材料	入熱 (KJ/cm)	バス間温度 (°C)	
400N級鋼	JIS Z 3211	引張強さ570MPa以上のものを除く	40以下	350以下	
	JIS Z 3312	YGW11, 15 YGW18, 19	40以下	350以下	
	JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	30以下	450以下	
		JIS Z 3214	引張強さ570MPa以上のものを除く	40以下	350以下
		JIS Z 3315	G49AOU-CCJ G49AOU-NCC, NCCT 等	40以下	350以下
	490N級鋼	JIS Z 3211	引張強さ570MPa以上のものを除く	40以下	350以下
JIS Z 3312		YGW11, 15 YGW18, 19	30以下	250以下	
JIS Z 3313		T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	40以下	350以下	
		JIS Z 3214	引張強さ570MPa以上のものを除く	40以下	350以下
		JIS Z 3315	G49AOU-CCJ G49AOU-NCC, NCCT 等	40以下	350以下
JIS Z 3312		YGW18, 19	30以下	250以下	
520N級鋼	JIS Z 3313	T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	30以下	250以下	
	JIS Z 3312	YGW11, 15 YGW18, 19	40以下	350以下	
400N級STKR, BCR及びBCP	JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U T490Tx-yMA-U T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	40以下	350以下	
	JIS Z 3312	YGW18, 19	30以下	250以下	
490N級STKR, 及びBCP	JIS Z 3313	T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U	30以下	250以下	

1-7 壁筋の周辺部材への定着

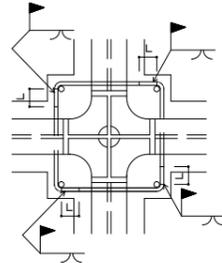


1-8 柱組立筋



1-9 仕口部内の帯筋の加工及び組立

片面溶接の溶接長さ (L) は、鉄筋の呼び名の数値の10倍以上とする。ただし、溶接によらない場合は135° 曲げフックとする。

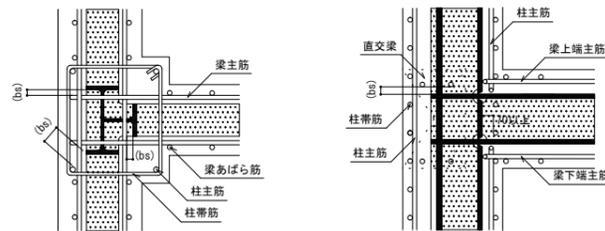


1-10 鉄筋貫通孔の径及び位置

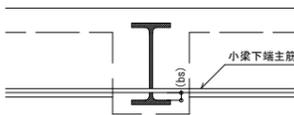
鉄筋の貫通孔径の最大値は、下表による。

鉄筋の呼び名	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
鉄筋貫通孔の径	21	24	28	31	35	38	43	46

鉄骨フランジには、鉄筋貫通孔を設けないものとする。



小梁下端主筋が貫通する場合



小梁下端主筋が貫通しない場合 (単位: mm)



(bs) : 主筋と平行する鉄骨とのあき

1-11 広幅平鋼の取り扱いについて

- (1) 鋼材のフランジ及びフランジに使用する外側スライスプレートは、PL表記であってもFB又はPLとする。
- (2) 鋼材のフランジ及びフランジに使用する外側スライスプレートの適用幅及び厚さは下表による。

幅	厚さ										
	6	9	12	16	19	22	25	28	32	36	40
100	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
125	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
150	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
175	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
200	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
250	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
300	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
350	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
400	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
450					○	○	○	○	○	○	○
500					○	○	○	○	○	○	○

1-12 普通ボルト接合

- (1) もや、鋼線類の取付け用ボルトを普通ボルト接合とする場合は、二重ナットとする。
- (2) フィラープレートの鋼材種別はSS400とする。

1-13 高力ボルト接合

- (1) スライスプレートの鋼材種別はSN-Bとし、引張強さによる区分は、母材と同等とする。
- (2) フィラープレートの鋼材種別はSS400とする。

1-5 フレア溶接を行う場合の溶接長さ

鉄筋又は軽量形鋼にフレア溶接を行う場合の溶接長さ (L) は、ビードの始点 (La) 及びクレーター (Lb) を除いた部分の長さとする。

- L : 片面フレア溶接の場合 10d
- 両面フレア溶接の場合 5d
- La 及び Lb は 1d (軽量形鋼については 1S) 以上
- d : 異形鉄筋の呼び名に用いた数値
- S : 溶接のサイズ

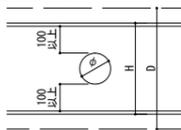


1-6 梁貫通孔補強

(a) 鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造の鉄骨梁ウェブ部に貫通孔を設ける場合は、次による。

- (1) 貫通孔の内径寸法は、鉄骨せいりの1/2以下かつ鉄筋コンクリート梁せいりの1/3以下とする。
- (2) 貫通孔間隔は、両側の貫通孔径の平均値の、鉄骨造で2倍以上、鉄骨鉄筋コンクリート造で3倍以上確保する。

貫通孔の位置の限度 (単位: mm)



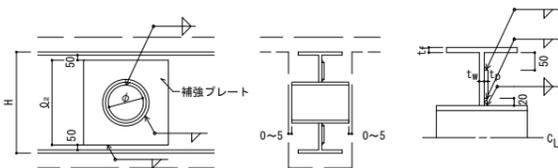
- H : 鉄骨せい
- D : はりせい
- φ : 貫通孔の内径寸法 (φ ≤ H/2かつφ ≤ D/3)

(b) 貫通孔の補強方法は、構造図による。

- (1) 補強プレート法及び補強トラス法の溶接等は、以下による。

補強プレート法

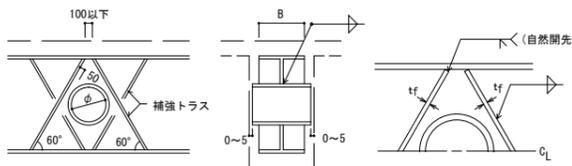
- (1) 補強プレート厚が16mm以上となる場合は、必要な厚さの1/2以上の補強プレートをウェブ両面から溶接する。
- (2) 補強プレートは丸型としても良い。上下フランジとのあき50mmについては施工性を考慮して小さくすることもできる。



φ₁は3φまたはφ₂のうち小さい方とする。(e ≥ Hとする)
e : 材端と補強プレートの間隔

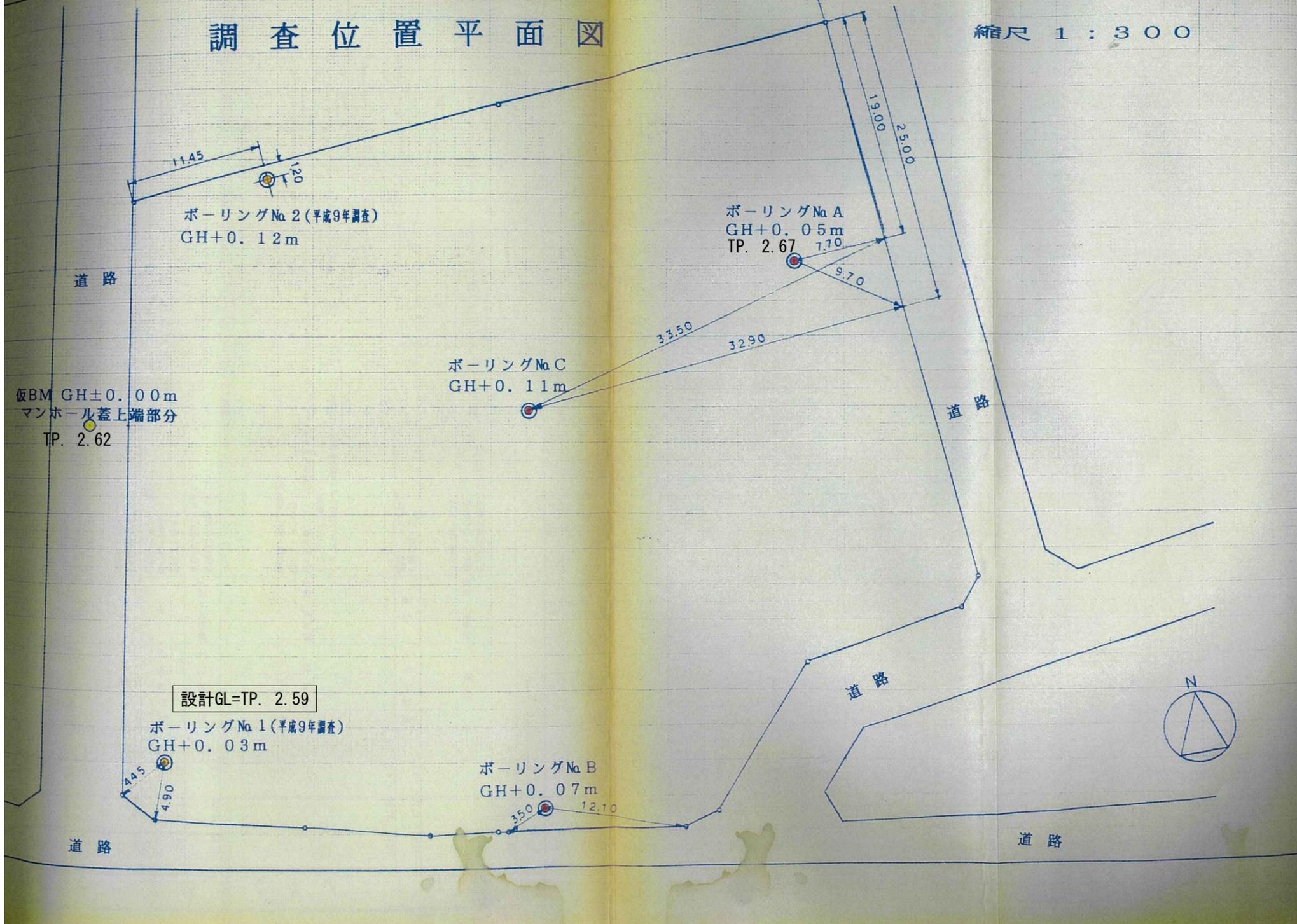
補強トラス法

- (1) スリーブの取付けは、全周隅肉溶接とする。



調査位置平面図

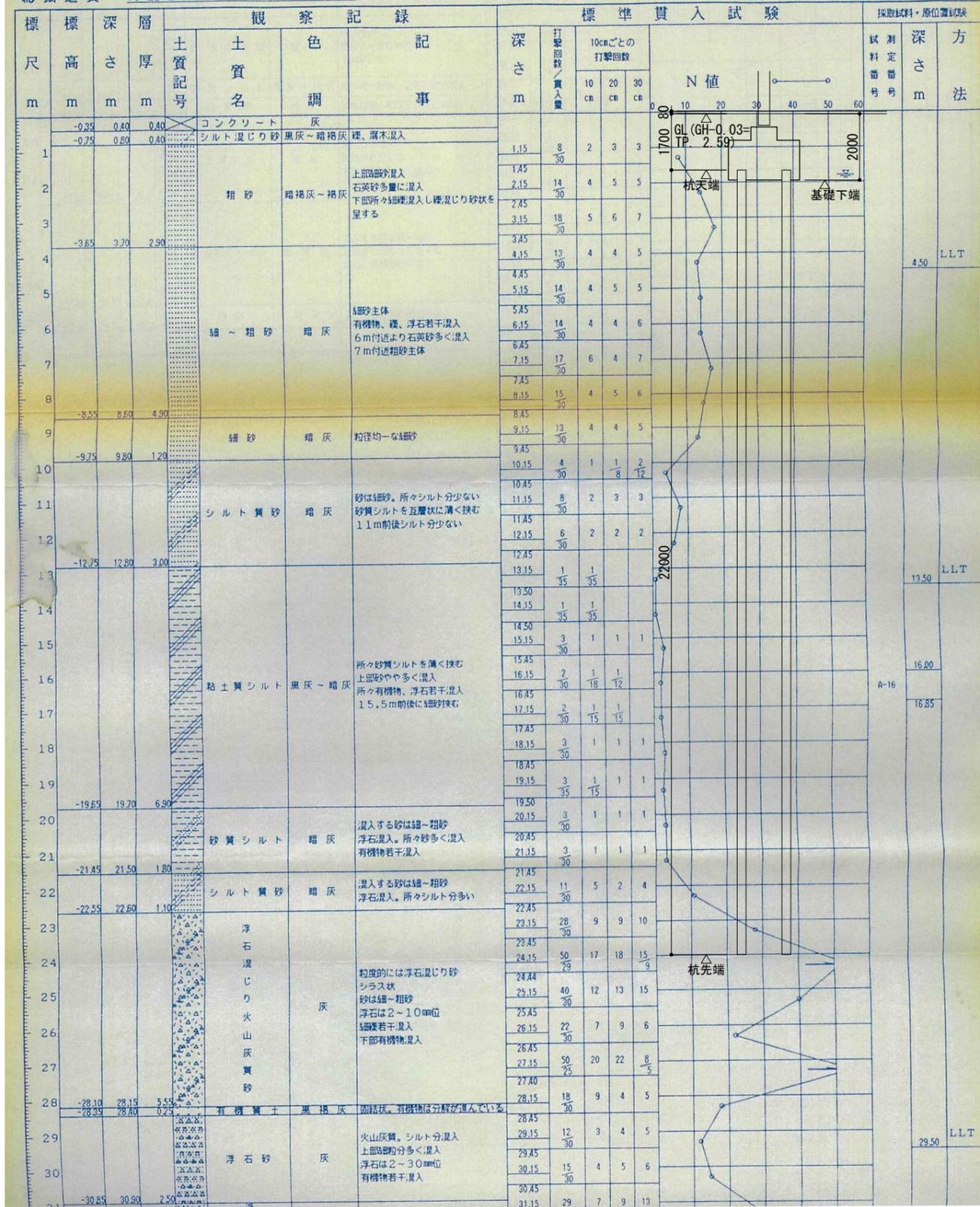
縮尺 1 : 300

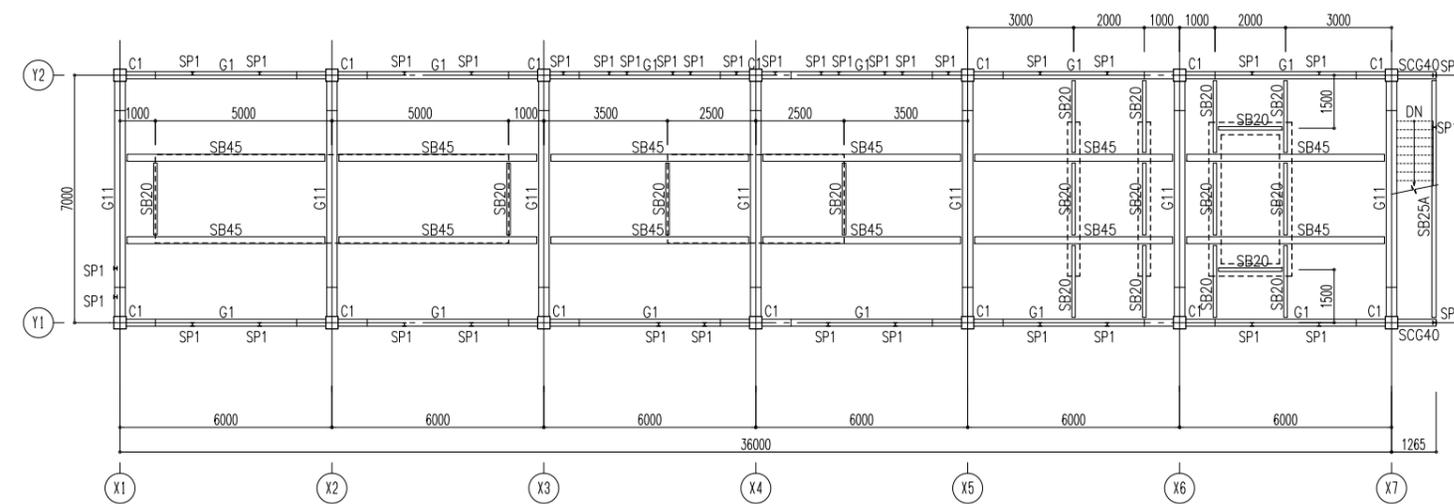


調査位置図

土質柱状図

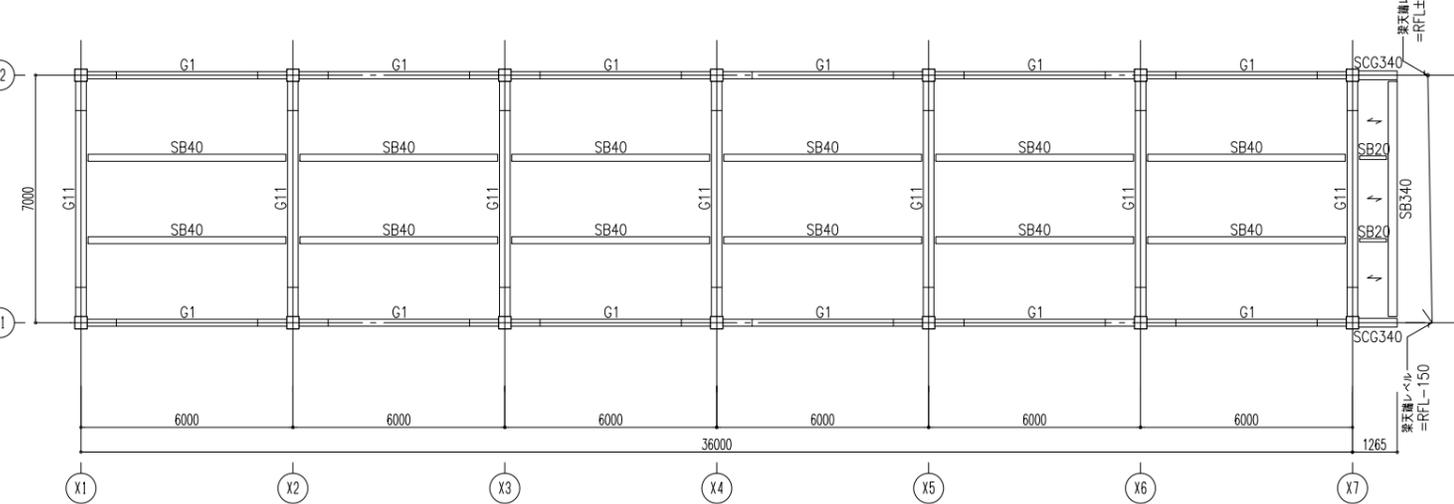
調査名 新八甲荘(仮称)建設工事地質調査委託 調査年月日 平成 10年 6月15日
 調査位置 青森市中央一丁目地内 ~ 平成 10年 6月22日
 地点番号 No.A 標高 GH+0.05 m 機種 KANO KR50Hc-W
 総掘進長 70.21 m 孔内水位 GL -1.80 m 担当者名 工藤良輔





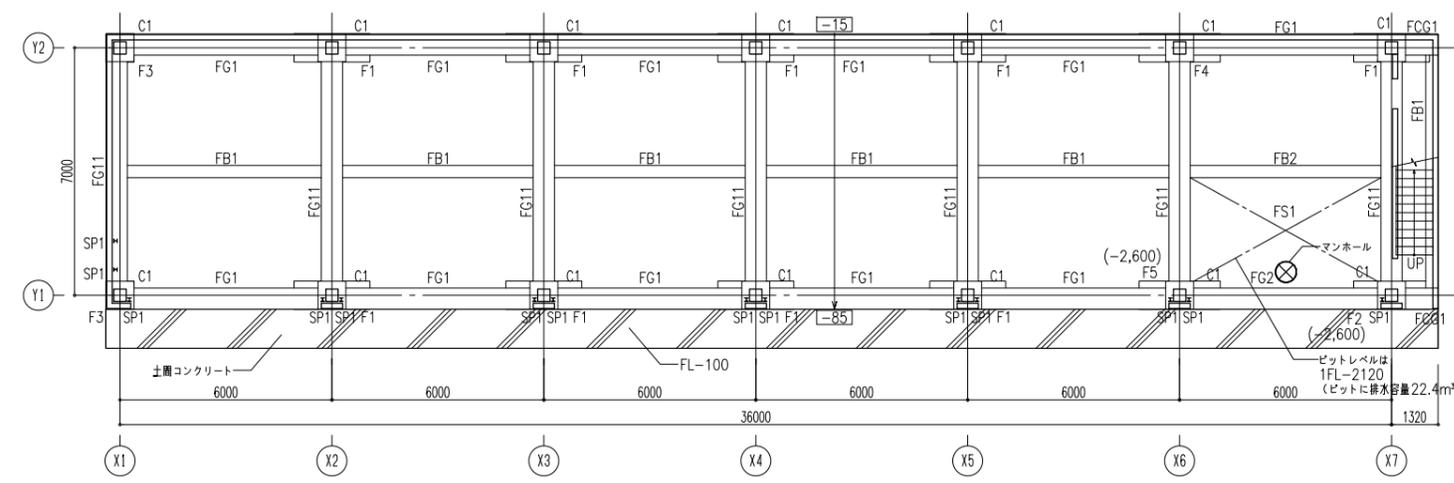
2階伏図 S=1/100 (見下げ図)

- 特記なき限り
1. スラブ符号はS2とする。
 2. スラブ天端レベルは2FL-10とする。
 3. 梁天端はFL-160とする。
 4. □印は設備基礎を示す。
 5. 大梁継手位置は軸組図による。



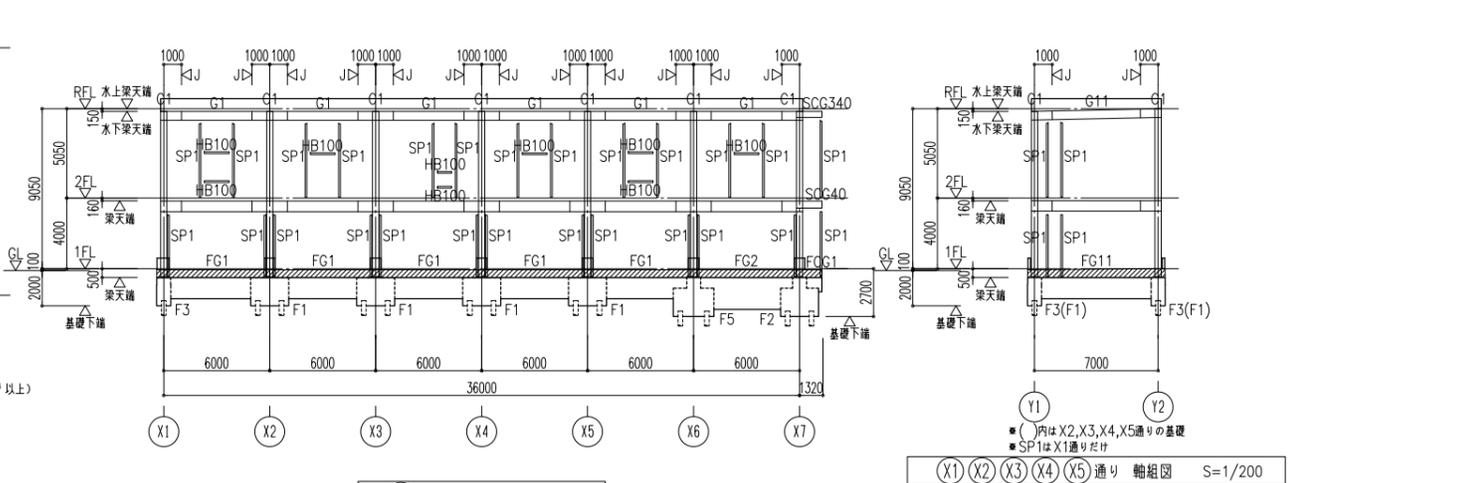
R階伏図 S=1/100 (見下げ図)

- 特記なき限り
1. スラブ符号はS1とする。
 2. 大梁継手位置は軸組図による。
 3. スラブ天端は梁天端+150とする。



基礎伏図 S=1/100 (見下げ図)

- 特記なき限り
1. 1FL=GL+100とする。
 2. スラブ符号:S3
 3. 基礎下端レベルはGL-2,000とする。
 4. スラブ天端レベルは1FL-15とする。
 5. 基礎梁天端は1FL-500とする。
 6. 小梁天端レベルは取り合うスラブの上端レベルとする。
 7. → はスラブ勾配を示す。□内数値は、1FLからのスラブ天端レベルを示す。

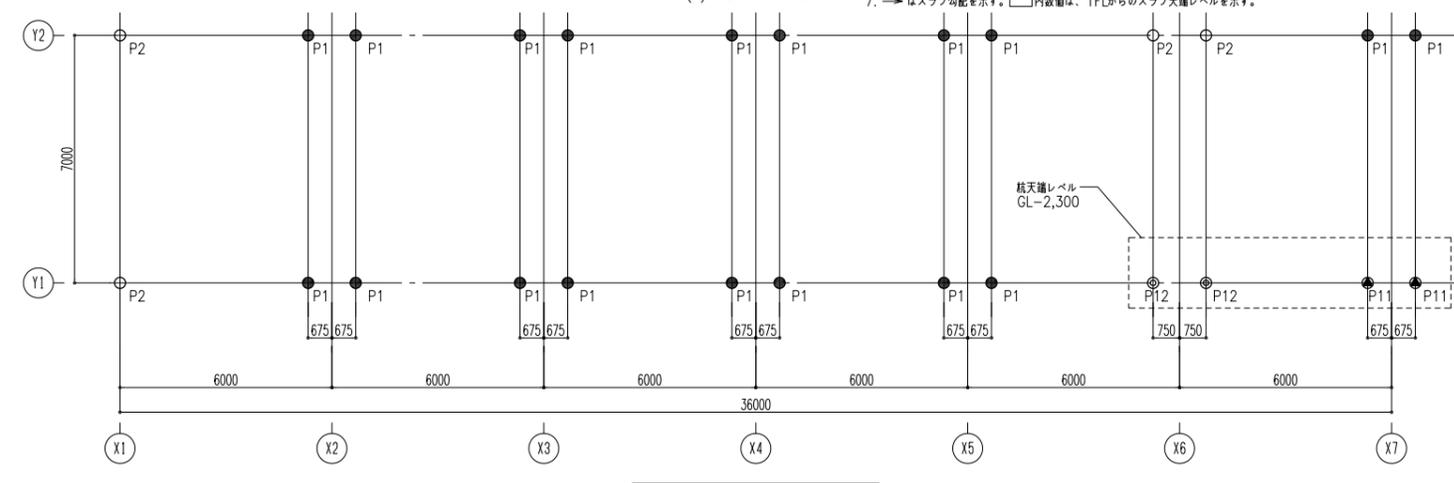


Y1通り 軸組図 S=1/200

- 特記なき限り
1. 柱、梁符号は 上階に倣う。
 2. 梁打増しを示す。
 3. <J> は大梁継手位置を示す。

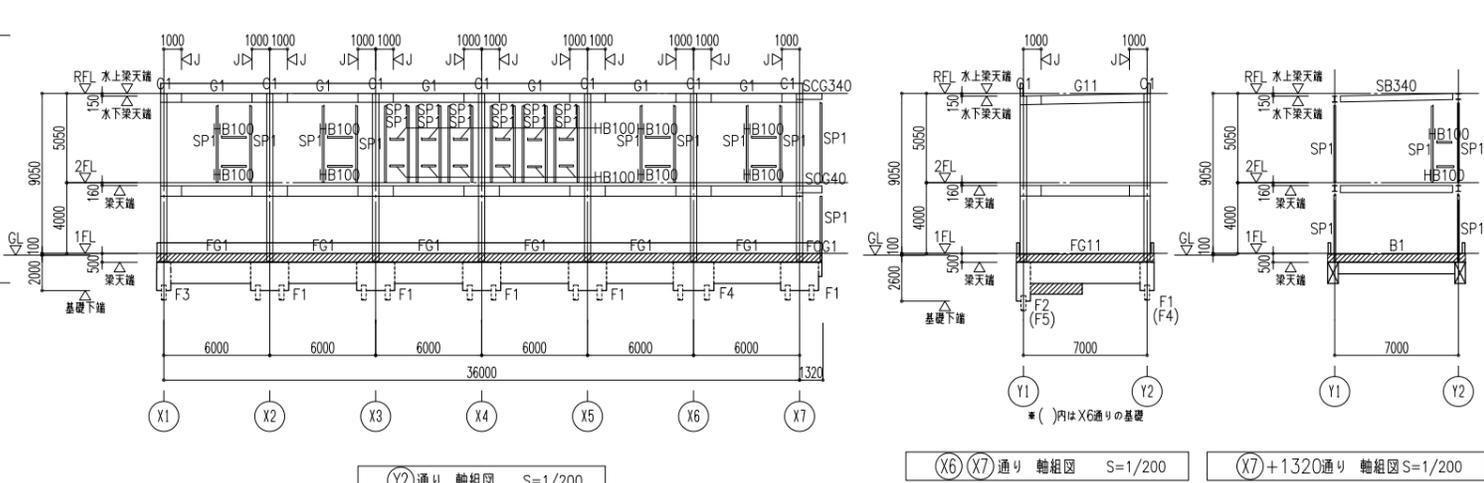
X1(X2) X3(X4) X5通り 軸組図 S=1/200

- 特記なき限り
1. 柱、梁符号は 上階に倣う。
 2. 梁打増しを示す。
 3. <J> は大梁継手位置を示す。



杭伏図 S=1/100 (見下げ図)

- 特記なき限り
1. 杭天端レベルはGL-1,700とする。



Y2通り 軸組図 S=1/200

- 特記なき限り
1. 柱、梁符号は 上階に倣う。
 2. 梁打増しを示す。
 3. <J> は大梁継手位置を示す。

X6(X7)通り 軸組図 S=1/200

- 特記なき限り
1. 柱、梁符号は 上階に倣う。
 2. 梁打増しを示す。
 3. <J> は大梁継手位置を示す。

X7+1320通り 軸組図 S=1/200

- 特記なき限り
1. 柱、梁符号は 上階に倣う。
 2. 梁打増しを示す。
 3. <J> は大梁継手位置を示す。

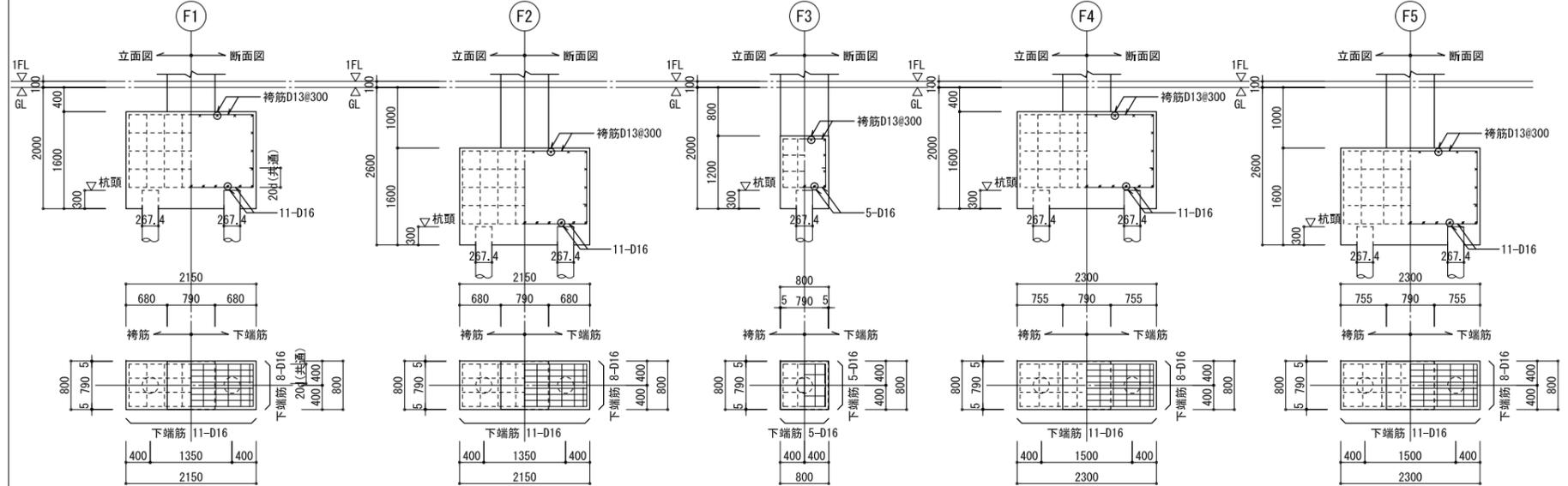
杭リスト

- 特記外 1. 杭工法はN-ECSパイル同等工法（杭先端地盤：砂質地盤（礫質地盤を含む））とする。
2. 特殊部は杭先端から0.50mの部分とする。

符号	呼称	総杭長	肉厚・材質			杭セット数	
			特殊部*	下杭	上杭		
●	P1	267.4 B	22.00m	t=12.7 Dw=798.0	t=8.0 STK490 18.00m	t=9.3 STK490 4.00m	18
○	P2	267.4 C	22.00m	t=12.7 Dw=880.6	t=8.0 STK490 18.00m	t=9.3 STK490 4.00m	4
●	P11	267.4 B	21.40m	t=12.7 Dw=798.0	t=8.0 STK490 18.00m	t=9.3 STK490 3.40m	2
◎	P12	267.4 C	21.40m	t=12.7 Dw=880.6	t=8.0 STK490 18.00m	t=9.3 STK490 3.40m	2
合計						26	

基礎リスト

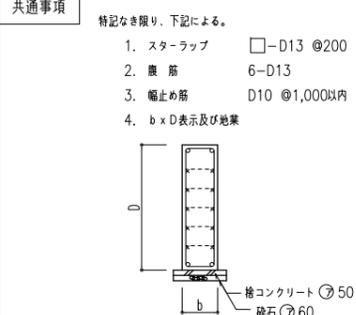
S=1/50



基礎梁リスト

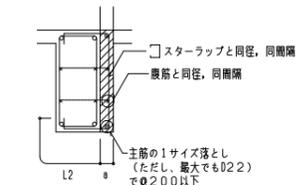
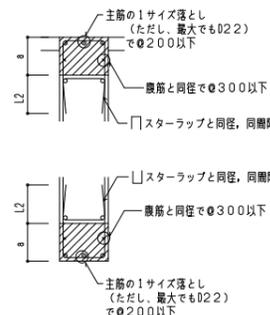
S=1/50

符号	FG1	FG2	FG11	共通事項
位置	全断面	全断面	全断面	
断面				
b x D	600x1200	600x1800	600x1200	
上端筋	6-D29	6-D29	6-D29	
下端筋	6-D29	6-D29	6-D29	
スターラップ	□-D13 @150	□-D13 @150	□-D13 @150	
巻筋	6-D13	8-D13	6-D13	
備考				



5. 打増し補強要領

a>200のとき



(注) a≤200の場合は、鉄筋コンクリート造配筋規程図(3)による。

小梁リスト

S=1/50

符号	FB1		FB2	FCG1	備考
位置	端部	中央	全断面	全断面	
断面					
b x D	350x650		350x1800	600x1200	
上端筋	5-D22	3-D22	3-D22	6-D29	
下端筋	3-D22	5-D22	3-D22	6-D29	
スターラップ	□-D10 @200		□-D10 @200	□-D13 @150	
巻筋	2-D13		8-D13	6-D13	
備考					

スラブリスト

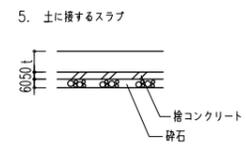
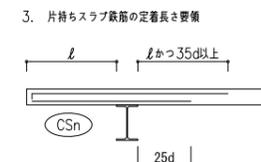
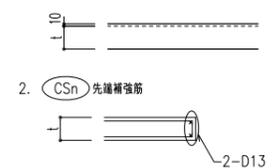
S=1/50

符号	スラブ厚(t)	位置	短辺方向 (片持スラブは片持方向を示す)	長辺方向	備考
S1	150	上端筋	D10 D13 @150	D10 @200	デッキプレート t=1.2
		下端筋	D10 @150	D10 @200	
S2	150	上端筋	D10 D13 @100	D10 @200	デッキプレート t=1.2
		下端筋	D10 @100	D10 @200	
FS1,S3	180	上端筋	D10 D13 @150	D10 @150	
		下端筋	D10 @150	D10 @150	

共通事項

特記なき限り下記による

- 全ゴテ直置き仕上の場合、10mmフカシとする
- CSn 先端補強筋
- 片持ちスラブ鉄筋の定着長と要領
- 2階以上のスラブ下には型枠用デッキプレートを使用する。
- 上に投ずるスラブ



※上端筋については、出寸法と同じ定着長 lかつ35d以上とする。

鉄骨柱リスト	符号	C1
断面形状		
▽RFL	*寸法は軸組図による	
5050	□-350x350x16	
4000	□-350x350x19	
▽1FL	450 △BPL下端	

柱脚下部	 ハイベースNEO同等 GB350-8-42
BxD	790x790
主筋	20-D25
帯筋	□-D13 @100
備考	

共通事項	特記なき限り
1. 鋼材材質	無印: BCR295
2. 鉄骨柱継手要領	右図による。

大梁リスト	符号	G1	G11						
階数	全断面	全断面							
RFL	B]H-500x200x10x16	B]H-488x300x11x18							
2FL	B]H-600x200x11x17	B]H-588x300x12x20							
備考									

鉄骨部材継手表											
部材断面寸法	フランジ継手				ウェブ継手						備考
	H.T.BOLT	S 配-1	S 配-2	S 配-L	H.T.BOLT	N-M	E1	P1	S 配-3		
B]H-488x300x11x18	8-M22	2配-12x300	2配-12x110	440	5-M22	1	5	109	90	2配-12x320x170	
B]H-500x200x10x16	6-M20	2配-12x200	2配-12x80	410	5-M20	1	5	130	60	2配-9x320x170	
B]H-588x300x12x20	8-M22	2配-12x300	2配-16x110	440	7-M22	1	7	114	120	2配-9x440x170	
B]H-600x200x11x17	6-M20	2配-12x200	2配-12x80	410	8-M20	2	4	120	120	2配-9x440x290	

共通事項

① 継手に於ける基本事項

- 継手部のボルト本数、スライズプレートは、端部・中央の小さい方の母材断面により決定し、継手表より選択する。
- 継手表に示すボルト本数は、継手面の片側について示す。
- 継手部のクリアランスは、10mmとする。
- 継手部に於いて母材の板厚差が、1mmを越える場合は、フィラープレートにて板厚を調整する。(フィラープレートの材質は、SS400とする)
- 継手表に明記なき場合は、詳細図による。
- 継手表と詳細図が異なる場合は、詳細図を優先する。
- 鉄骨材質 無印: SS400
B]印: SN400B
C]印: SN490B
- スライズプレートの材質は、母材材質と同等とする。
- 高力ボルトは、S10Tとする。溶融亜鉛メッキ部はF8T(溶融亜鉛メッキ高力ボルト)とする。

② 高力ボルトピッチの仕様

呼径	ピッチ(P)	はしあき(e)	孔径
M22	60	40	24.0
M20	60	40	22.0
M16	60	40	18.0

③ 外部露出鉄骨は溶融亜鉛めっきとする。

フランジ接合部

ウェブ接合部

Bf	G1	G2	E2	備考	Bf	G1	G2	E2	備考
150	90	-	30		250	150	-	50	
175	105	-	35		300*	150	40	35	P2=45
200	120	-	40		350	140	70	35	
225	135	-	45		400	140	90	40	

*印は、千鳥配列とする。

頭付きスタッド打設要領

特記なき限り
コンクリートスラブの取り付く鉄骨梁フランジ面に頭付きスタッドを溶接する。
但し、フランジ継手系板上には不要とし、梁上のスタッド本数が減らないようピッチを調整する。

フランジ幅(B)	G	頭付きスタッド (JIS B 1198規格品)
Bf ≤ 150	-	1-16φ @200
150 < Bf < 250	-	1-19φ @200
250 ≤ Bf < 300	100	2-19φ @200
350	150	2-19φ @200
400	200	2-19φ @200
450	250	2-19φ @200

頭付スタッド L=100

頭付スタッド L=150

50 ≤ H ≤ 100の場合

鉄骨大梁・固柱・鉄骨小梁ピン接合タイプ										
1. 鋼材材質 SS400										
符号	部材断面寸法	継手タイプ	ウェブ継手						備考	
			H.T.BOLT	N	M	P1	配-A	2S 配-B		
SB20	H- 200x 100x5.5x 8	A	2-M16	1	2	60	配-9	-		
SB340	H- 340x 250x 9x14	A	4-M20	1	4	60	配-12	-		
SB40	H- 400x 200x 8x13	A	4-M20	1	4	60	配-12	-		
SB45	H- 450x 200x 9x14	A	5-M20	1	5	60	配-12	-		
SB25A	H- 250x 125x 6x 9	A	2-M16	1	2	90	配-9	-	カバー-PL-16	
SCG340	B]H- 340x 250x 9x 14	-	-	-	-	-	-	-	剛接	
SCG40	B]H- 400x 200x 8x 13	-	-	-	-	-	-	-	剛接	
SP1	H- 100x 100x 6x 8	A	2-M16	2	1	60	配-6	-	BPL-16x150x150 ABOLT 2-M16 L=400 (Wナット、フック付き)	
HB100	H- 100x 100x 6x 8	A	2-M16	2	1	60	配-9	-	継ぎ手	
ササラ	PL-300x 12	A	3-M20	1	3	90	配-6	-	BPL-16x100x250 ABOLT 3-M16 L=400 (Wナット、フック付き)	

階段柱脚詳細図

40 85 85 40
BPL-16x100x250
ABOLT 3-M16
L=400 (Wナット、フック付き)

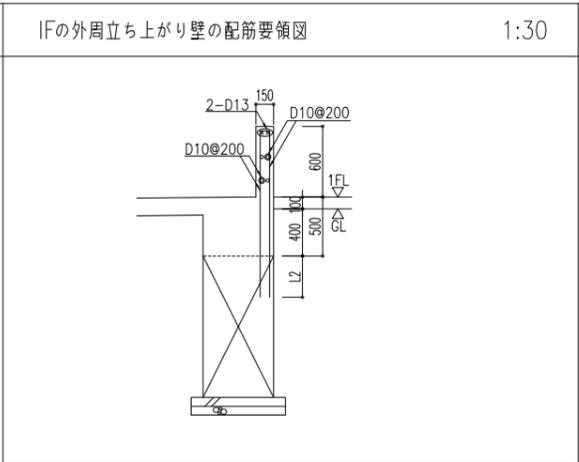
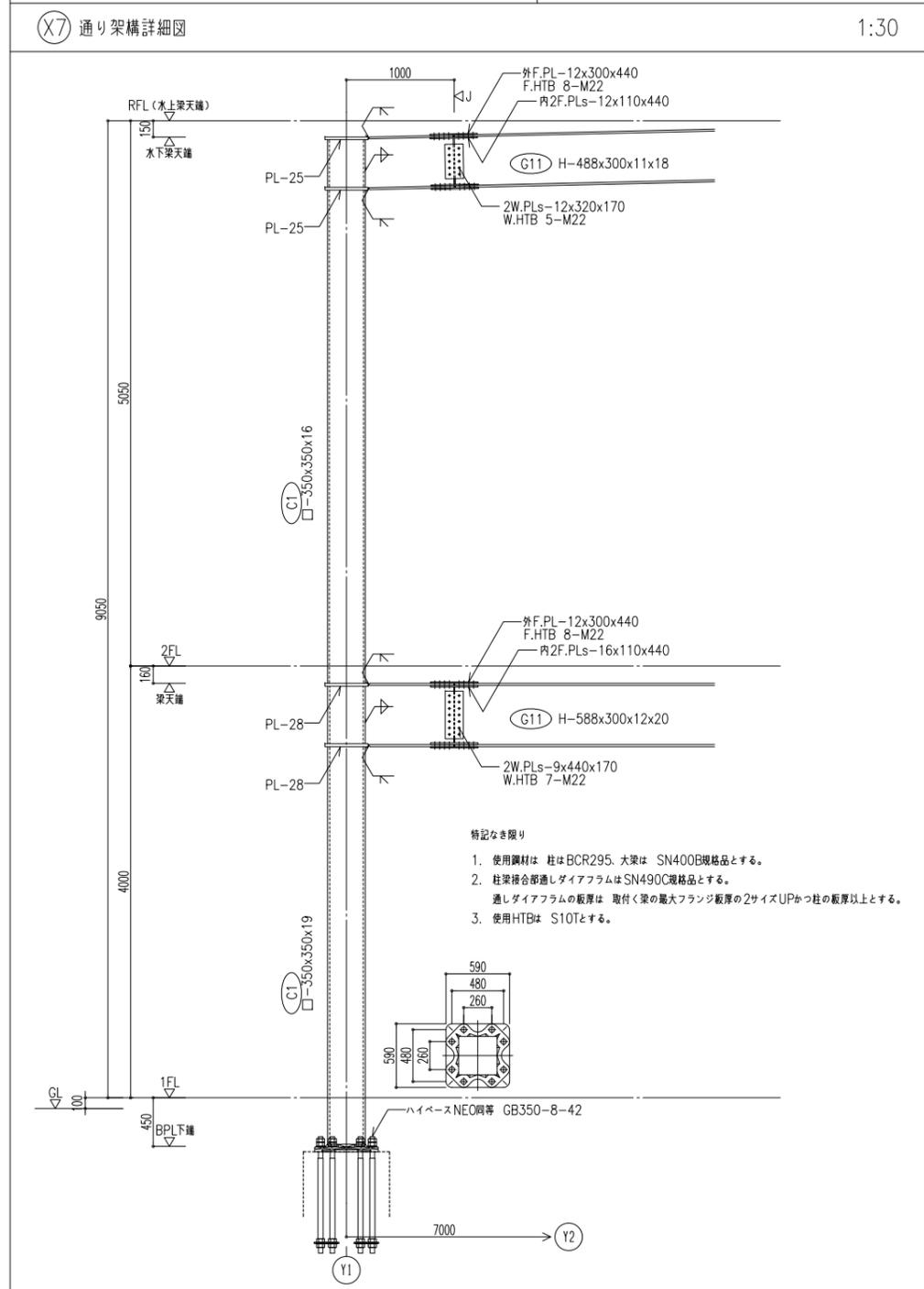
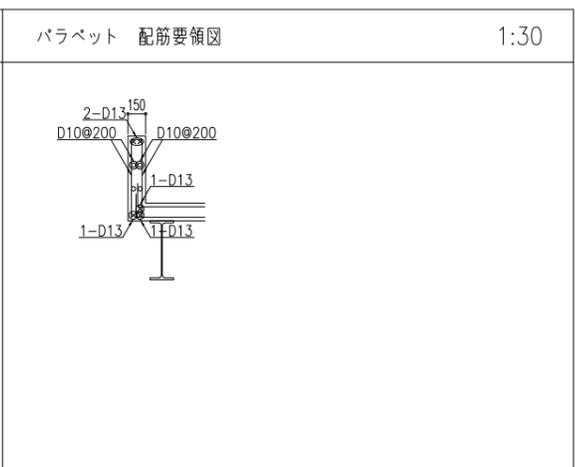
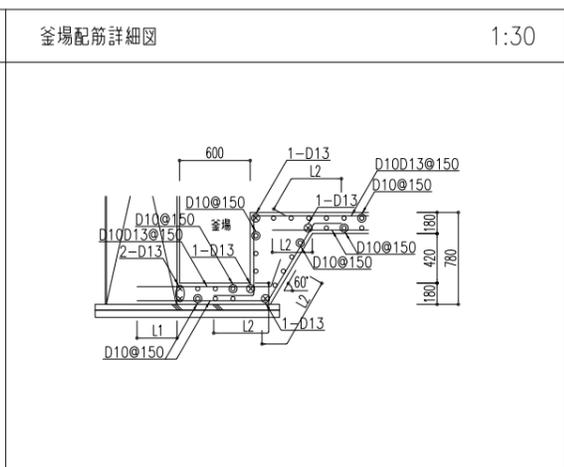
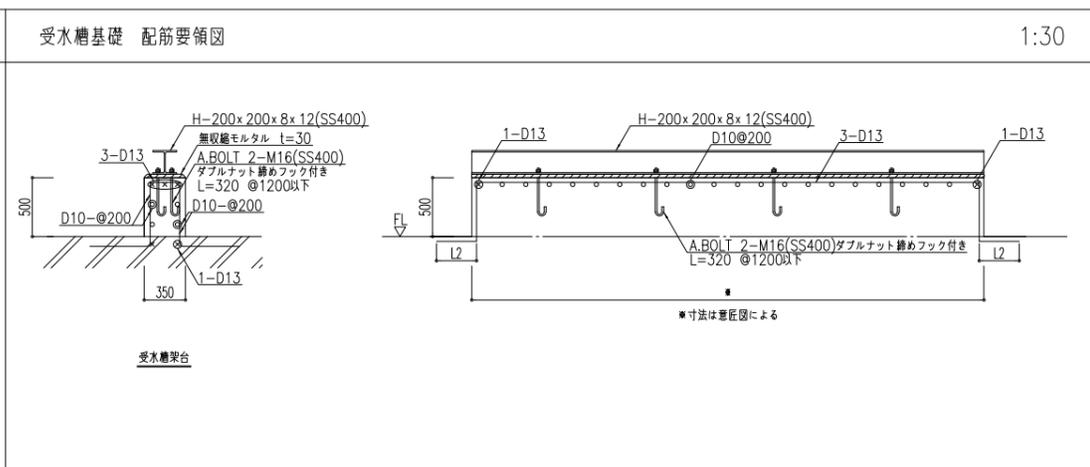
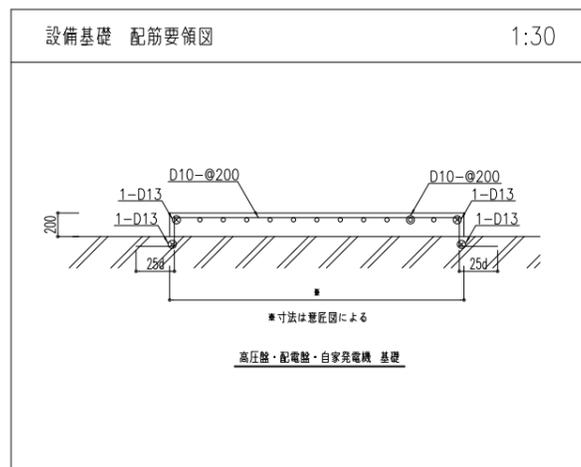
CPL-6
100
ルーズホール
ササラ
PL-300x12

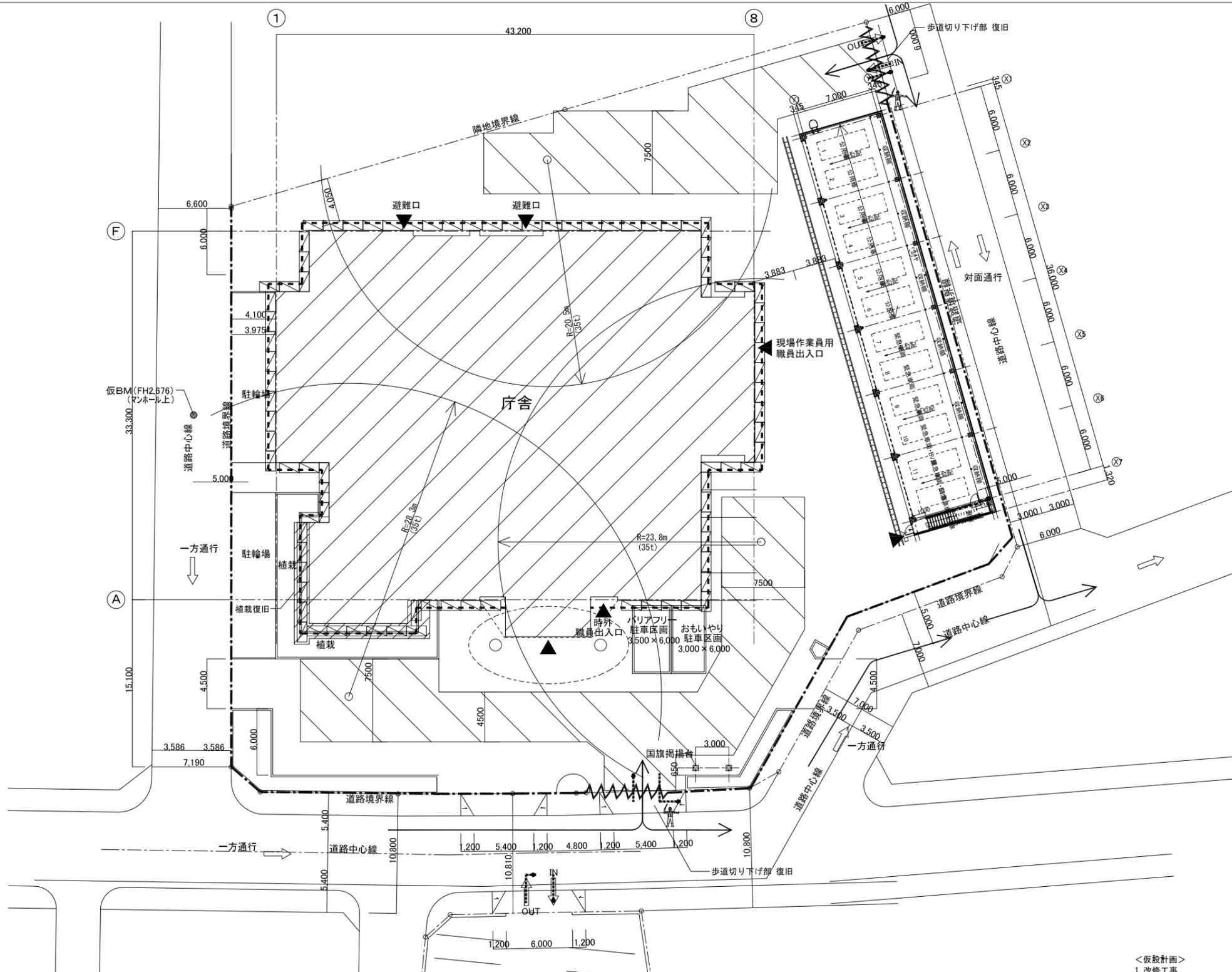
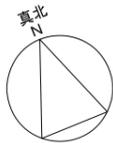
TYPE A TYPE B TYPE C

TYPE D TYPE E TYPE F

SB25A

カバー-PL-16(SS400)





仮設計画図 (1) S=1/200

- 仮囲 成形鋼板 H=3000
 - ガードフェンス H=2000
 - - - パネルゲート W 7200 x H 4500
 - ▨ 鉄板養生 W 1500 x L 6000 x t 22
 - ↑ 誘導員
 - - - 外部足場 W 900 x L 1800 x H 1700
 - 外部メッシュシート張
- <資機材場量>
- ∠ 35tクラスラフタークレーン R=28.3m P=0.95t (南側)
 - R=23.8m P=0.75t (東側), R=20.5m (北側)

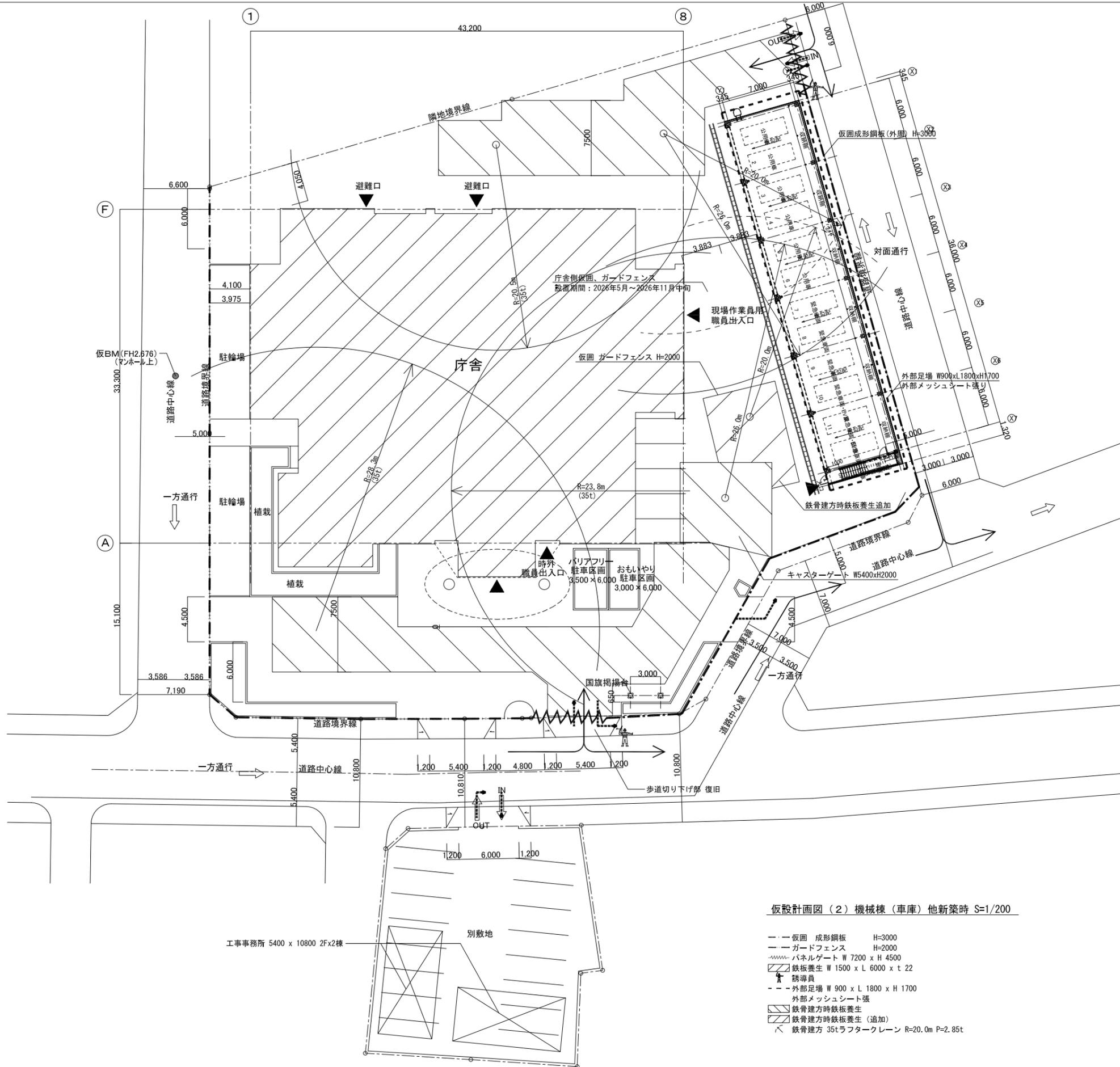
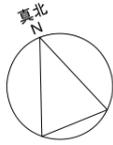
<仮設計画>

1. 改修工事

- ① 建屋外周は、落下防止・飛散防止上から全面足場とする。外部メッシュシート張り。
- ② 搬出入ゲートは、南側に1ヶ所、北東側に1ヶ所設置する。歩道切下げ部は、埋設管の防護のため、補強する。
- ③ 工事事務所は、南側別敷地に設置する。
- ④ 搬出入ゲートには、誘導員を配置する。常駐は1ヶ所とし、搬出入の多いコンクリート打設、土工事（機械棟）、外構工事等は増員する。

2. 機械棟車庫棟工事

- ① 杭工事、掘削工事、躯体工事、鉄骨建方等重機作業が多くなるので、安全管理上、作業エリアを明確にし、関係者以外が立入らぬ様区画とする。
- ② 倉舎側足場との間に安全通路を設置する。

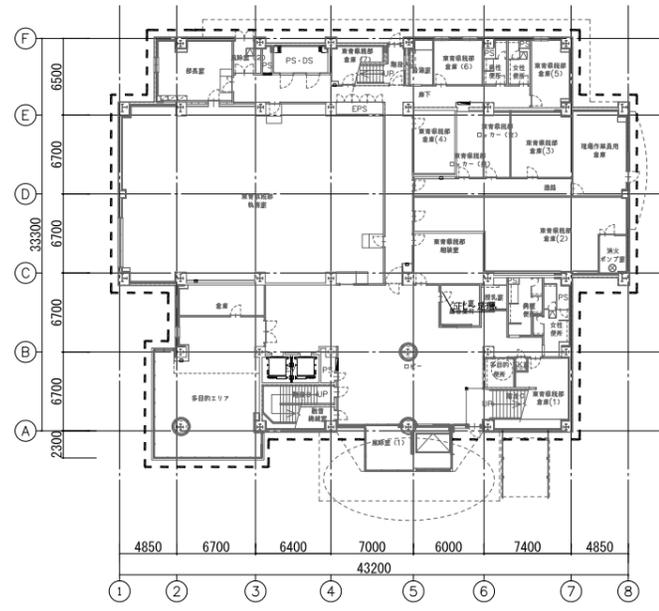


仮設計画図(2) 機械棟(車庫)他新築時 S=1/200

- 仮囲 成形鋼板 H=3000
- ガードフェンス H=2000
- パネルゲート W 7200 x H 4500
- ▨ 鉄板養生 W 1500 x L 6000 x t 22
- ▲ 誘導員
- - - 外部足場 W 900 x L 1800 x H 1700
外部メッシュシート張り
- ▨ 鉄骨建方時鉄板養生
- ▨ 鉄骨建方時鉄板養生 (追加)
- < 鉄骨建方 35tラフタークレーン R=20.0m P=2.85t

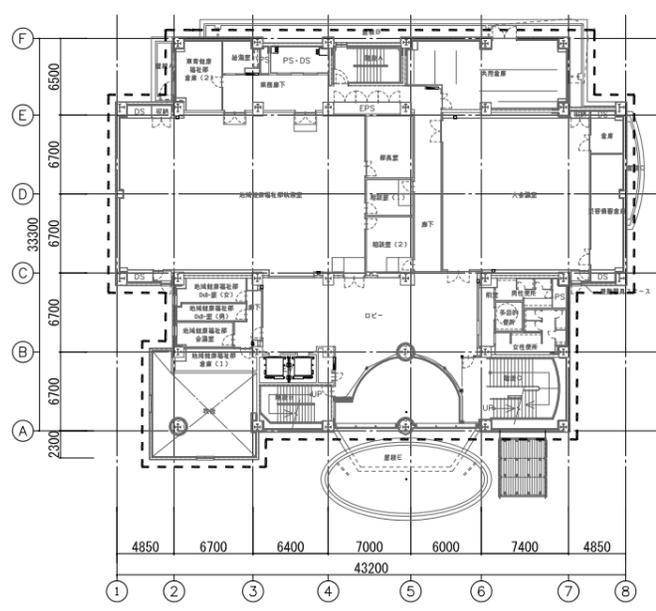
工事事務所 5400 x 10800 2F x 2棟

別敷地



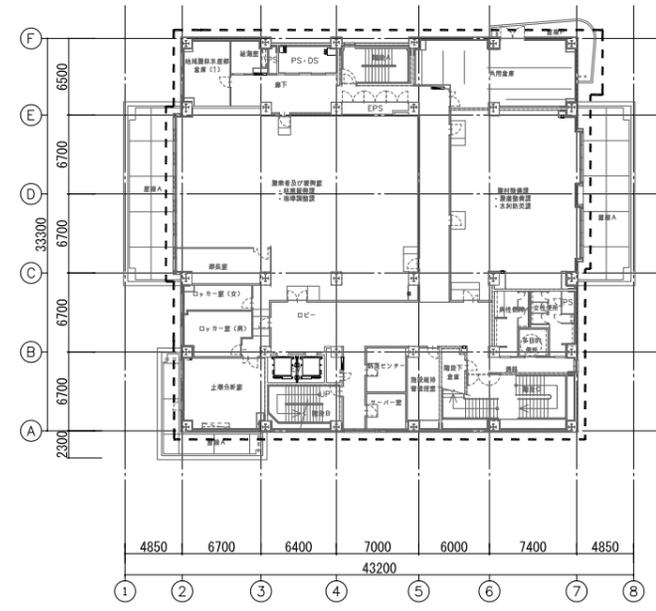
1階平面図 S:1/300

---外部足場 W 900 x L 1800 x H 1700
外部メッシュシート張 L=160m



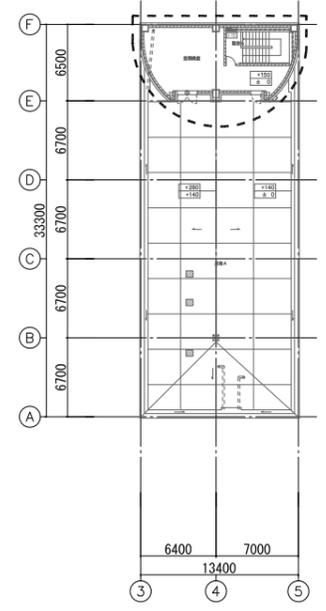
2階平面図 S:1/300

---外部足場 W 900 x L 1800 x H 1700
外部メッシュシート張 L=168m



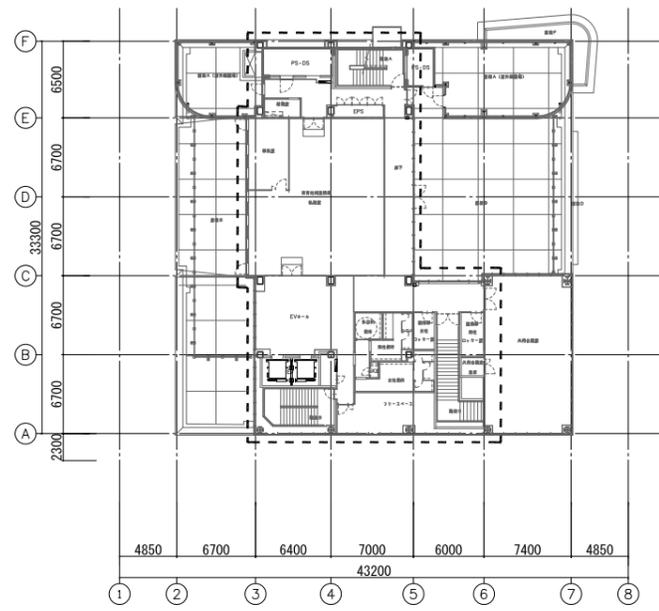
3階平面図 S:1/300

---外部足場 W 900 x L 1800 x H 1700
外部メッシュシート張 L=144m



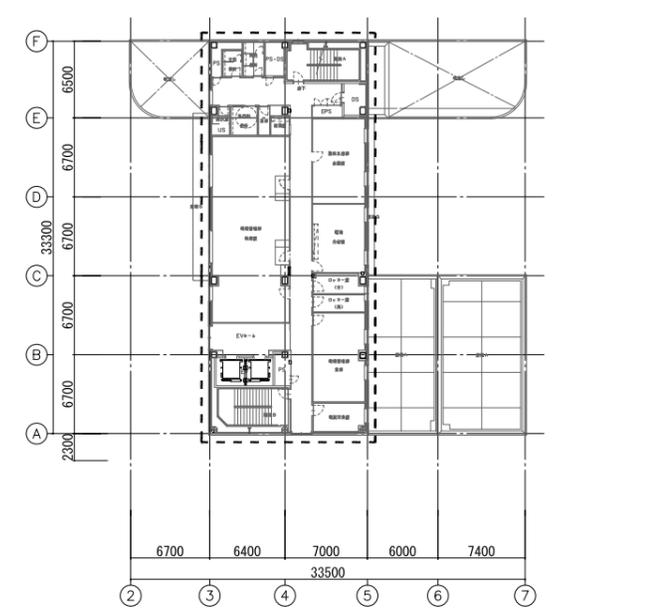
PH階平面図 S:1/300

---外部足場 W 900 x L 1800 x H 1700
外部メッシュシート張 L=42m



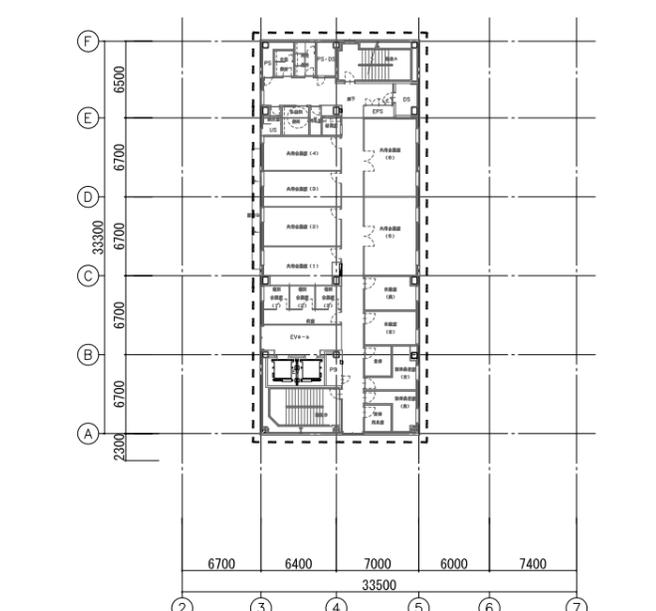
4階平面図 S:1/300

---外部足場 W 900 x L 1800 x H 1700
外部メッシュシート張 L=114m



5階平面図 S:1/300

---外部足場 W 900 x L 1800 x H 1700
外部メッシュシート張 L=99m



6階平面図 S:1/300

---外部足場 W 900 x L 1800 x H 1700
外部メッシュシート張 L=99m